

平成 2 7 年

県民健康・栄養調査結果の概要

平成 2 9 年 1 月 2 3 日

千葉県健康福祉部健康づくり支援課

目次

	(頁)
I 調査の概要	1
II 結果の概要	
(1) 体型に関する状況	
1. 肥満とやせの状況	7
2. 体重の増減の状況	10
(2) 栄養・食生活に関する状況	
1. 朝食欠食状況	11
2. 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の状況	14
3. 主食・主菜・副菜のうち組み合わせて食べられないもの	15
4. 野菜摂取量	16
5. 朝食欠食の有無別野菜摂取量	17
6. 食塩摂取量	18
(3) 身体活動・運動に関する状況	
1. 運動習慣者の状況	24
2. 歩行数の状況	25
(4) 飲酒に関する状況	
1. 飲酒の状況	26
(5) 生活習慣病等に関する状況	
1. 生活習慣病の状況	28
2. 健康状態の自覚	30
(6) 食習慣の状況	
1. 食べる速度	31
2. 満腹になるまで食べるについて	32
3. 就寝前2時間以内の夕食について	32
4. 夕食後の間食について	33
5. 清涼飲料の摂取頻度について	33
6. 家庭の煮物などの味付けについて	34
7. 汁物（みそ汁・スープ類）を飲む習慣	34

8. 単品料理（丼物、カレーライス、めん類など）を食べる習慣	35
9. めん類の汁を飲む習慣	35
10. 塩蔵品（塩さけ、たらこ、佃煮など）を食べる習慣	36
11. 調味料をかける習慣	36
12. 漬物を食べる習慣	37
13. 食塩摂取量の知識について	37
14. 食品の食塩の表示の活用状況	39
15. 減塩の取り組み状況	40
16. 野菜摂取量の知識について	41
17. 野菜の摂取状況（自覚）	42
18. 食を通じたコミュニケーションの状況	43
19. 食習慣と体型及び食塩摂取量	44

（7）睡眠・喫煙・歯の状況

1. 睡眠の状況	48
2. 喫煙の状況	50
3. 現在習慣的に喫煙している者の喫煙本数	52
4. 現在習慣的に喫煙している者における禁煙の意思	55
5. 受動喫煙の環境	56
6. 歯の本数の状況	58

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、県民の健康づくりを効果的に推進するため、県民の栄養摂取量及び生活習慣の状況等を明らかにし、広く健康増進施策等に必要な基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の対象

調査の対象は、千葉県内の世帯及び世帯員とし、平成 26 年国民生活基礎調査地区及び平成 22 年国勢調査地区より無作為に抽出した 21 単位区に、平成 27 年国民健康・栄養調査指定地区として厚生労働大臣から指定された 14 単位区を加えた 35 単位区内の世帯（718 世帯）及び世帯員（満 1 歳以上、1,814 人）を標本とした。

以下の世帯及び世帯員は、厚生労働省が実施する「国民健康・栄養調査」と統一して除外した。

<世帯>

- ・世帯主が外国人である世帯
- ・3 食とも集団的な給食を受けている場合
- ・平成 26 年国民生活基礎調査地区に設定された単位区より抽出された調査地区において、国民生活基礎調査への協力が得られなかった世帯
- ・本調査の依頼をしたが協力を得られなかった世帯
- ・全く面会できないなど調査実施不能であった世帯

<世帯員>

- ・1 歳未満
- ・在宅患者で疾病等の理由により流動状の食品や薬剤のみを摂取又は投与されている場合など通常の食事をしていない者
- ・調査期間を通じて調査対象世帯に在住していない者（出張、入院、単身赴任者、出稼ぎ者など）
- ・厚生労働省が実施する下記の調査の対象であることが判明した者
 - ※「21 世紀出生児縦断調査」（平成 13 年 1 月 10 日から同月 17 日の間および 7 月 10 日から同月 17 日の間、平成 22 年 5 月 10 日から同月 24 日の間に生まれた子供であり、当該調査の対象となっている者）
 - ※「中高年者縦断調査」（平成 27 年 10 月末現在で 60 歳から 69 歳であり、当該調査の対象となっている者）

3 調査項目及び調査の時期

（1）調査項目

本調査は、身体状況調査、栄養摂取状況調査及び生活習慣調査からなり、調査項目は以下のとおりである。

1) 身体状況調査

- ア．身長・体重（満 1 歳以上）
- イ．腹囲（満 6 歳以上）
- ウ．1 日の身体活動量（歩行数）（満 20 歳以上）（栄養摂取状況調査票に記録）
- エ．糖尿病診断及び治療の有無（満 20 歳以上）
- オ．医師からの運動禁止の有無（満 20 歳以上）
- カ．運動習慣：1 週間の運動日数、運動を行う日の平均運動時間、運動の継続年数（満 20 歳以上）

2) 栄養摂取状況調査（満 1 歳以上）

- ア. 世帯の状況：氏名、生年月日、性別、妊婦（週数）・授乳婦の別、世帯主との続柄、仕事の種類
- イ. 食事状況：朝・昼・夕食別、家庭食・外食・欠食等の区分
- ウ. 食物摂取状況：料理名、食品名、使用量、廃棄量、世帯員ごとの案分比率(朝・昼・夕・間食別)

3) 生活習慣調査①及び②（満 20 歳以上）

食生活、食習慣、食に関する意識、身体活動、休養（睡眠）、飲酒、喫煙、歯の健康等に関する生活習慣全般を質問紙調査により把握した。

(2) 調査時期

身体状況調査：平成 27 年 11 月中

栄養摂取状況調査：平成 27 年 11 月中の 1 日（日曜日及び祝日は除く）

生活習慣調査：平成 27 年 11 月中

4 結果の集計

提出された調査票は、県立保健医療大学健康科学部栄養学科の協力を得て、集計を行った。

(1) 記述統計

平均値または割合、標準偏差、標準誤差、パーセンタイル（連続変数のみ）の算出は「地域健康・栄養調査基本集計 ver.1.52」ソフトウェア（開発 国立保健医療科学院 横山徹彌）を使用し、クラスター抽出法による標本抽出を考慮した算出を行った。

本調査で観察された結果から、千葉県民（20 歳以上）の実際の状況を推定するため、次のような調整（重み付け）をして統計量を算出した。

- ①年齢階級別は、保健所圏域ごとの標本数の偏りを調整するため、保健所別に抽出率の逆数で重みづけをして算出した。
- ②県全体の推定値（p3 参照）を得るために①に加えて平成 27 年の千葉県の男女別人口構成に調整した。
- ③年次比較及び全国との値の比較には、①に加えて平成 22 年国勢調査の全国男女計の人口構成に調整した。

(2) 年次比較及び全国との値の比較

前回調査値（平成 22 年）との比較は、20 歳以上の点推定値（平均値または割合）と標準誤差から、2 群の差の Z 検定を行った。Z 検定には、「地域健康・栄養調査各種計算ツール」（作成 国立保健医療科学院 横山徹爾）を使用した。

(3) 群間比較

朝食状況別等の群間における栄養素等及び食品群別摂取量の比較は、20 歳以上の対象者データを用い、共分散分析により年齢、保健所による影響を調整した調整平均を算出し、調整平均の t 検定を行った。

食習慣別の BMI 及び食塩摂取量の比較は、妊娠・授乳中の者を除外し、生活習慣調査における該当設問に欠損がなく、栄養摂取状況調査を実施し、身長及び体重の測定がある 20 歳以上の対象者データで行った。群間の比較は t 検定を用いた。また、食塩摂取過剰につながる 6 つの食習慣の該当総

数により、人数がほぼ等しくなるよう 3 群（0 つ、1 つ、2 つ以上）に分けての食塩摂取量の比較は、食塩摂取量を目的変数、各群の順序番号を説明変数とした線形回帰分析を行い、回帰係数の P 値により傾向性の検定を行った。

これらの群間比較には、JMP Pro バージョン 12 (SAS Institute Inc.) を使用した。

（４）有意水準

各検定の有意水準は 5% を用いた。有意差があった場合は、結果の概要における集計結果の評価に係るコメントを「有意に高い（低い、増加した、減少した）」「有意な傾向性がみられた」と表記した。

県全体の推定値の計算方法

県全体の推定値を得るためには、保健所別に抽出率の逆数で重み付けし、さらに平成 27 年の県の男女別人口構成に調整した。すなわち、保健所 h (1,2,3.....16)、年齢階級 a (= 1,2,3...M) の重み $W_{h,a}$ を

$$W_{h,a} = \frac{1}{P_h} \times \frac{N_a}{\sum_{i=1}^{16} \left[\frac{1}{P_i} \times n_{i,a} \right]}$$

として集計を行った。ここで、 P_h は保健所 h での抽出率、すなわち、

$$P_h = \frac{\text{保健所 } h \text{ の全標本数}}{\text{保健所 } h \text{ の全人口}}$$

であり、 N_a は年齢階級 a の県人口、 $n_{i,a}$ は保健所 i での年齢階級 a の標本数である。

（年次推移、国との比較の値には、平成 22 年国勢調査の全国男女計の人口構成を用いて算出している）

5 解析対象客体の概要

(1) 調査世帯数

無作為抽出された調査地区に在住する全世帯 718 世帯を調査対象世帯とし、そのうち 508 世帯で調査を実施した。

(2) 対象者数

栄養摂取状況調査、身体状況調査、生活習慣調査における実施者数（いずれかの調査を 1 つでも実施した者）は、1,217 人であり、これを解析対象者とした。

調査実施状況は、次のとおりである。

ア. 二次医療圏・保健所別 調査実施状況

二次医療圏	保健所	調査対象世帯数	実施世帯数	調査対象者数	調査実施者数	実施状況					実施率
		(世帯)	(世帯)	(人)	(人)	栄養摂取状況	身体状況	歩数	生活習慣①	生活習慣②	
千葉	千葉市	62	36	130	72	51	68	45	68	68	55.4%
東葛南部	習志野	34	26	98	69	61	69	53	57	57	70.4%
	市川	67	52	160	111	101	102	98	104	104	69.4%
	船橋市	24	10	78	30	28	25	16	24	17	38.5%
	小計	125	88	336	210	190	196	167	185	178	62.5%
東葛北部	松戸	50	35	119	78	72	78	50	61	61	65.5%
	野田	42	31	112	80	66	73	51	67	67	71.4%
	柏市	44	29	114	63	48	52	35	60	60	55.3%
	小計	136	95	345	221	186	203	136	188	188	64.1%
印旛	印旛	48	34	146	93	81	87	62	67	68	63.7%
香取海匠	香取	47	22	61	28	27	27	23	26	26	45.9%
	海匠	34	26	87	64	52	63	42	55	55	73.6%
	小計	81	48	148	92	79	90	65	81	81	62.2%
山武長生夷隅	山武	40	32	102	76	76	76	59	68	68	74.5%
	長生	55	43	145	108	103	107	81	86	87	74.5%
	夷隅	44	32	108	81	79	81	51	62	62	75.0%
	小計	139	107	355	265	258	264	191	216	217	74.6%
安房	安房	44	42	117	104	98	104	75	95	95	88.9%
君津	君津	44	28	128	76	74	76	59	62	62	59.4%
市原	市原	39	30	109	84	73	79	59	66	66	77.1%
総数		718	508	1,814	1,217	1,090	1,167	859	1,028	1,023	67.1%

※実施率は分母を調査対象者数、分子は調査実施者数

イ．性・年齢階級別 調査実施状況

		総数	1-6 歳	7-14 歳	15-19 歳	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70歳 以上
全 体	調査実施者総数	1,217	52	78	48	83	107	158	164	219	308
	栄養摂取	1,090	49	70	45	75	100	132	147	197	275
	身体状況	1,176	50	75	46	79	104	149	160	214	299
	身長・体重計測	1,167	50	75	46	79	103	149	159	213	293
	腹囲計測	1,096	8	69	45	73	101	148	159	207	286
	運動習慣	816	-	-	-	62	83	116	119	179	257
	歩数	859	-	-	-	64	90	118	145	191	251
	生活習慣①	1,028	-	-	-	81	107	158	161	217	304
	生活習慣②	1,023	-	-	-	82	106	156	162	217	300
男 性	調査実施者総数	564	22	36	27	38	49	73	82	101	136
	栄養摂取	513	22	33	27	35	48	61	74	89	124
	身体状況	549	22	35	25	37	49	68	82	97	134
	身長・体重計測	546	22	35	25	37	49	68	82	97	131
	腹囲計測	513	2	30	25	34	49	68	82	93	130
	運動習慣	373	-	-	-	28	38	47	61	79	120
	歩数	400	-	-	-	31	41	53	72	86	117
	生活習慣①	474	-	-	-	37	49	73	81	100	134
	生活習慣②	472	-	-	-	37	48	72	81	101	133
女 性	調査実施者総数	653	30	42	21	45	58	85	82	118	172
	栄養摂取	577	27	37	18	40	52	71	73	108	151
	身体状況	627	28	40	21	42	55	81	78	117	165
	身長・体重計測	621	28	40	21	42	54	81	77	116	162
	腹囲計測	583	6	39	20	39	52	80	77	114	156
	運動習慣	443	-	-	-	34	45	69	58	100	137
	歩数	459	-	-	-	33	49	65	73	105	134
	生活習慣①	554	-	-	-	44	58	85	80	117	170
	生活習慣②	551	-	-	-	45	58	84	81	116	167

※－は当該項目の調査対象外である。

6 本書利用上の留意点

集計客体数並びに結果の概要に掲載している数値は四捨五入のため、内訳合計が総数と合わないことがある。

(参考文献)

・横山徹爾. 地域健康・栄養調査基本集計 version 1.52 使用説明書.

http://www.niph.go.jp/soshiki/jinzai/download/eiyocalc/index_j.html

・長野県健康福祉部. 平成 25 年度県民健康・栄養調査報告.

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kenko-choju/kenko/kenko/kenko/chosa/chousa25-2.html>

・千葉県総合企画部統計課. 千葉県年齢別・町丁字別人口平成 27 年度 平成 27 年 4 月 1 日現在.

<https://www.pref.chiba.lg.jp/toukei/toukeidata/nenreibetsu/h27/h27-index.html>

・総務省統計局. 人口推計 平成 22 年国勢調査による基準人口（日本人人口）.

<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/9.htm>

・横山徹爾. 地域健康・栄養調査各種計算ツール.

<http://www.niph.go.jp/soshiki/jinzai/download/eiyocalc/tools.xls>

・厚生労働科学研究費補助金循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業「健康増進施策推進・評価のための健康・栄養モニタリングシステムの構築」研究班. 健康増進施策推進・評価のための健康・栄養調査データ活用マニュアル 2011 年 11 月 30 日版.

<http://www0.nih.go.jp/eiken/chosa/pdf/20111215.pdf>

・SAS Institute Inc. 2015. SAS/STAT® 14.1 User's Guide. The SURVEYMEANS Procedure. Cary, NC:SAS Institute Inc.

・SAS Institute Inc. 2015. 「JMP® 12 基本的な回帰モデル」 Cary, NC: SAS Institute Inc

※結果の概要 数値の見方について

1 グラフ値について

- (1) 年齢階級別の値: 保健所別に抽出率の逆数で重み付け(保健所圏域ごとの標本数の偏りを調整するため)をした値。
- (2) 総数の値: 保健所圏域ごとの標本数の偏りを調整する重み付けと県の実際の H27 人口構成に合わせるための重み付けをした値。
- (3) 年次推移及び全国値との比較の値: 保健所圏域ごとの標本数の偏りを調整する重み付けと H22 国勢調査男女計人口を基準に重み付けをした値。(そのため、年次推移の値は平成22年県民健康・栄養調査報告書の値と異なる。)
- (4) P17 の結果は共分散分析により、年齢、保健所による影響を調整した値。
- (5) P45～47 の結果は算術平均値。(重み付けのない平均値。)

2 解析対象者数は、()内で併記した。

Ⅱ 結果の概要

(1) 体型に関する状況

1. 肥満とやせの状況

肥満者(BMI \geq 25kg/m²)の割合は男性 31.2%、女性 17.3%であり、男性は約 3 人に 1 人、女性は約 6 人に 1 人である。肥満者の割合が最も高いのは、男性が20 歳代 41.2%、女性が60 歳代 24.0%である。また肥満者の割合は、平成 22 年調査に比べほぼ横ばいである。

20～69 歳男性の肥満者の割合は 32.5%、40～69 歳男性の肥満者の割合は 30.5%であり、平成 22 年調査に比べほぼ横ばいである。

40～69 歳女性の肥満者の割合は 18.1%であり、平成 22 年調査に比べほぼ横ばいである。

20 歳代女性のやせの者(BMI<18.5kg/m²)の割合は 18.9%であり、平成 22 年調査に比べほぼ横ばいである。

低栄養傾向(BMI \leq 20kg/m²)の65 歳以上の高齢者は、13.8%である。

図 1 体型の状況(20 歳以上、性・年齢階級別)

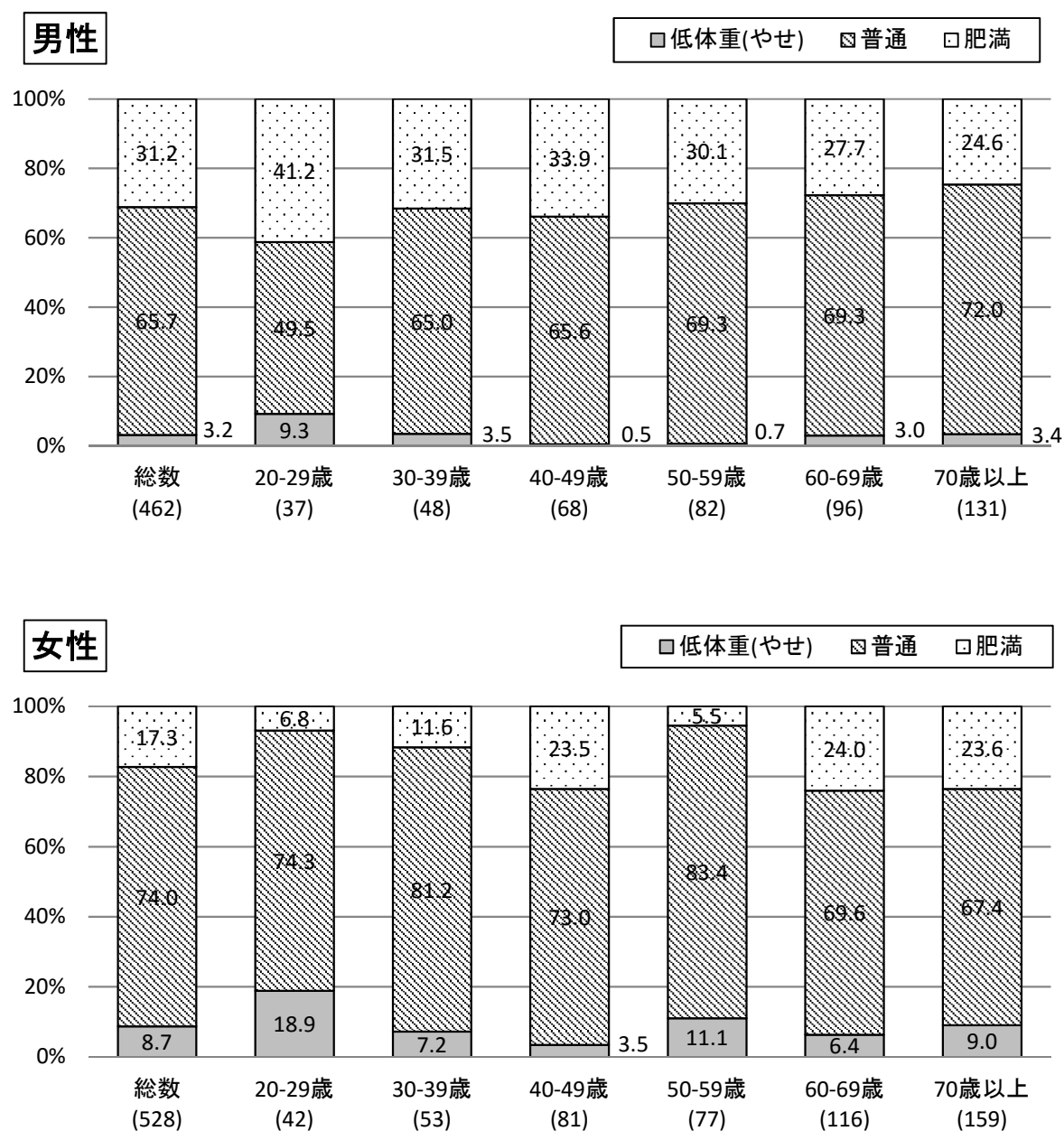


図 2-1 肥満者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別)

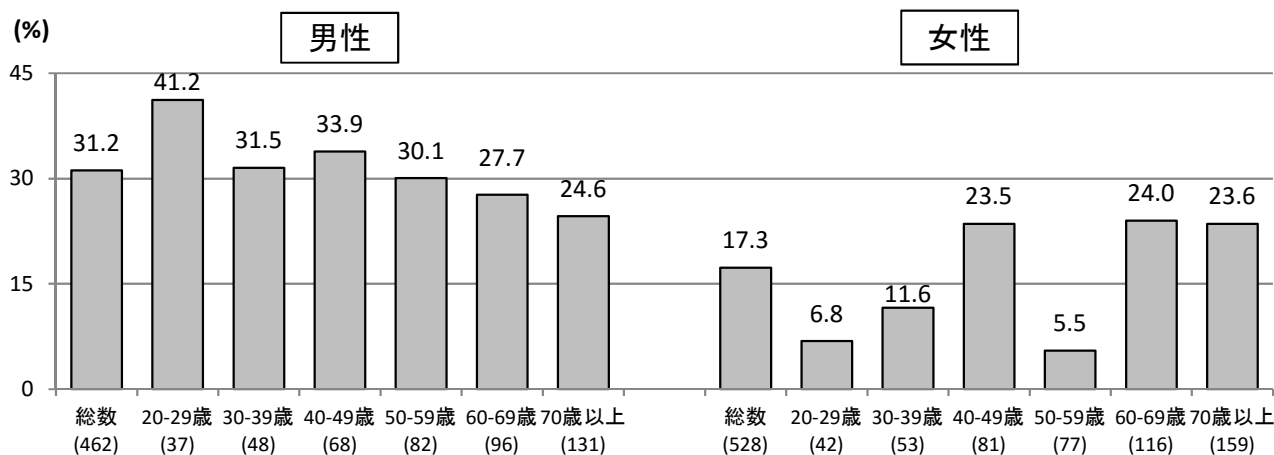


図 2-2 肥満者の割合、年次推移(20 歳以上、性別、年齢調整値)

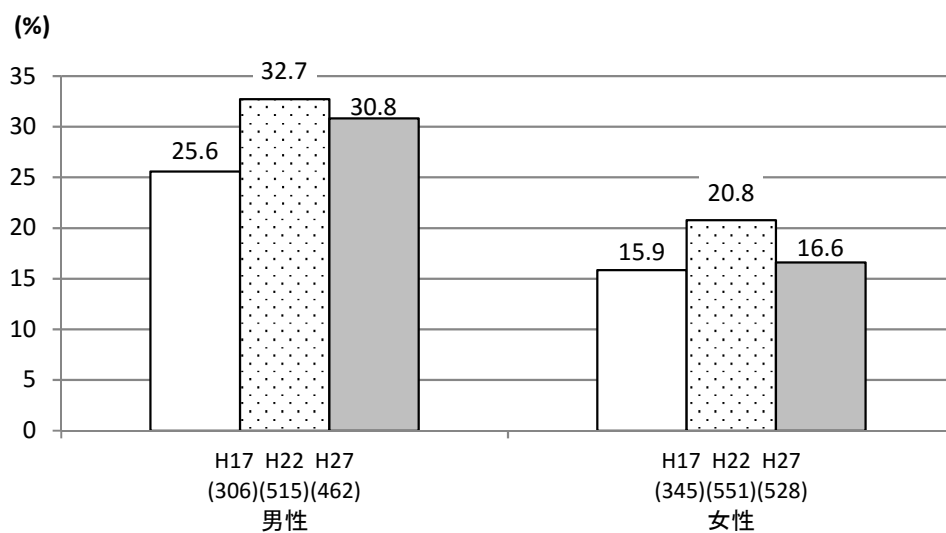
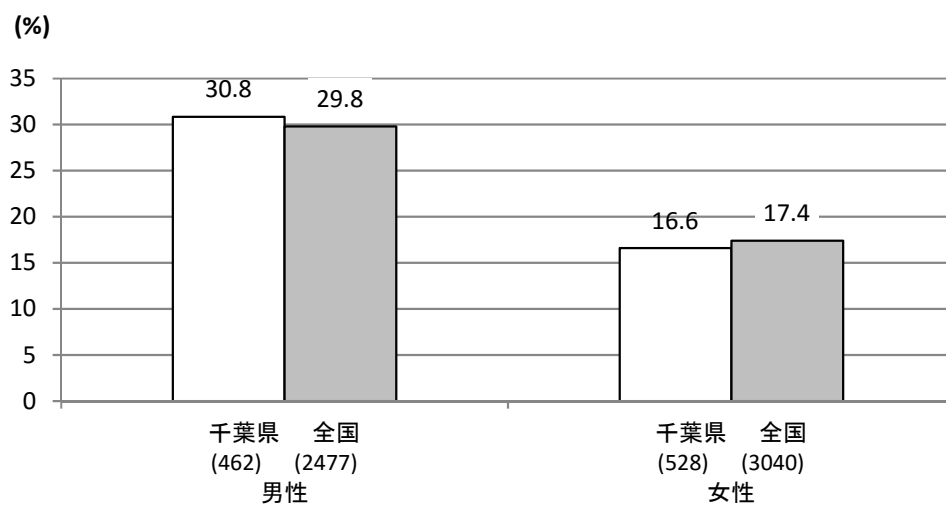


図 2-3 肥満者の割合、全国値比較(20 歳以上、性別、年齢調整値)



※全国:平成27年国民健康・栄養調査より

図 2-4 肥満者の割合

(20～69 歳、男性、年齢調整値)

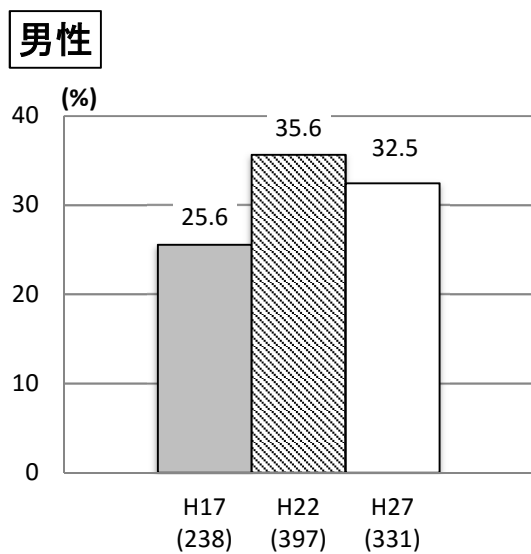


図 2-5 肥満者の割合

(40～69 歳、男性、年齢調整値)

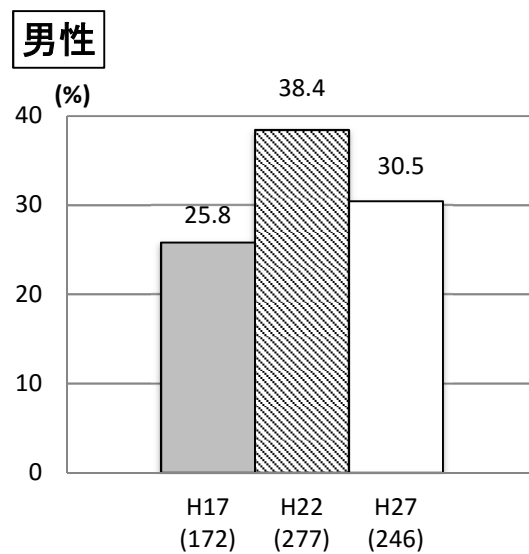


図 2-6 肥満者の割合

(40～69 歳、女性、年齢調整値)

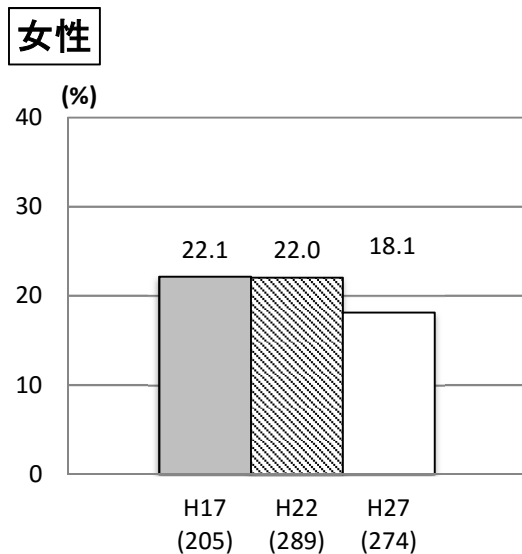


図 3 やせの割合

(20～29 歳、女性、年齢調整値)

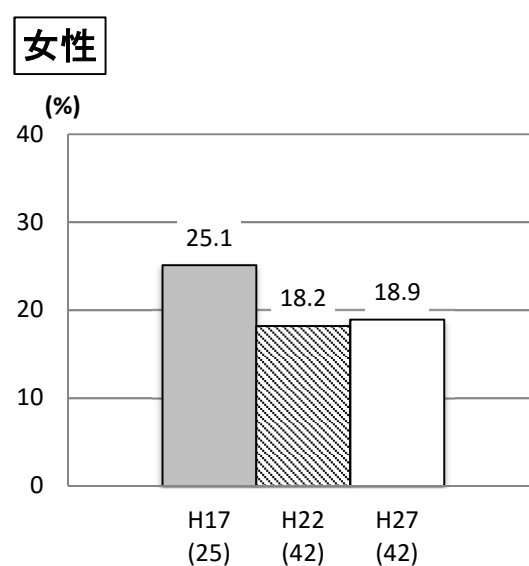
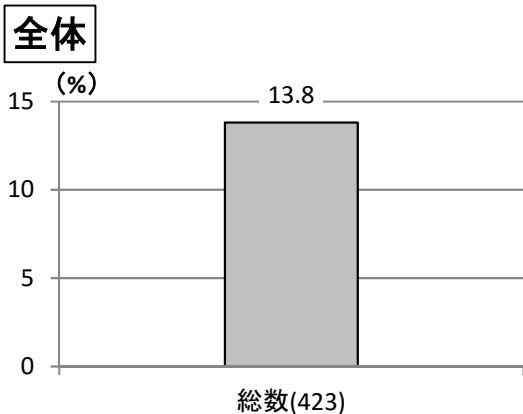


図 4 低栄養傾向 (BMI \leq 20kg/m²) の高齢者の割合 (65 歳以上、男女計)



2. 体重の増減の状況

この1年間に体重が3kg以上増加した者は男性14.5%、女性14.7%であり、男女ともに30歳代で高く、男性24.3%、女性29.2%である。

この1年間に体重が3kg以上減少した者は男性9.1%、女性10.3%である。

図 5-1 この1年間に体重が3kg以上増加したと回答した者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 この1年間に体重が3kg以上増加しましたか。]

全体

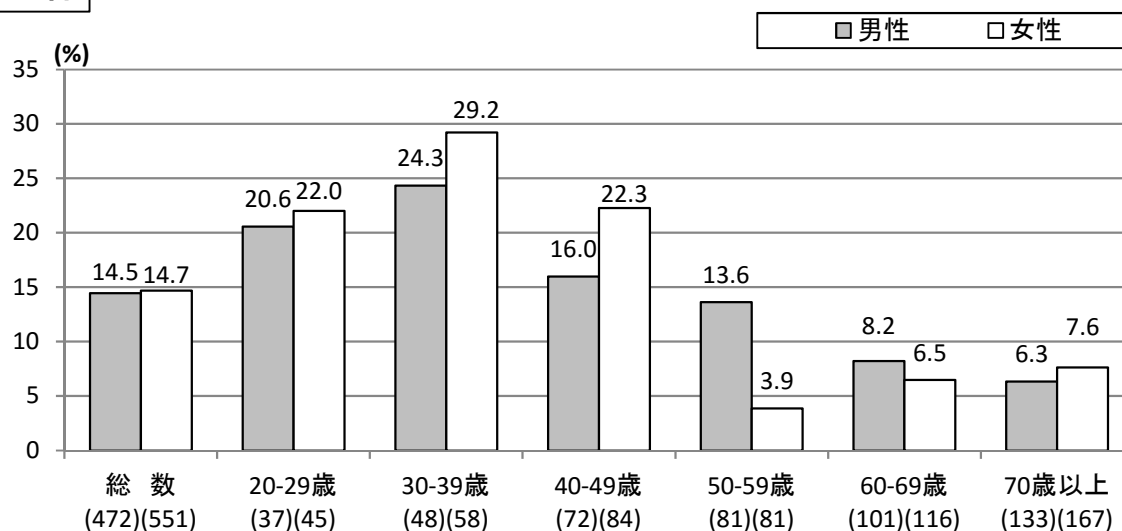
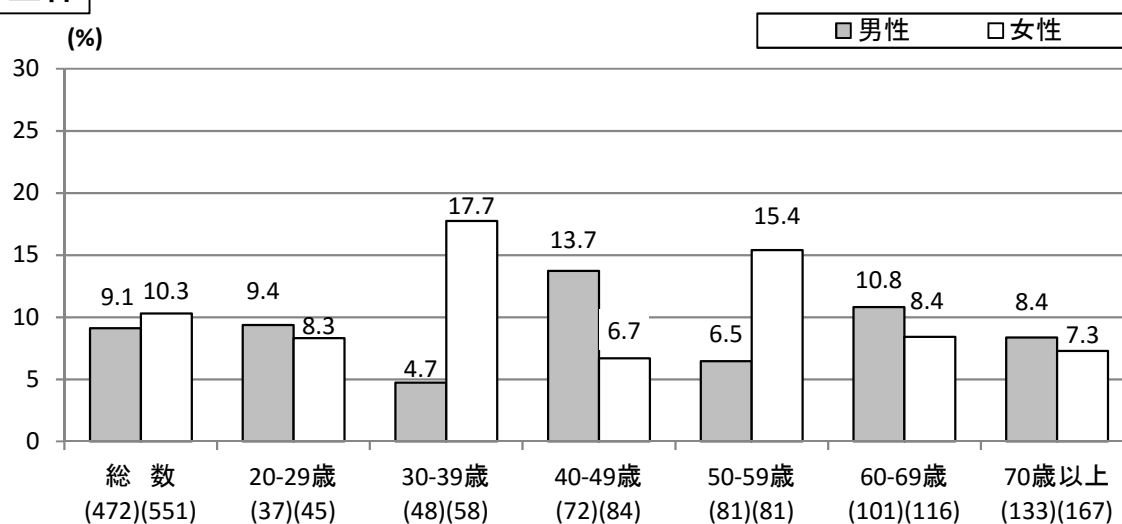


図 5-2 この1年間に体重が3kg以上減少したと回答した者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 この1年間に体重が3kg以上減少しましたか。]

全体



(2) 栄養・食生活に関する状況

1. 朝食欠食状況

調査を実施した日に朝食を欠食した者の割合は、男性 13.3%、女性 10.3%である。年齢別にみると、欠食する者の割合が高いのは、30 歳代男性 23.2%、40 歳代男性 21.0%、20 歳代女性 22.4%、40 歳代女性 22.8%である。

図 6-1 朝食欠食状況(20 歳以上、性・年齢階級別)

※栄養摂取状況調査より。調査を実施した日(特定の 1 日)における朝食を欠食した割合

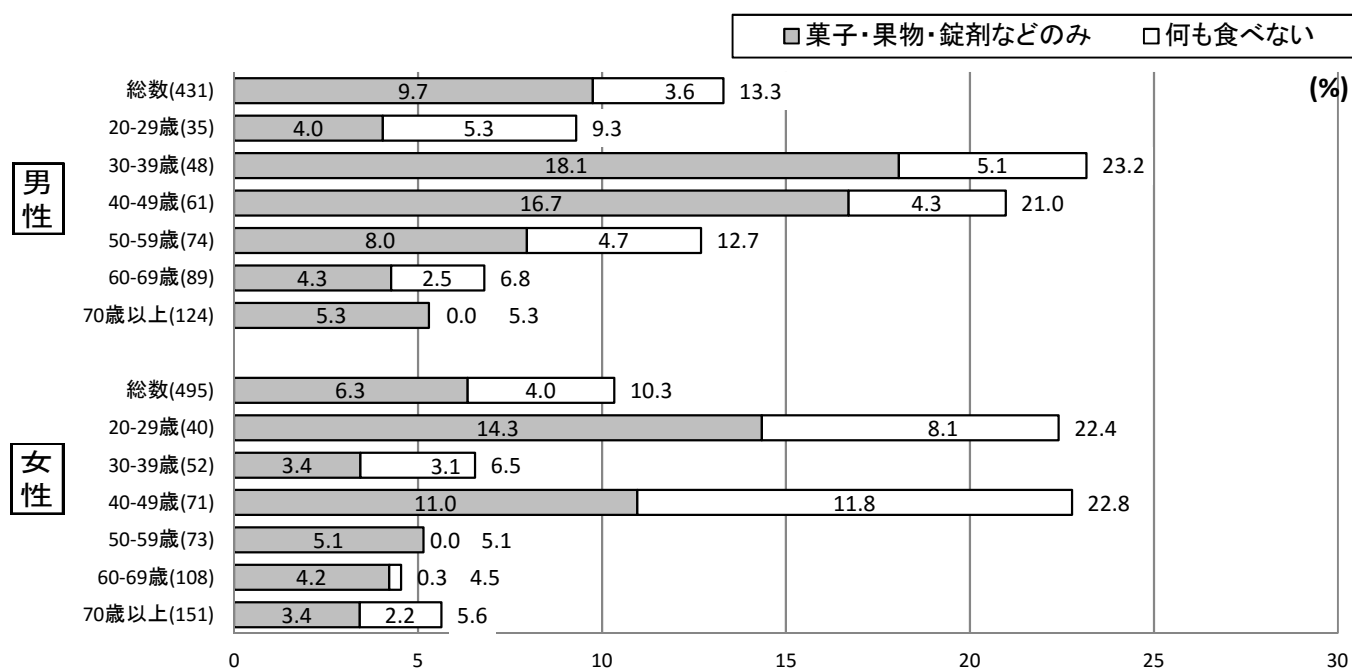
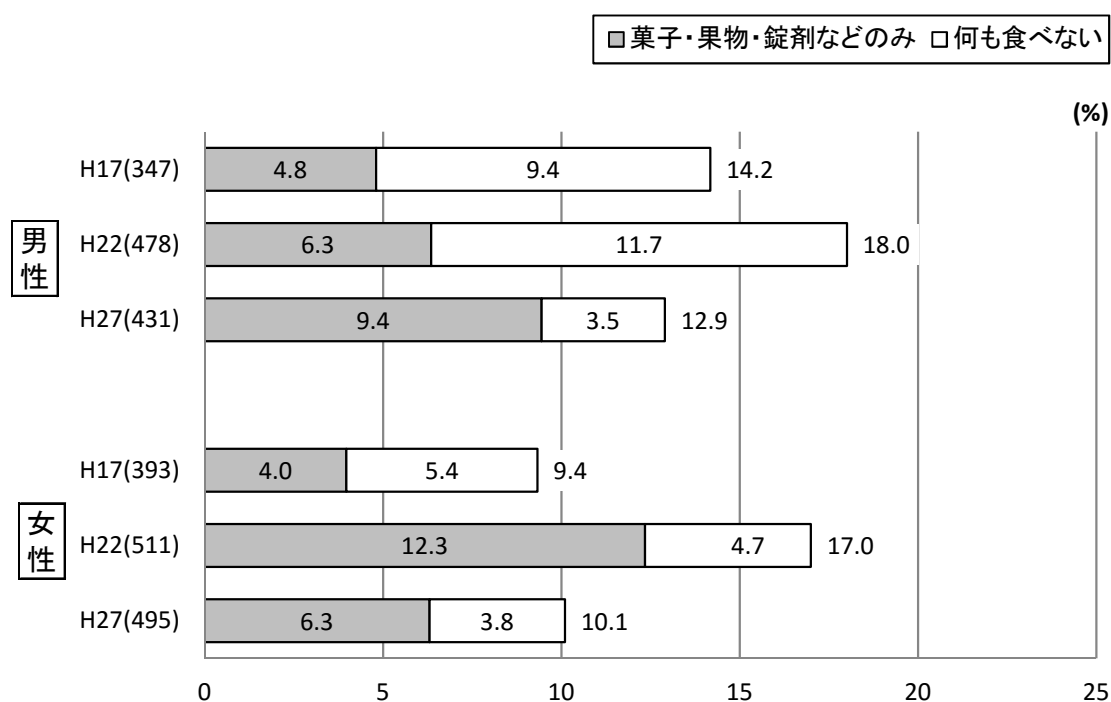


図 6-2 朝食欠食状況 年次推移(20 歳以上、性別、年齢調整値)

※栄養摂取状況調査より。調査を実施した日(特定の 1 日)における朝食を欠食した割合



習慣的に朝食を欠食している者（週2日以上食べない者）は、男性24.9%、女性15.2%である。
 欠食している者の割合は男女ともに20歳代で最も高く、男性50.8%、女性37.8%である。
 平成22年調査に比べ、ほとんど毎日食べている者の割合は、男女ともにほぼ横ばいである。

図 7-1 朝食欠食状況(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたはふだん朝食を食べますか。]※習慣的な朝食の摂取状況に関する設問の結果。

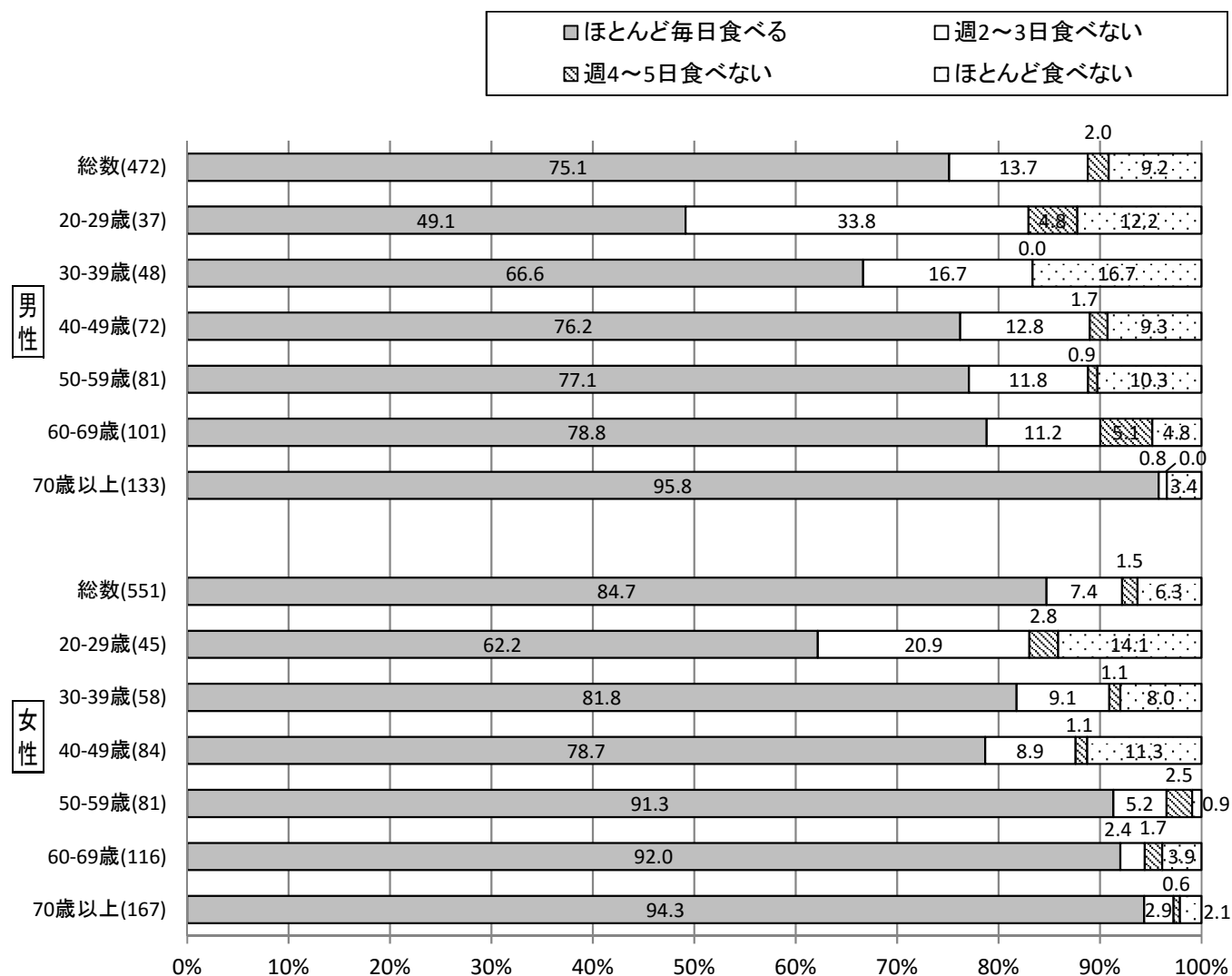
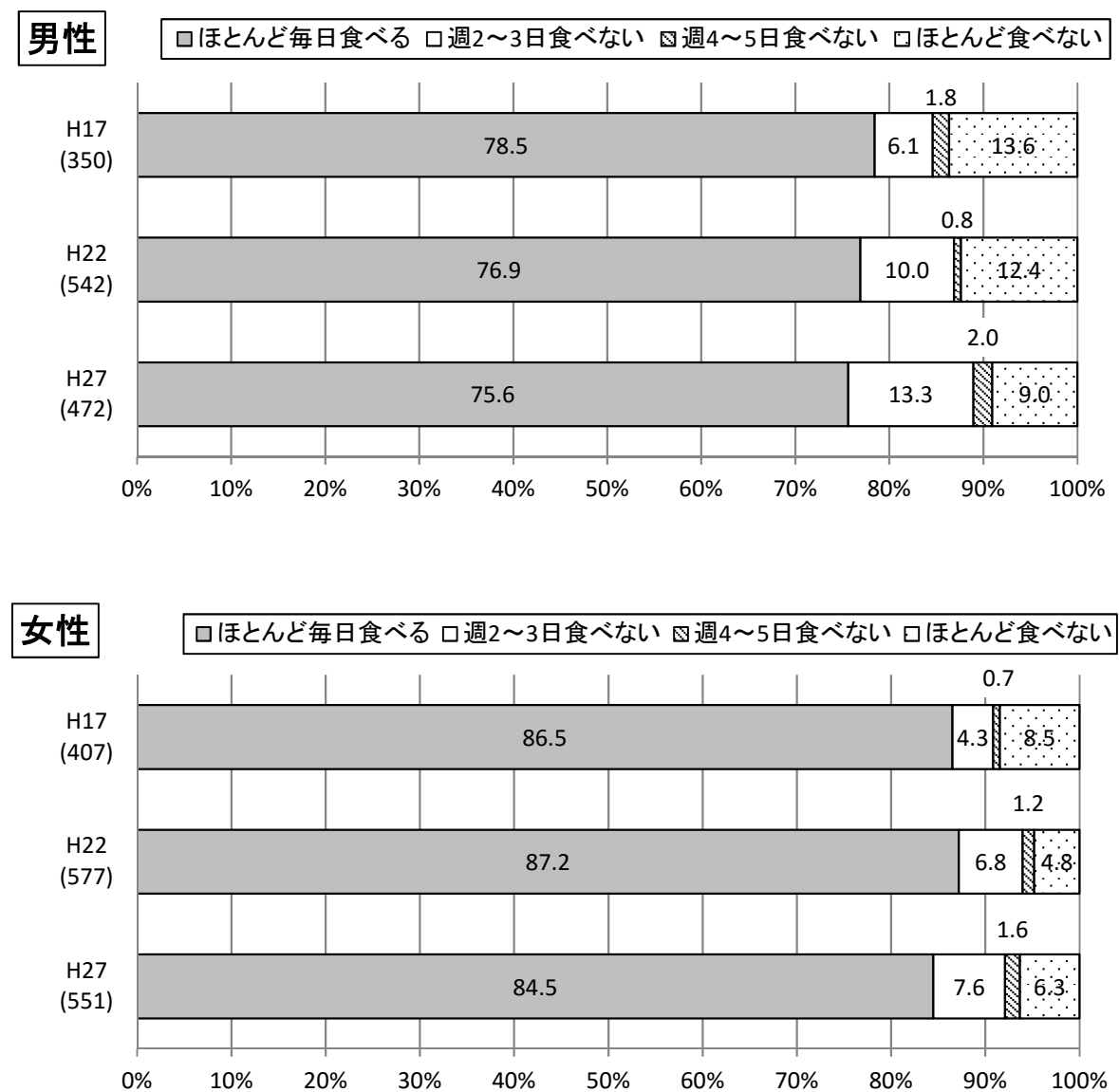


図 7-2 朝食欠食状況、年次推移(20 歳以上、性別、年齢調整値)※習慣的



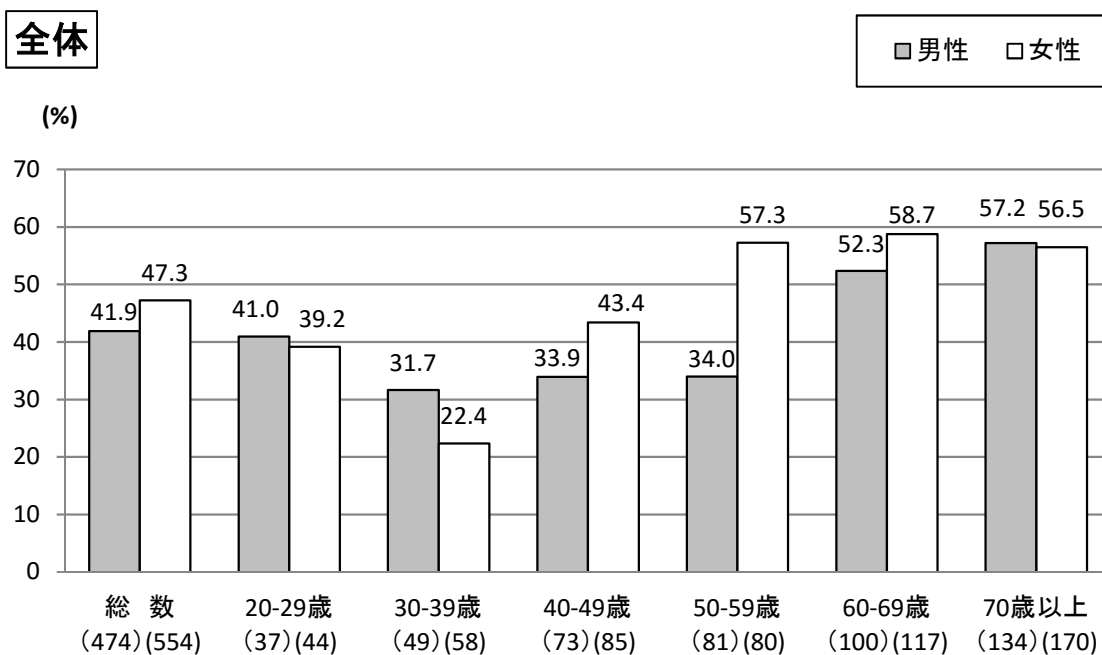
2. 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の状況

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日と回答した者の割合は、男性41.9%、女性47.3%である。男女ともに30歳代で最も低く、男性31.7%、女性22.4%である。

図8 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日と回答した者の割合

(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、主食(ごはん、パン、麺類などの料理)、主菜(魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料にした料理)、副菜(野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理)の3つを組み合わせて食べることが1日2回以上あるのは週に何日ありますか。]

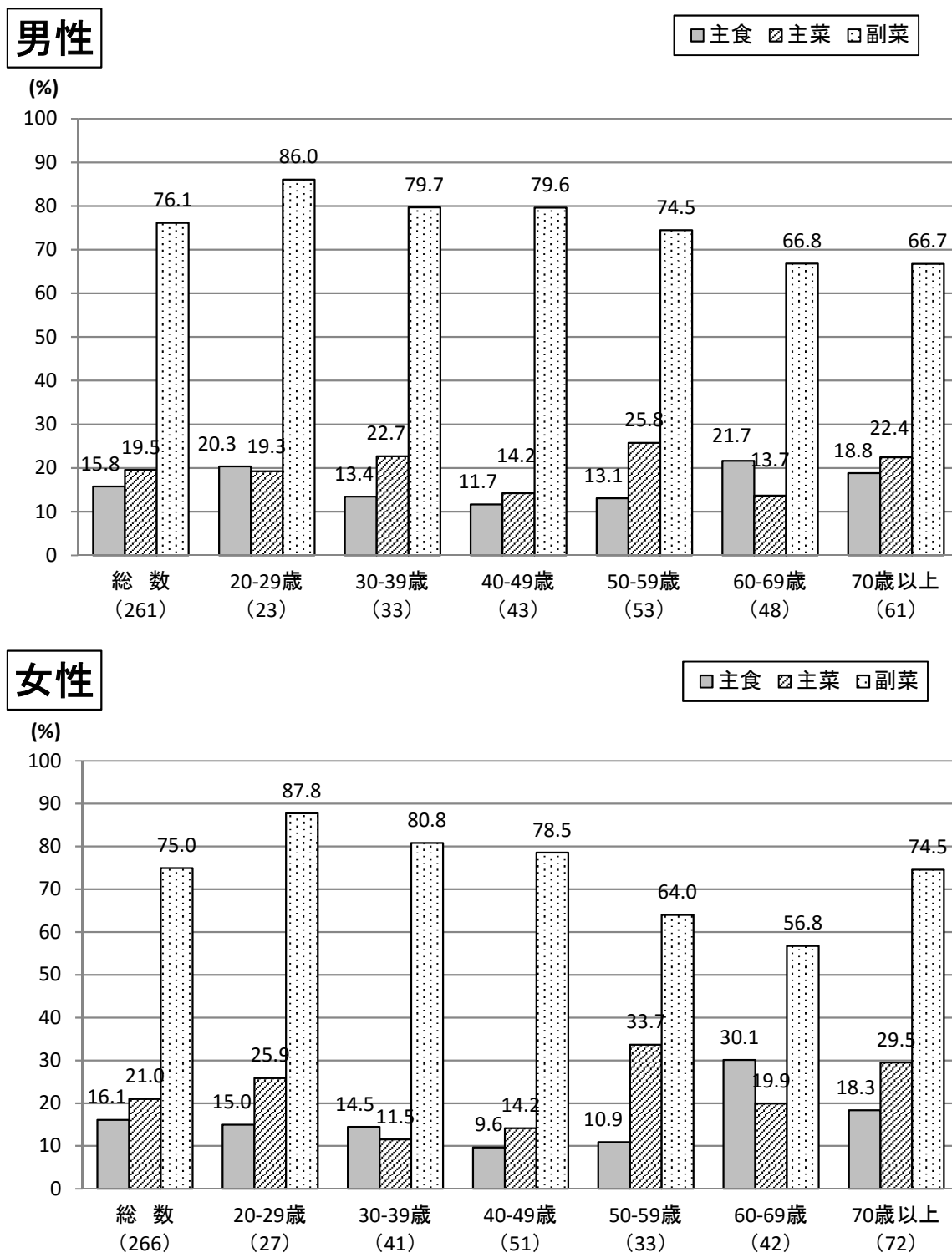


3. 主食・主菜・副菜のうち組み合わせさせて食べられないもの

主食・主菜・副菜のうち、組み合わせさせて食べられないものは、男女共に副菜が最も高く、男性 76.1%、女性 75.0%である。若い世代ほど、その傾向にある。

図9 主食・主菜・副菜のうち組み合わせさせて食べられないものの割合(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 主食・主菜・副菜のうち、組み合わせさせて食べられないのはどれですか。※複数回答]



4. 野菜摂取量

野菜摂取量の平均値は男性 317.6g、女性 299.2g である。男女ともに 30 歳代で最も少なく、男性 247.2g、女性 225.4g である。男性の野菜摂取量は平成 22 年調査に比べ有意に増加している。

図 10-1 野菜摂取量の平均値(20 歳以上、性・年齢階級別)

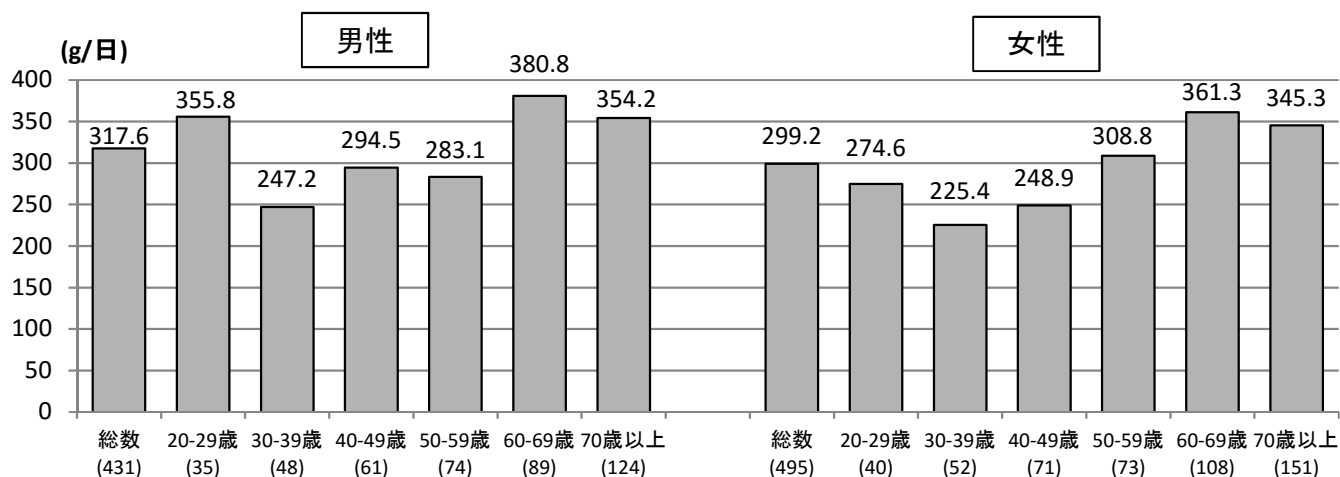


図 10-2 野菜摂取量の平均値、年次推移(20 歳以上、性別、年齢調整値)

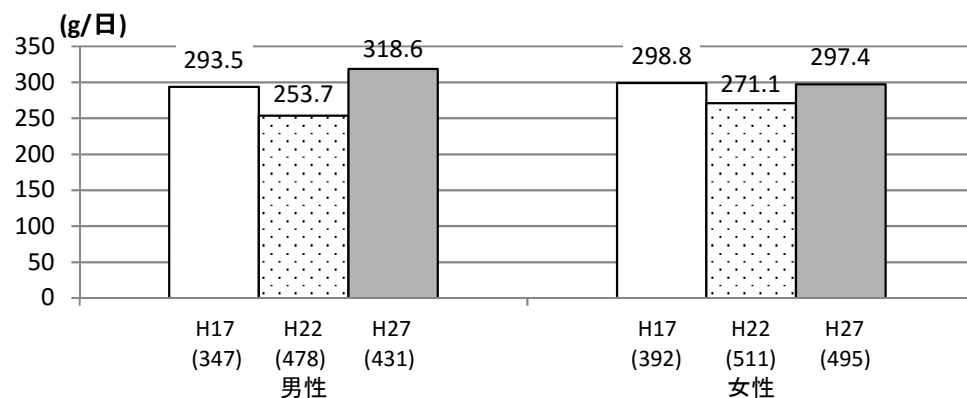
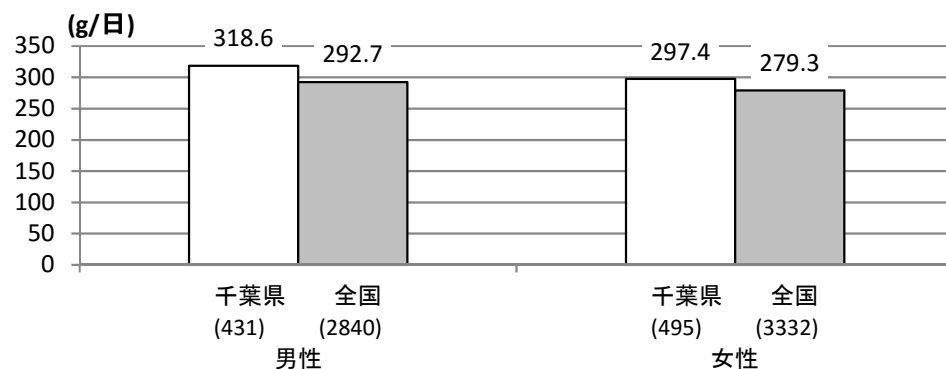


図 10-3 野菜摂取量の全国値との比較(20 歳以上、性別、年齢調整値)

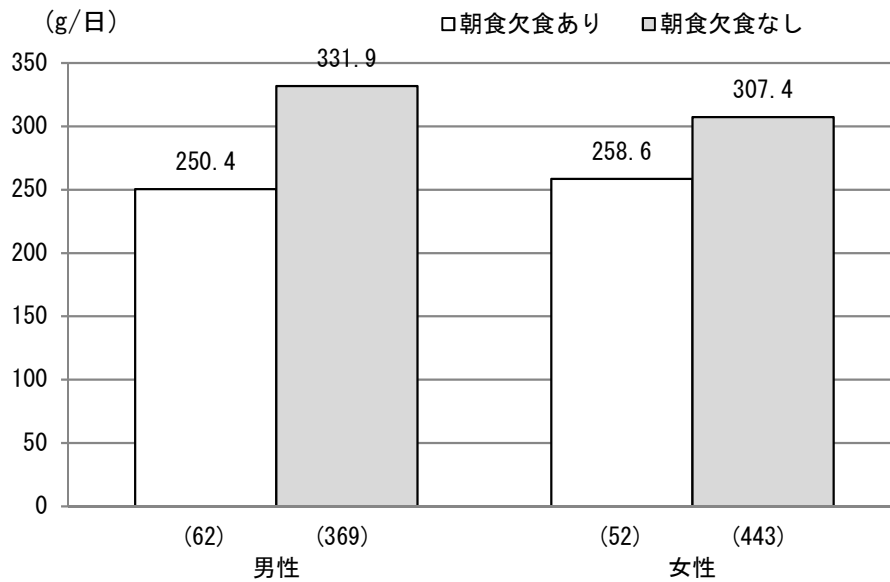


※全国:平成27年国民健康・栄養調査より

5. 朝食欠食の有無別野菜摂取量

男女共に、朝食欠食者の野菜摂取量は、朝食喫食者に比べて少ない。

図 11 朝食欠食の有無別野菜摂取量の平均値(20 歳以上、性別)



※朝食欠食の状況は栄養摂取状況調査の結果を用いている(調査を実施した日(特定の 1 日)における朝食の結果)

6. 食塩摂取量

食塩摂取量の平均値は男性 11.0g、女性 9.4g である。摂取量は男女ともに年々減少しつつあるが、平成 22 年調査に比べ、男女ともにほぼ横ばいである。

図 12-1 食塩摂取量の平均値(20 歳以上、性・年齢階級別)

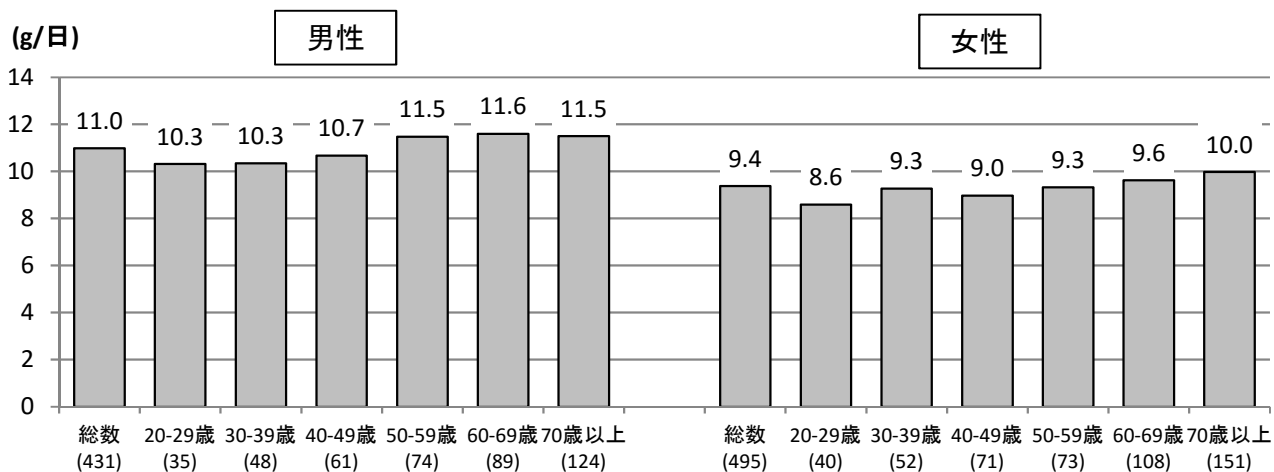


図 12-2 食塩摂取量の平均値、年次推移(20 歳以上、性別、年齢調整値)

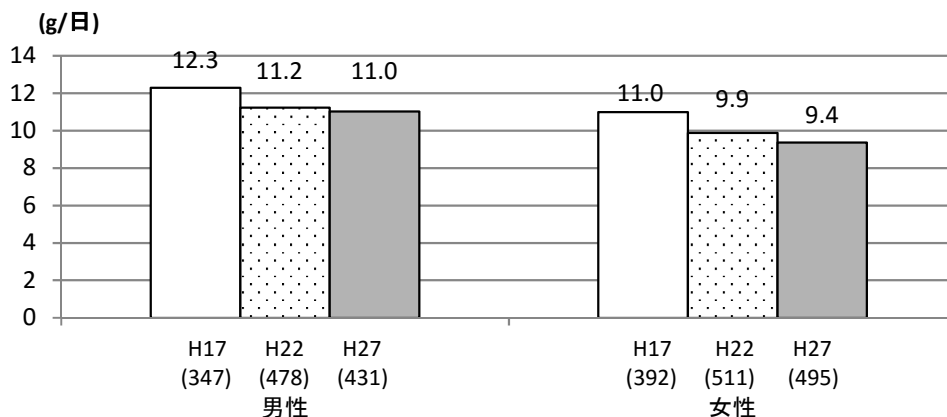
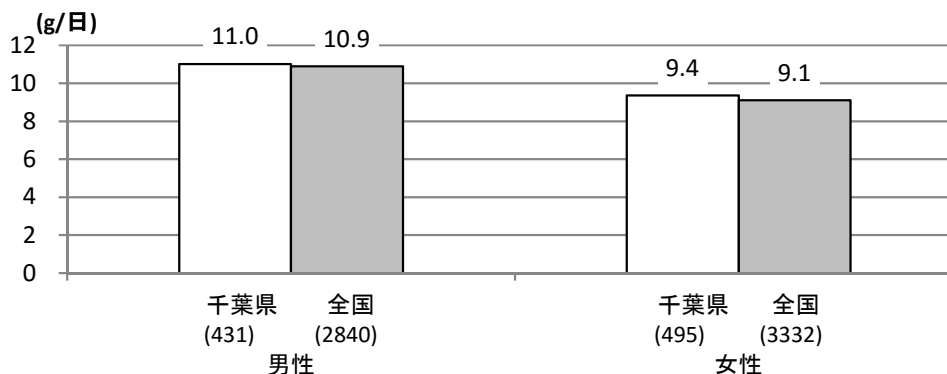


図 12-3 食塩摂取量の全国値との比較(20 歳以上、性別、年齢調整値)

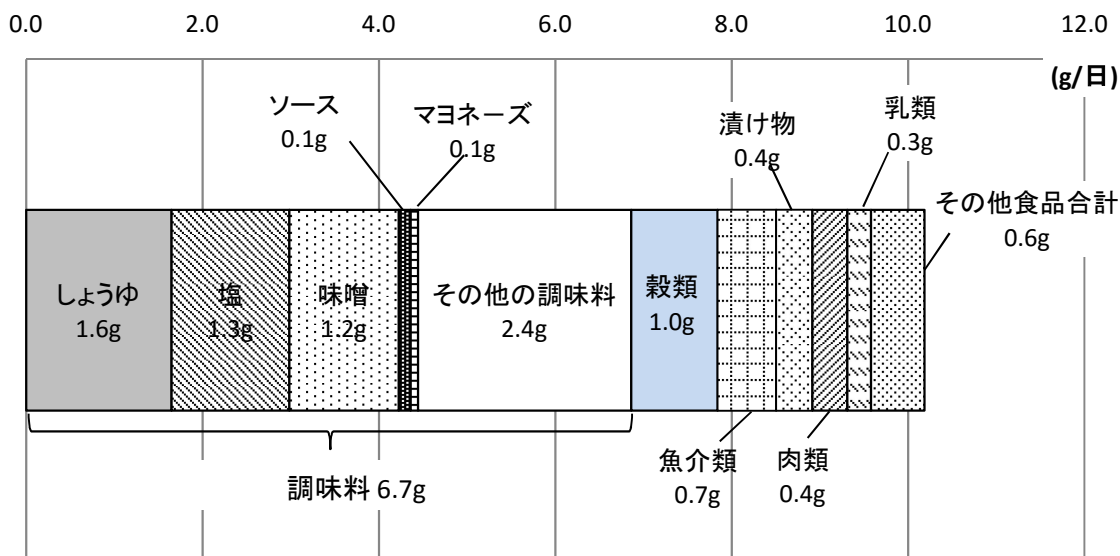


※全国:平成27年国民健康・栄養調査より

食品群別食塩摂取量をみると、調味料から食塩を約7割摂取している。食塩摂取量の多い人は、調味料から男性は約8～9g、女性は約7～8gを摂取している。男女ともに、魚介類と漬物からの摂取量は年齢とともに増える傾向にある。

※図 12-4 から図 12-11 は、食塩を多くとっている食品の状況をより詳しく把握するために、実際の食塩摂取量とその割合の両方を掲載している。

図 12-4 食品群別食塩摂取量(g) (20 歳以上、男女計)



摂取量平均値10.2g(926)

注) 保健所圏域ごとの標本数の偏りを調整する重み付けと県の実際の H27 人口構成に合わせるための重み付けをした値

図 12-5 食品群別食塩摂取量の割合(%) (20 歳以上、男女計)

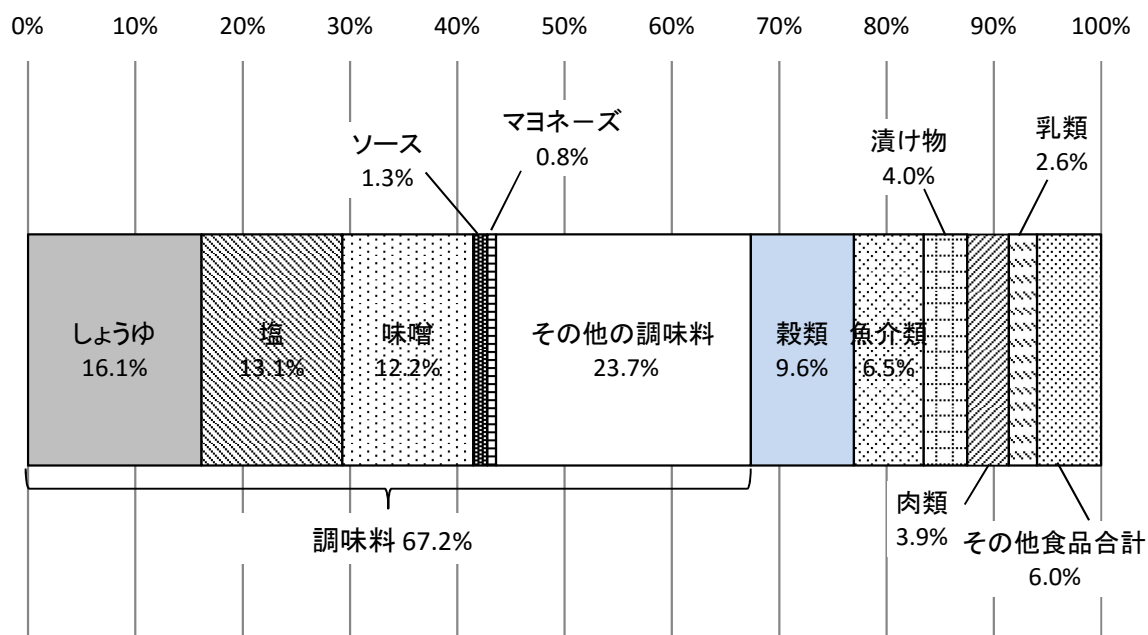
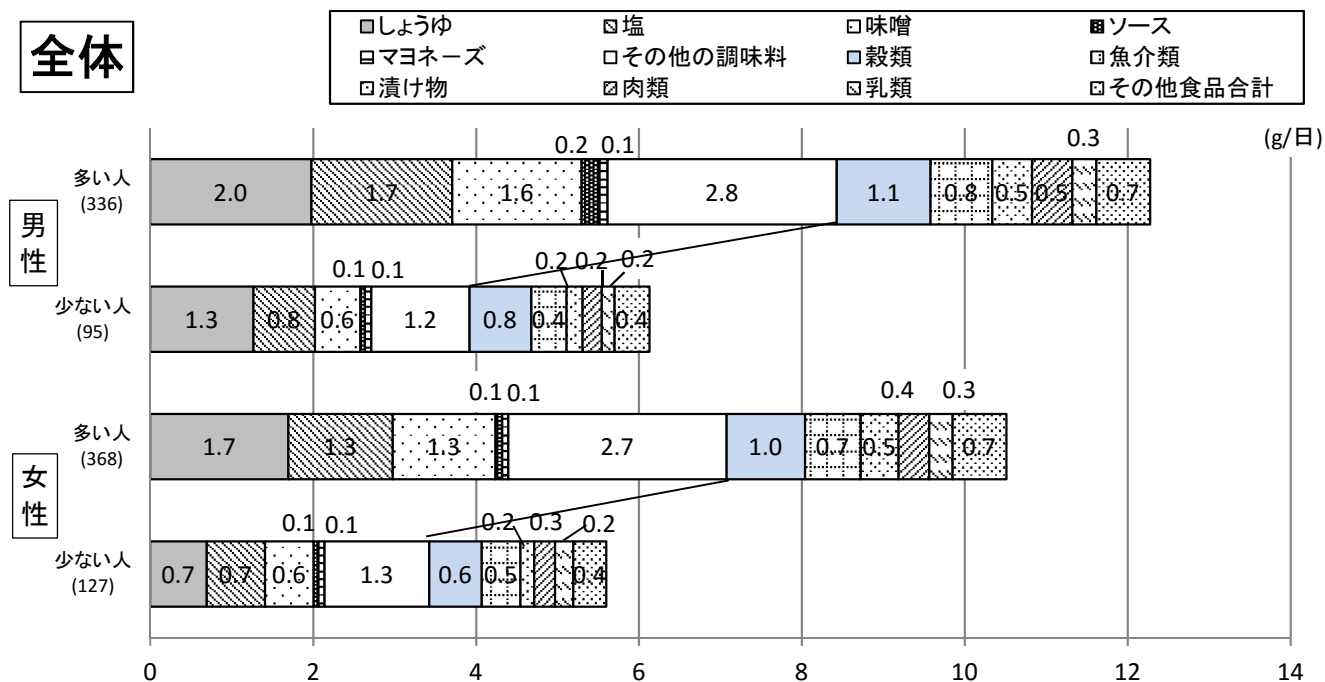


図 12-6 食品群別食塩摂取量(g) (20 歳以上、摂取量別)

※男性 多い:8g 以上/少ない:8g 未満、女性 多い:7g 以上/少ない:7g 未満

(日本人の食事摂取基準 2015 食塩摂取量の目標量により群分け)



注) 保健所圏域ごとの標本数の偏りを調整する重み付けと県の実際の H27 人口構成に合わせるための重み付けをした値

図 12-7 食品群別食塩摂取量の割合(%) (20 歳以上、摂取量別)

※男性 多い:8g 以上/少ない:8g 未満、女性 多い:7g 以上/少ない:7g 未満

(日本人の食事摂取基準 2015 食塩摂取量の目標量により群分け)

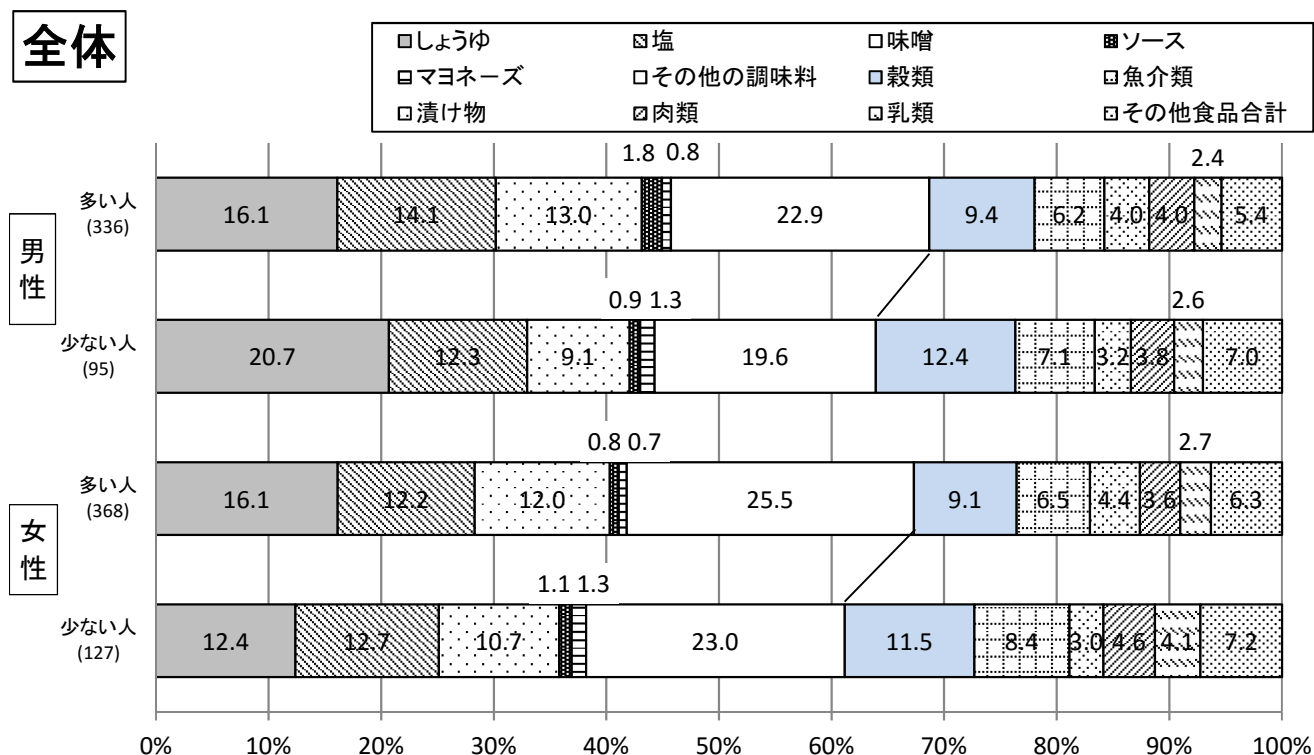
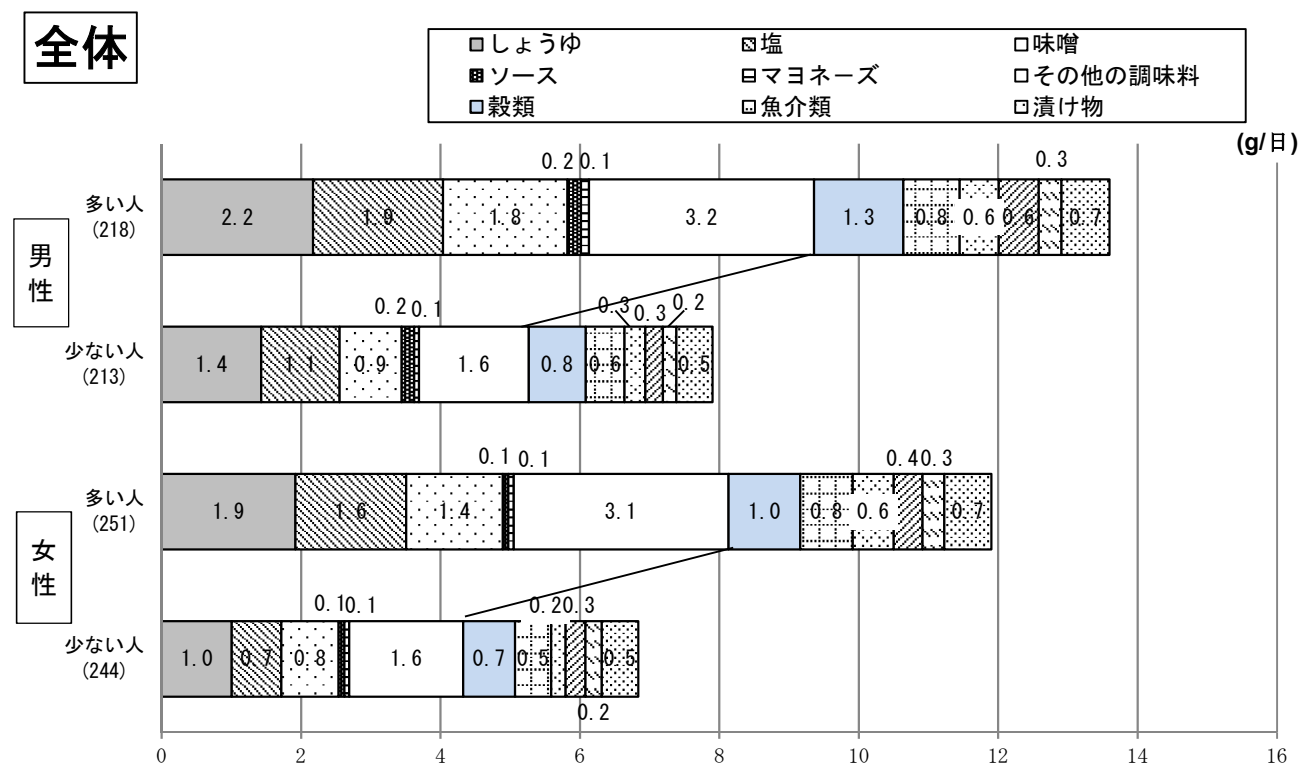


図 12-8 食品群別食塩摂取量(g) (20 歳以上、中央値別)

※中央値: 男性 10.5g 以上/未満で二区分、女性 8.9g 以上/未満で二区分



注) 保健所圏域ごとの標本数の偏りを調整する重み付けと県の実際の H27 人口構成に合わせるための重み付けをした値

図 12-9 食品群別食塩摂取量の割合(%) (20 歳以上、中央値別)

※中央値: 男性 10.5g 以上/未満で二区分、女性 8.9g 以上/未満で二区分

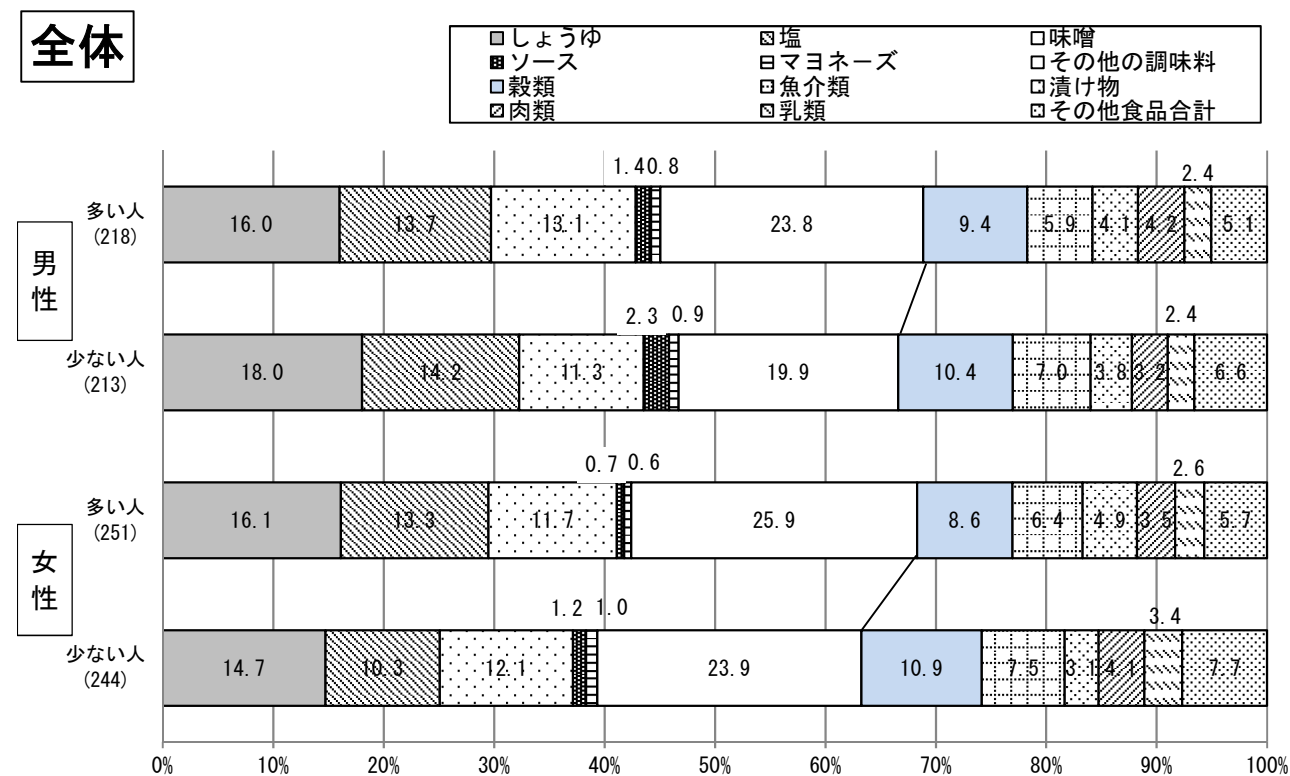
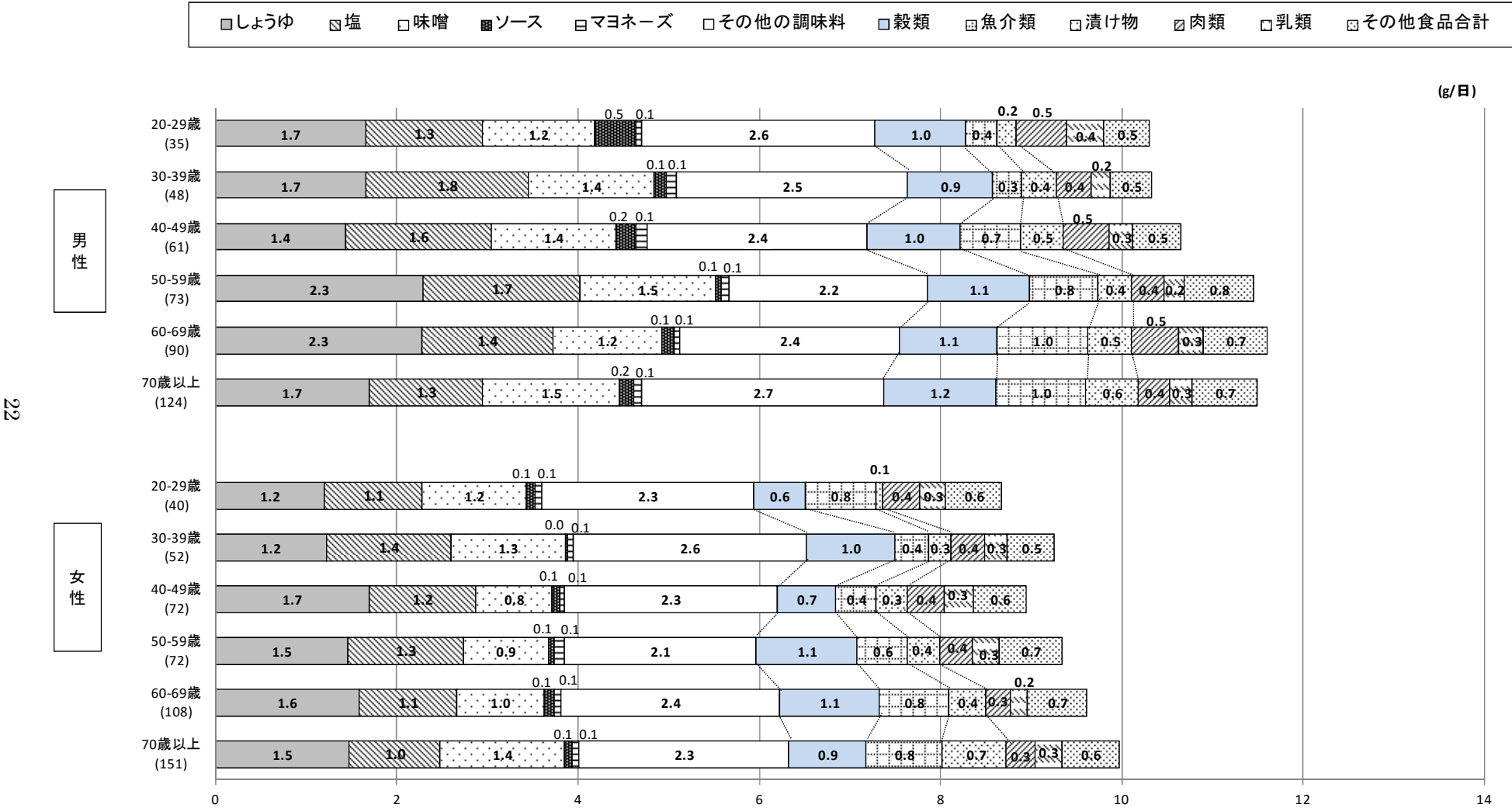


図 12-10 食品群別食塩摂取量(g) (20 歳以上、性・年齢階級別)

食塩摂取量(g)

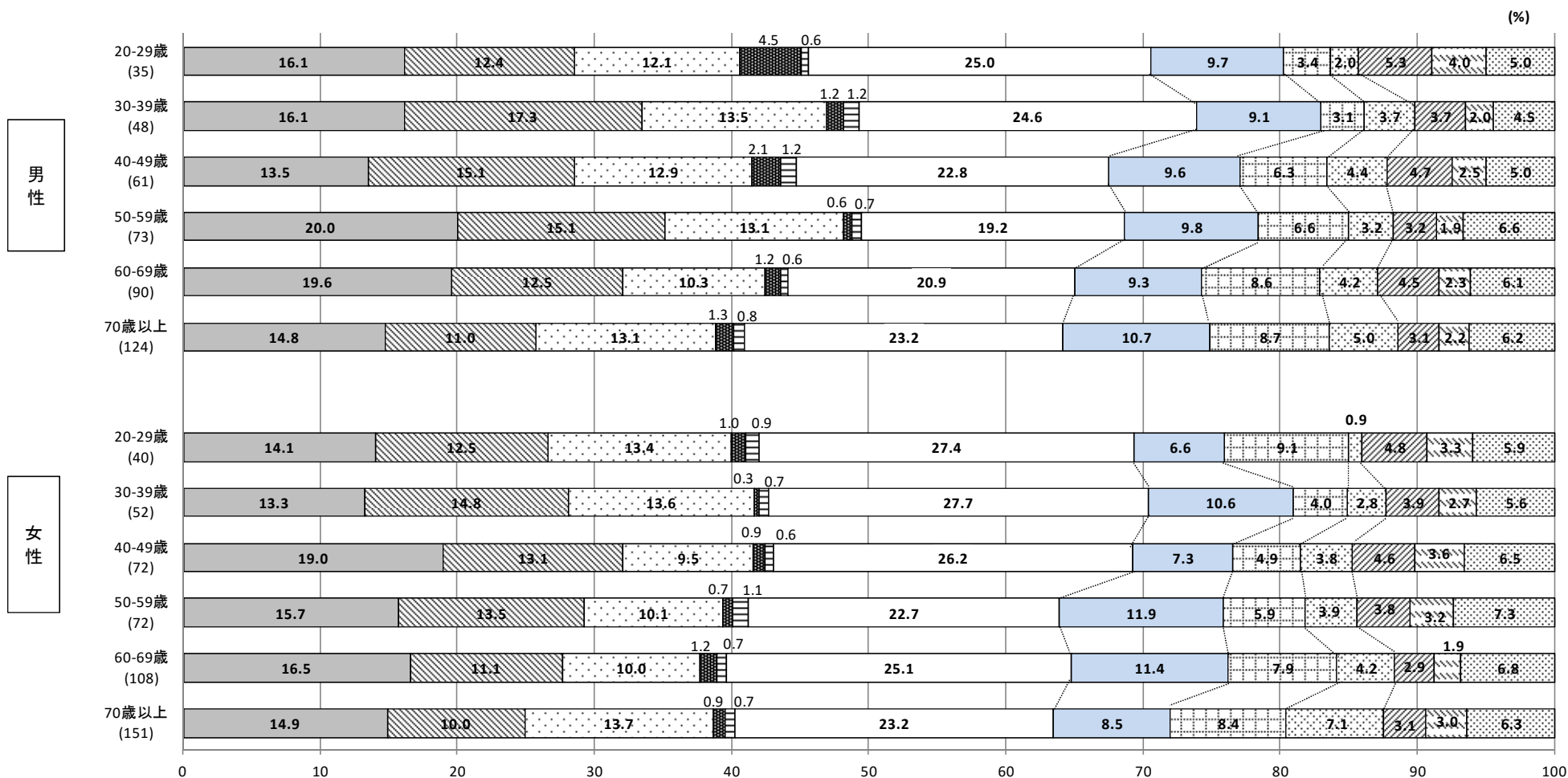


注) 保健所別に抽出率の逆数で重み付け (保健所圏域ごとの標本数の偏りを調整するため) をした値

図 12-11 食品群別食塩摂取量の割合(%) (20 歳以上、性・年齢階級別)

食塩摂取量(%)

■しょうゆ ▨塩 □味噌 ■ソース □マヨネーズ □その他の調味料 ■穀類 ▨魚介類 ▨漬け物 ▨肉類 ▨乳類 ▨その他食品合計



(3) 身体活動・運動に関する状況

1. 運動習慣者の状況

運動習慣のある者の割合は男性 35.4%、女性 29.1%である。男女ともに 30 歳代で運動習慣のある者の割合が最も低く、男性 6.5%、女性 14.9%である。平成 22 年調査に比べ、男女ともに運動習慣のある者の割合は有意に増加している。

図 13-1 運動習慣のある者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別)

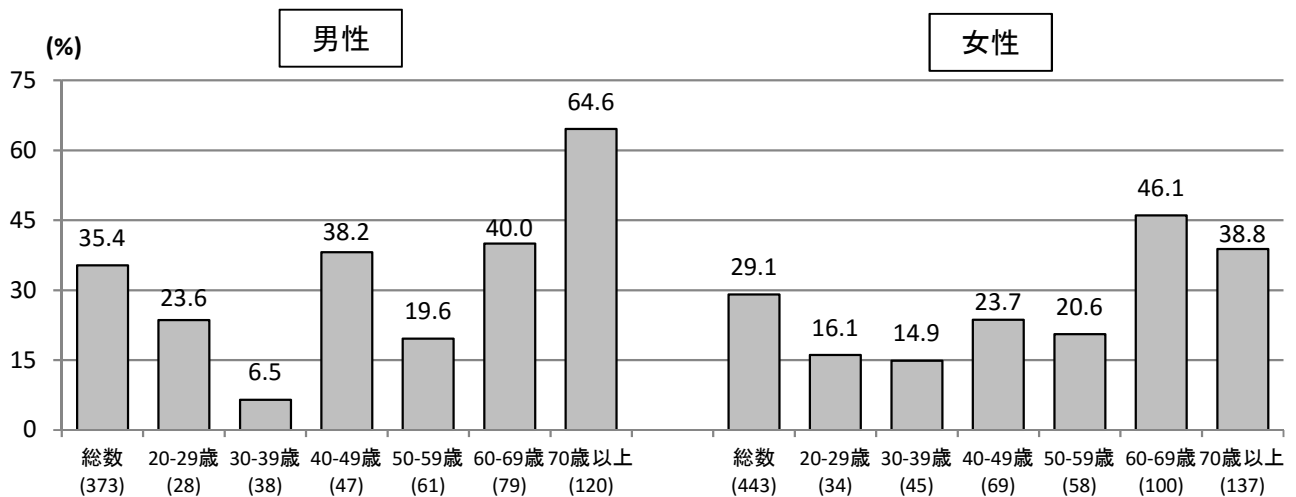


図 13-2 運動習慣のある者の割合、年次推移(20 歳以上、性別、年齢調整値)

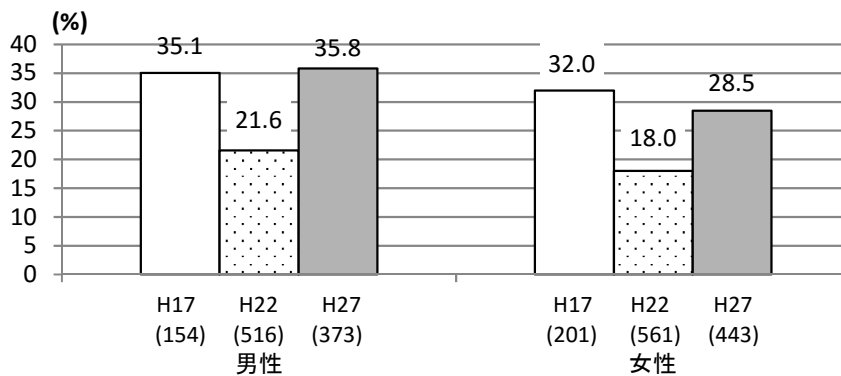
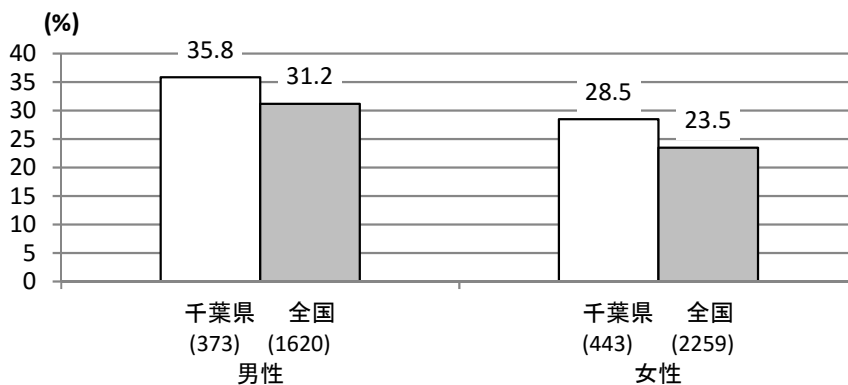


図 13-3 運動習慣のある者の割合、全国値との比較(20 歳以上、性別、年齢調整値)



※全国:平成27年国民健康・栄養調査より

※運動習慣がある者:1 回 30 分以上、週 2 日以上、1 年間以上継続して運動している者

2. 歩行数の状況

歩行数の平均値は男性 8015 歩、女性 7521 歩である。平成 22 年調査に比べ、男性はほぼ横ばい、女性は有意に増加している。

図 14-1 歩行数の平均値(20 歳以上、性・年齢階級別)

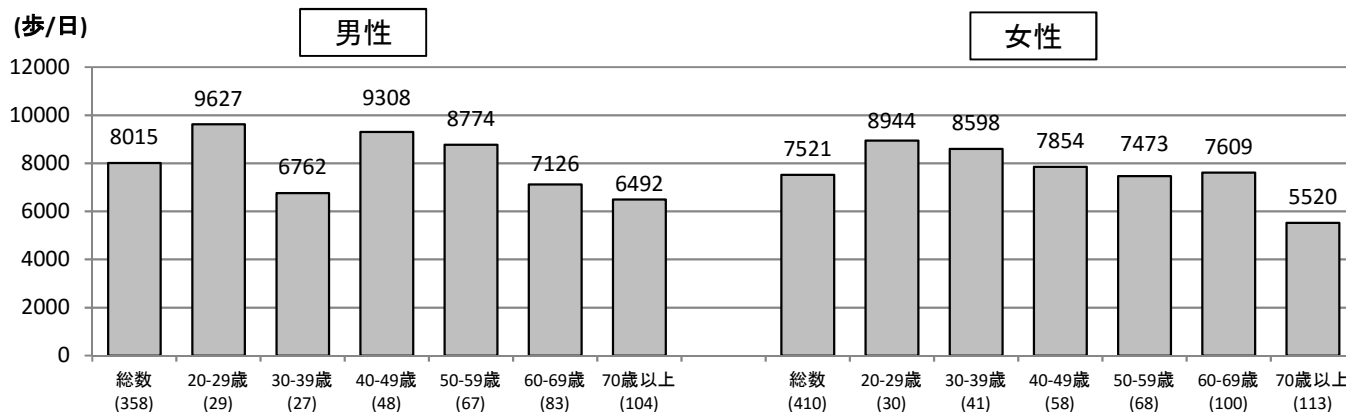


図 14-2 歩行数の平均値 年次推移(20 歳以上、性別、年齢調整値)

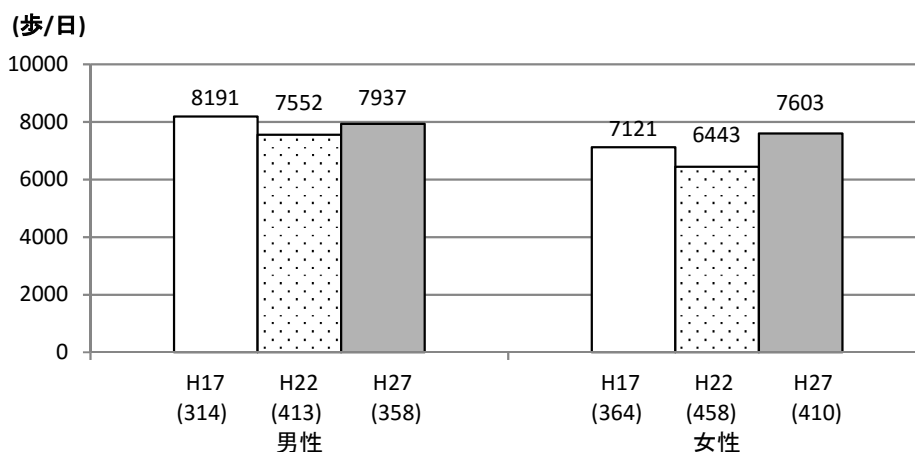
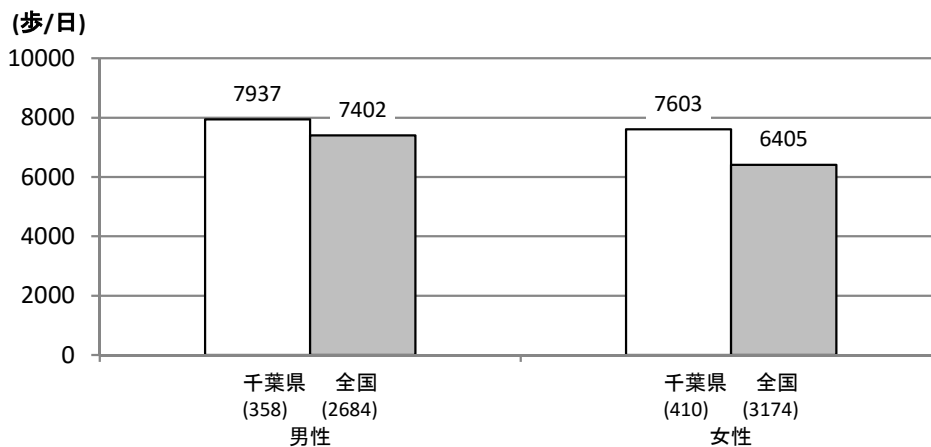


図 14-3 歩行数の平均値と全国値との比較(20 歳以上、性別、年齢調整値)



※全国:平成27年国民健康・栄養調査より

(4) 飲酒に関する状況

1. 飲酒の状況

飲酒習慣のある者の割合は男性 31.6%、女性 7.6%である。男性は 40 歳代で 49.0%、50 歳代で 49.1%、女性は 40 歳代で 21.2%と高くなっている。

生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている者の割合は、男性 11.4%、女性 7.9%である。男性は 50 歳代で高く 21.5%、女性は 40 歳代で高く 21.2%である。

平成 22 年調査に比べ、男性は生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている者の割合が有意に減少した。

図 15-1 飲酒習慣のある者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別)

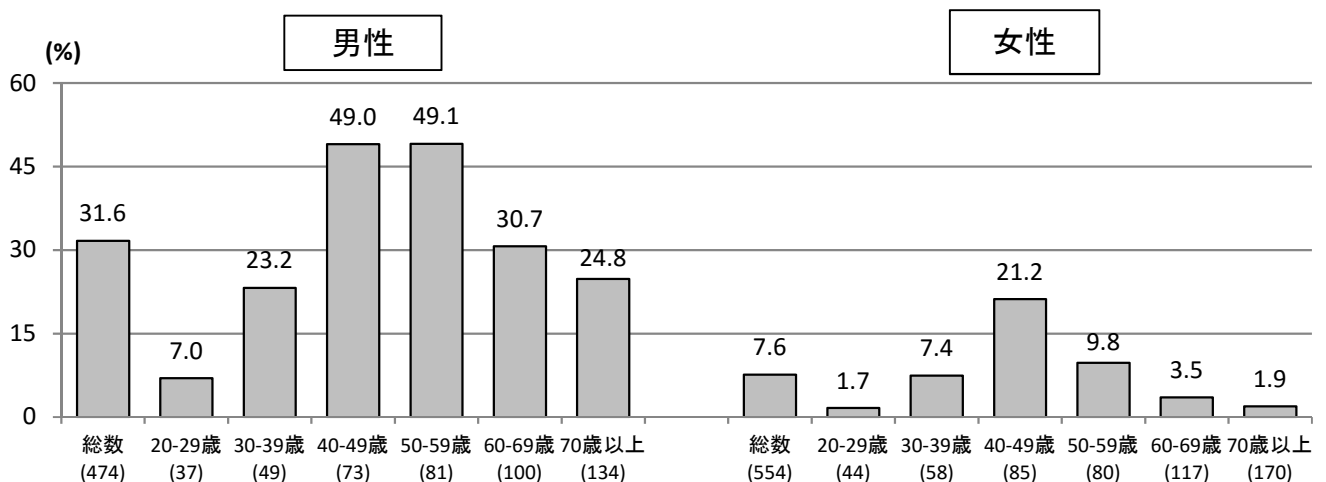
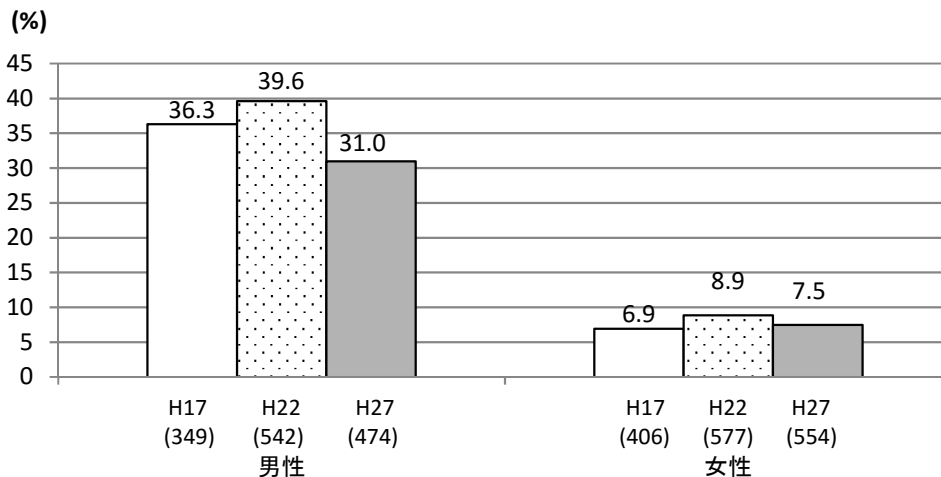


図 15-2 飲酒習慣のある者の割合、年次推移(20 歳以上、性別、年齢調整値)



※飲酒習慣のある者:週 3 日以上、飲酒日 1 日あたり1合以上飲酒すると回答した者

清酒 1 合(180ml)は、次の量にほぼ相当します。

ビール・発泡酒中瓶 1 本 (約 500ml)、焼酎 20 度 (135ml)、焼酎 25 度 (110ml)、

焼酎 35 度 (80ml)、チューハイ 7 度 (350ml)、ウィスキーダブル 1 杯 (60ml)、ワイン 2 杯 (240ml)

図 15-3 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別)

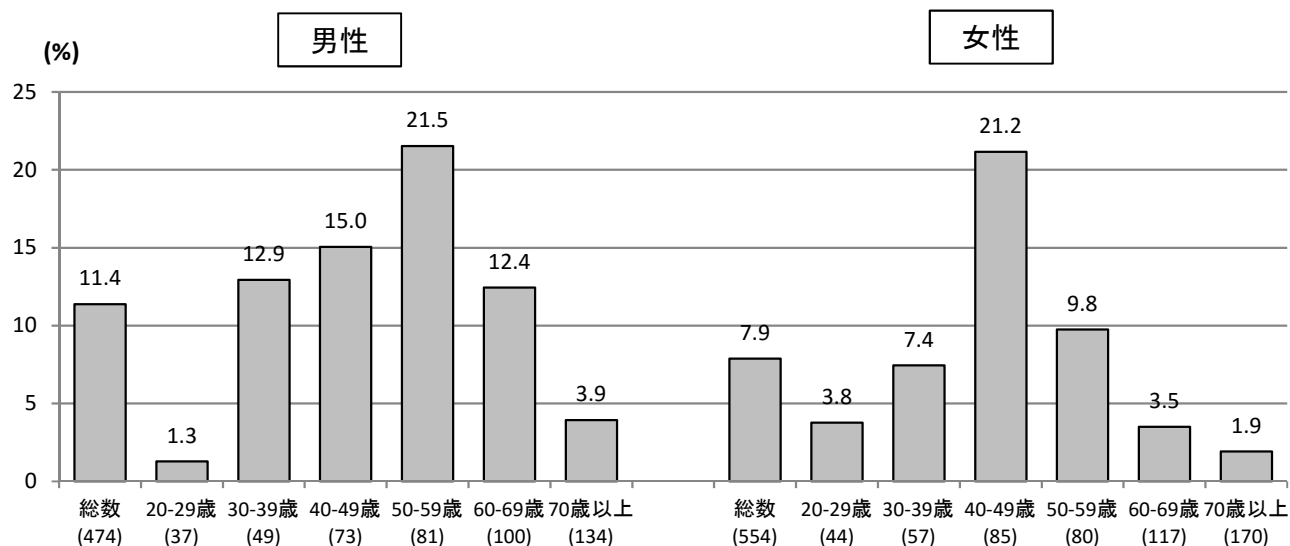
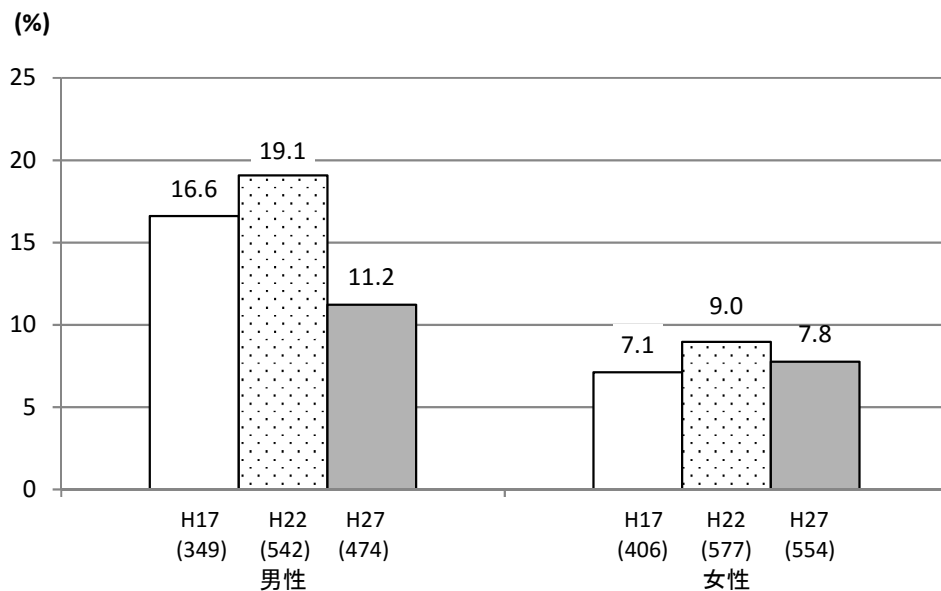


図 15-4 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合、年次推移(20 歳以上、性別、年齢調整値)



※「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者」とは、1日当たりの純アルコール摂取量が男性で40g 以上、女性 20g 以上の者とし、以下の方法で算出した。

- ①男性:「毎日×2合以上」+「週5～6日×2合以上」+「週3～4日×3合以上」+「週1～2日×5合以上」+「月1～3日×5合以上」
- ②女性:「毎日×1合以上」+「週5～6日×1合以上」+「週3～4日×1合以上」+「週1～2日×3合以上」+「月1～3日×5合以上」

(5)生活習慣病等に関する状況

1. 生活習慣病の状況

医療機関や健診で高血圧症と言われたことのある者の割合は男性 31.7%、女性 22.6%である。糖尿病と言われたことのある者の割合は男性 12.8%、女性 7.7%である。脂質異常症と言われたことのある者の割合は男性 35.4%、女性 34.6%である。平成 22 年調査と比べると、全疾患男女ともにほぼ横ばいである。

図 16-1 医療機関や健診で高血圧、糖尿病、脂質異常症と言われたことがある者の割合

(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 これまでに医療機関や健診で高血圧と言われたことがありますか。

これまでに医療機関や健診で糖尿病と言われたことがありますか。

これまでに医療機関や健診で血中コレステロール(総コレステロールまたは LDL コレステロール)が高いと言われたことがありますか。]

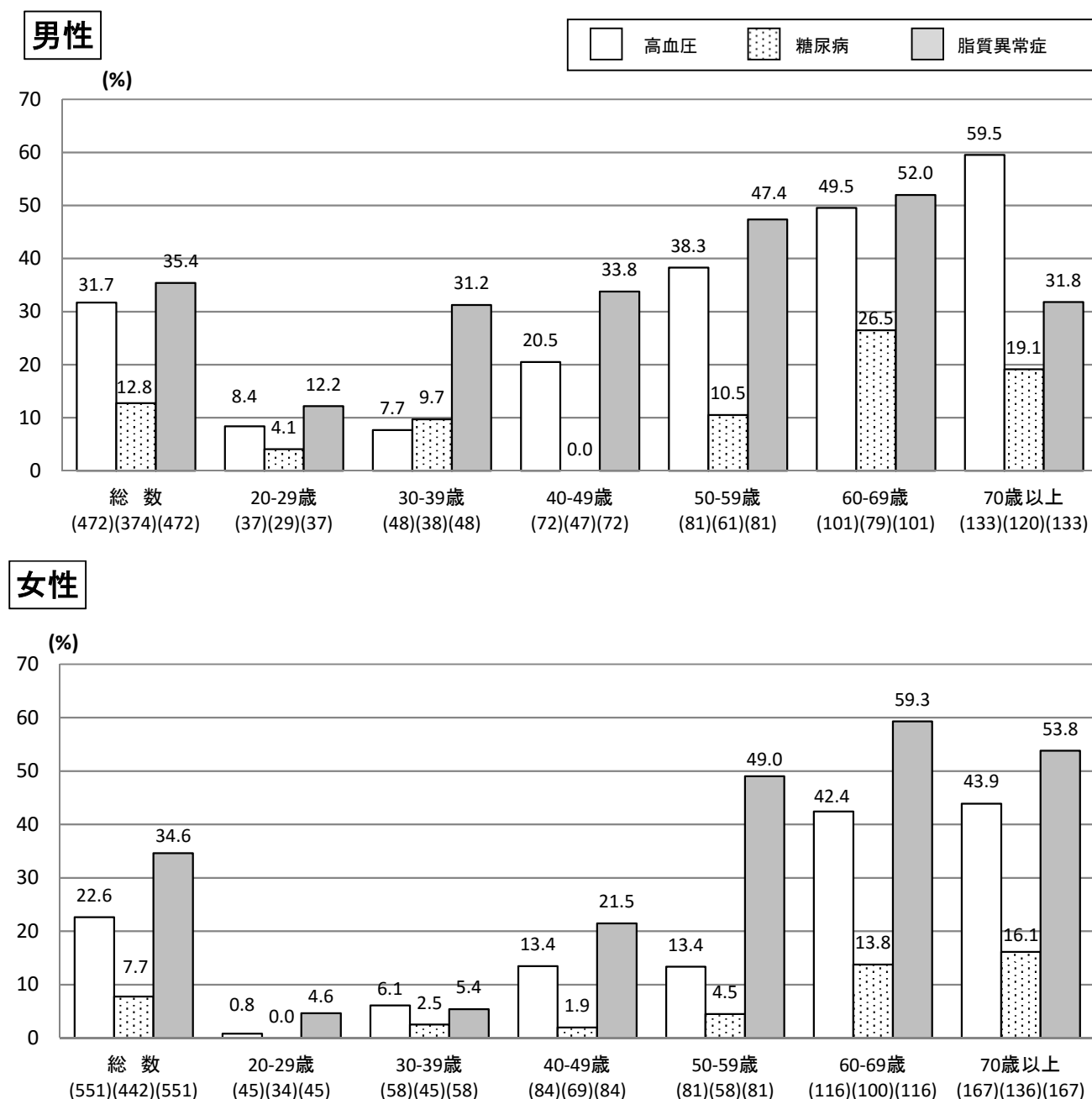


図 16-2 高血圧と言われたことのある者の割合 年次推移(20 歳以上、性別、年齢調整値)

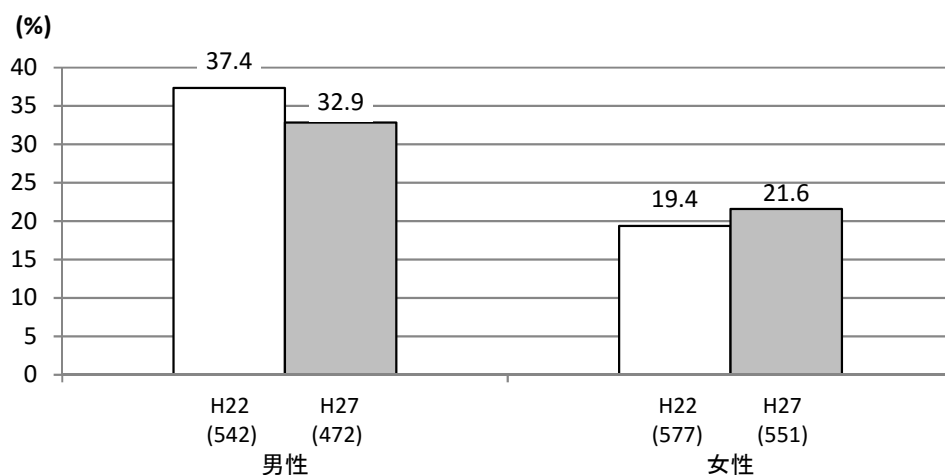


図 16-3 糖尿病と言われたことのある者の割合 年次推移(20 歳以上、性別、年齢調整値)

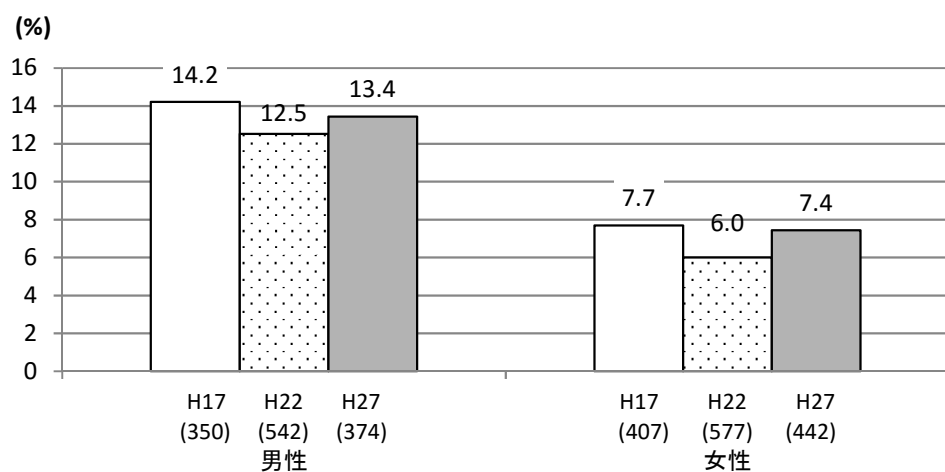
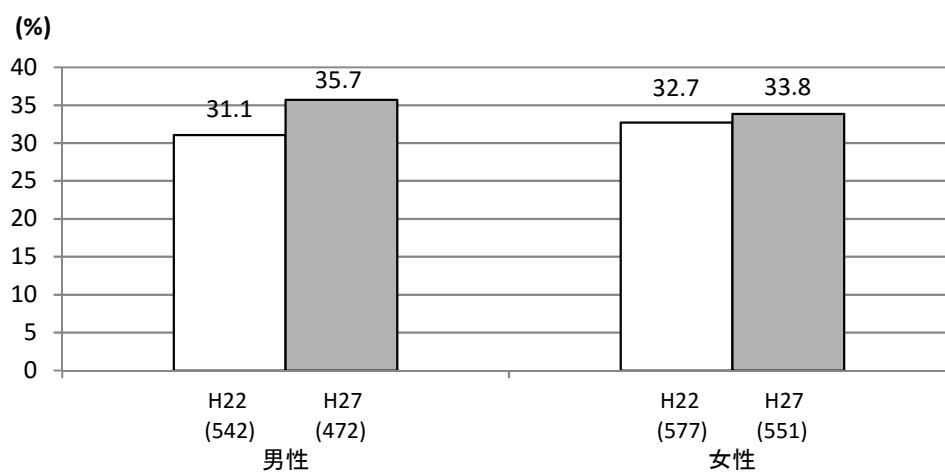


図 16-4 脂質異常症と言われたことのある者の割合 年次推移(20 歳以上、性別、年齢調整値)



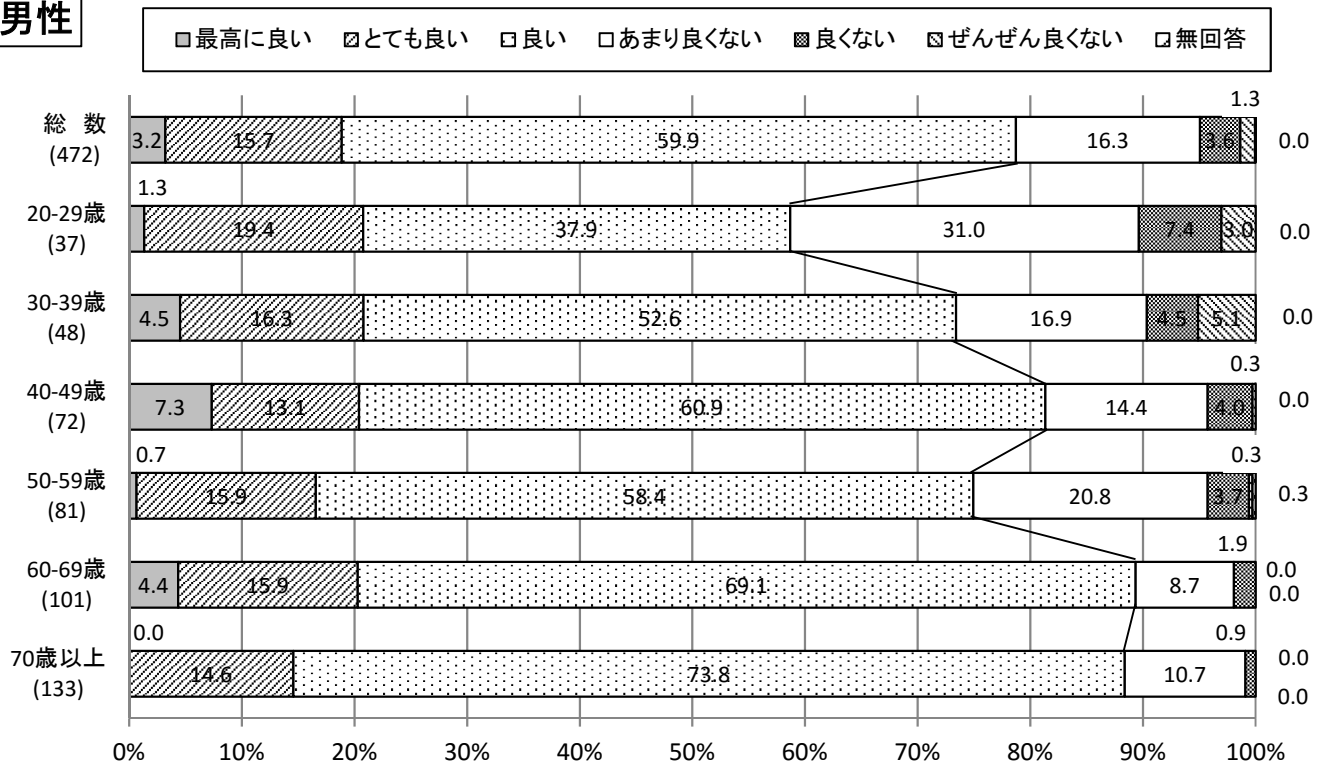
2. 健康状態の自覚

過去1ヶ月間の健康状態の自覚は、良い（最高に良い・とても良い・良い）と回答した者の割合は男性 78.8%、女性 76.8%である。良いと回答した者の割合が低いのは男性 20 歳代 58.6%、女性 40 歳代 71.3%、50 歳代 70.7%、70 歳以上 69.6%である。

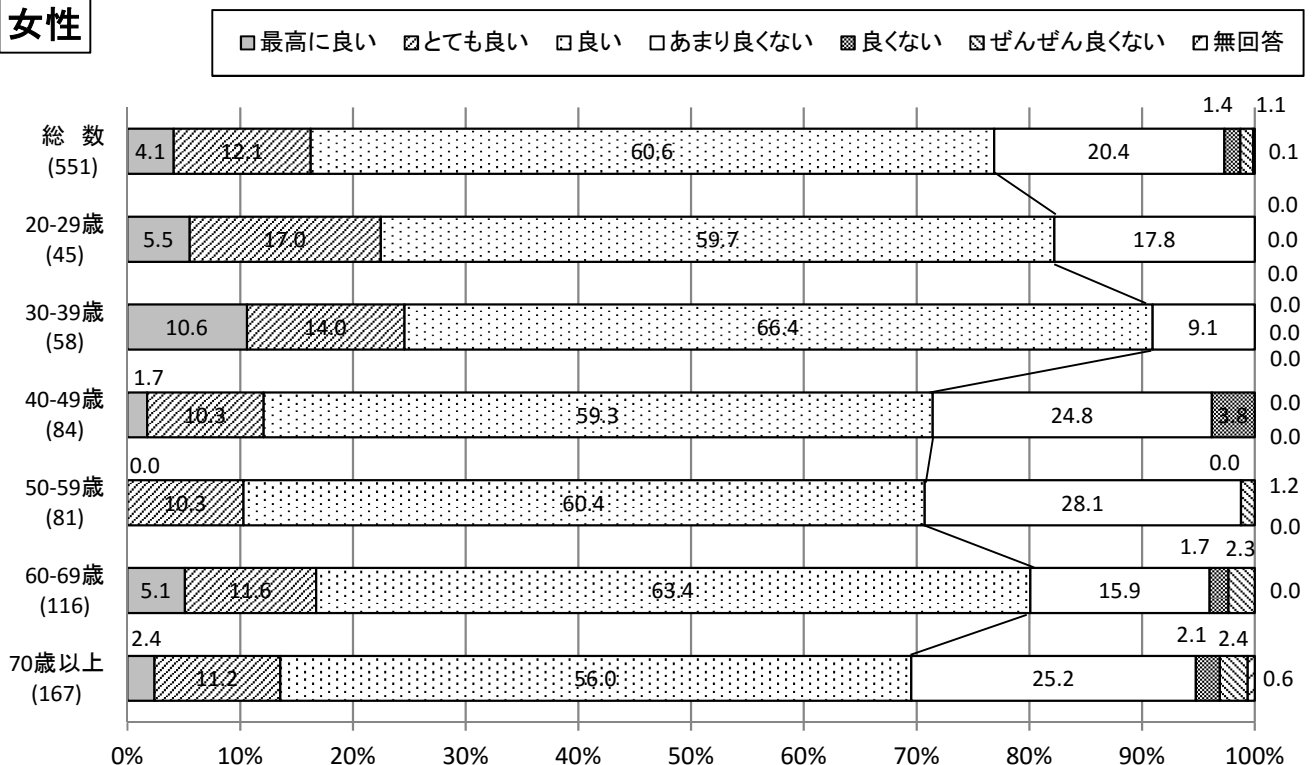
図 17 過去1ヶ月間の健康状態の自覚(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 全体的に見て、過去1ヶ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか。]

男性



女性



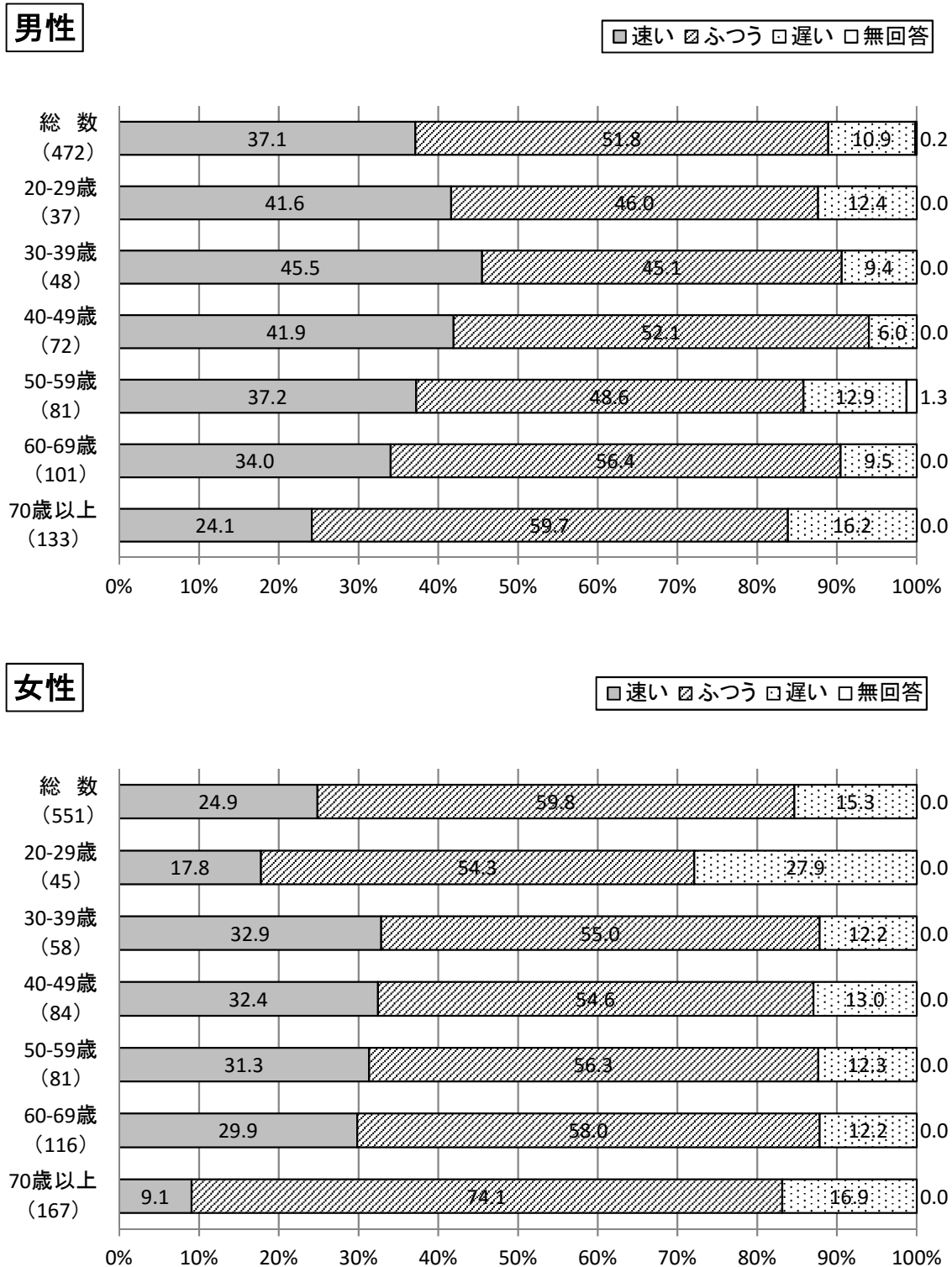
(6)食習慣の状況

1. 食べる速度

人と比較した際に食べる速度が速いと感じる者の割合は、男性 37.1%、女性 24.9%である。男性は 20 歳代、30 歳代、40 歳代で 40.0%以上が、女性は 30 歳代、40 歳代、50 歳代で 30.0%以上が人よりも食べるのが速いと回答している。

図 18 人と比較した際の食べる速さの自覚(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、人と比較して食べる速度が速いですか。]

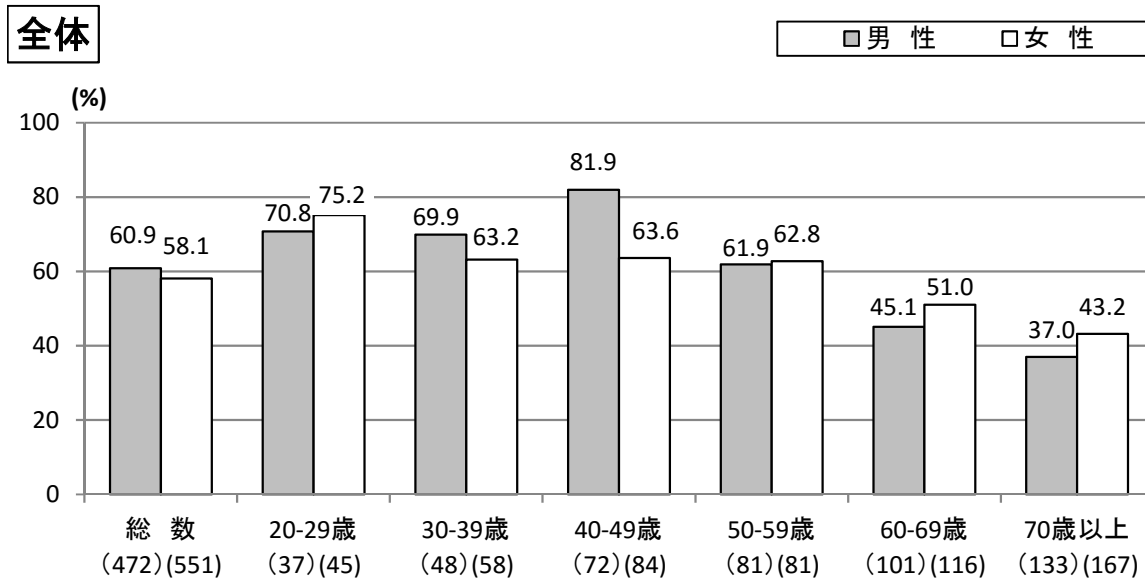


2. 満腹になるまで食べることについて

満腹になるまで食べていると回答した者の割合は男性 60.9%、女性 58.1%である。男性は 40 歳代 81.9%、女性は 20 歳代 75.2%で最も割合が高い。

図 19 満腹になるまで食べていると回答した者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、つついお腹いっぱい食べるほうですか。]

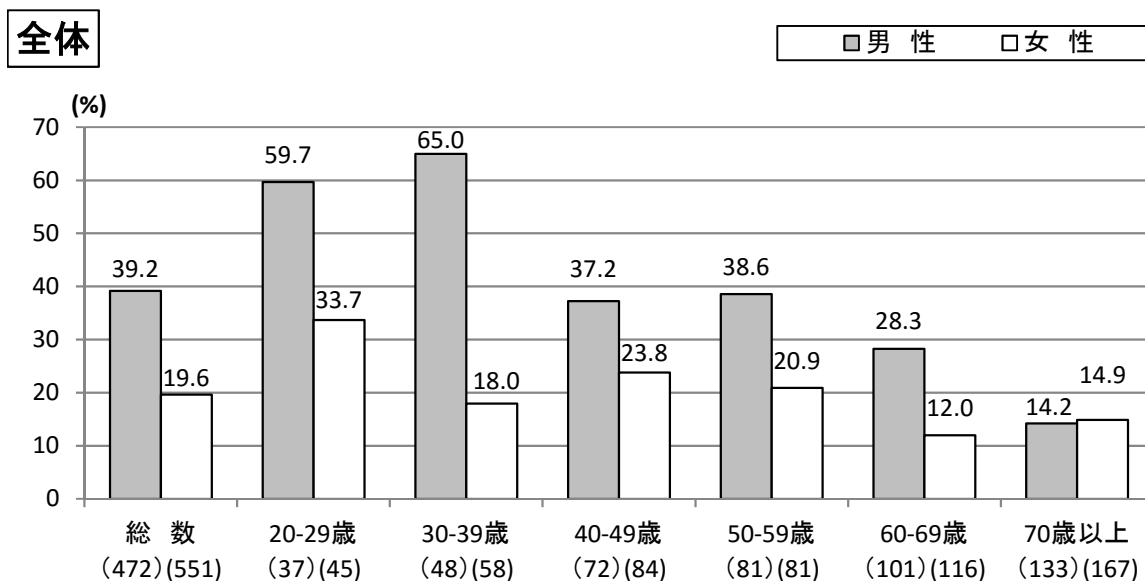


3. 就寝前 2 時間以内の夕食について

就寝前 2 時間以内に夕食を食べることが週 3 回以上と回答した者の割合は、男性 39.2%、女性 19.6%である。男性は 30 歳代 65.0%、女性は 20 歳代 33.7%で最も高い。

図 20 就寝前 2 時間以内に夕食を食べることが週 3 回以上と回答した者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、就寝前の 2 時間以内に夕食をとることが週に 3 回以上ありますか。]



4. 夕食後の間食について

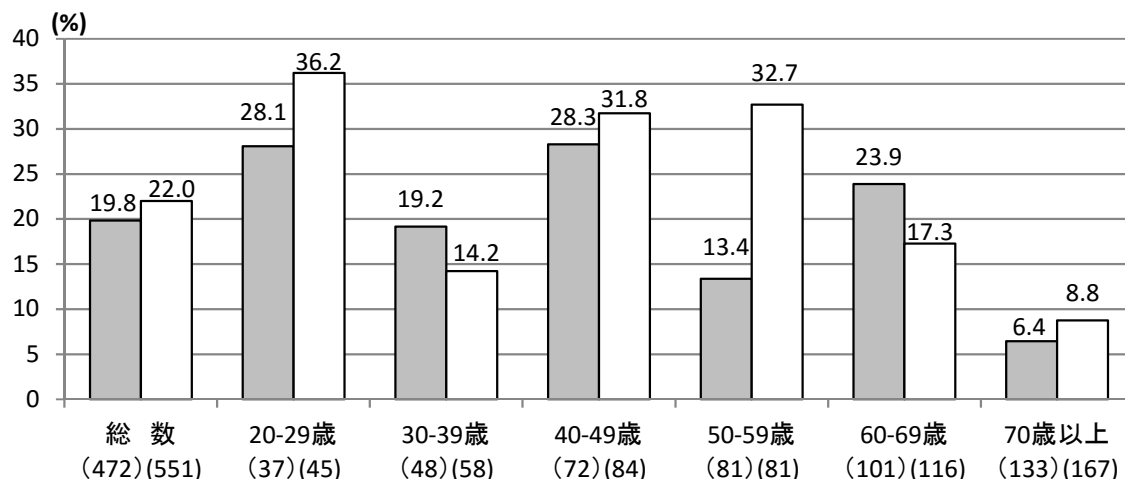
夕食後に間食を食べることが週3回以上と回答した者の割合は男性 19.8%、女性 22.0%である。男性は 40 歳代 28.3%、女性は 20 歳代 36.2%で最も高い。

図 21 夕食後に間食を食べることが週3回以上と回答した者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、夕食後に間食(3食以外の夜食)をとることが週に3回以上ありますか。]

全体

■男性 □女性



5. 清涼飲料の摂取頻度について

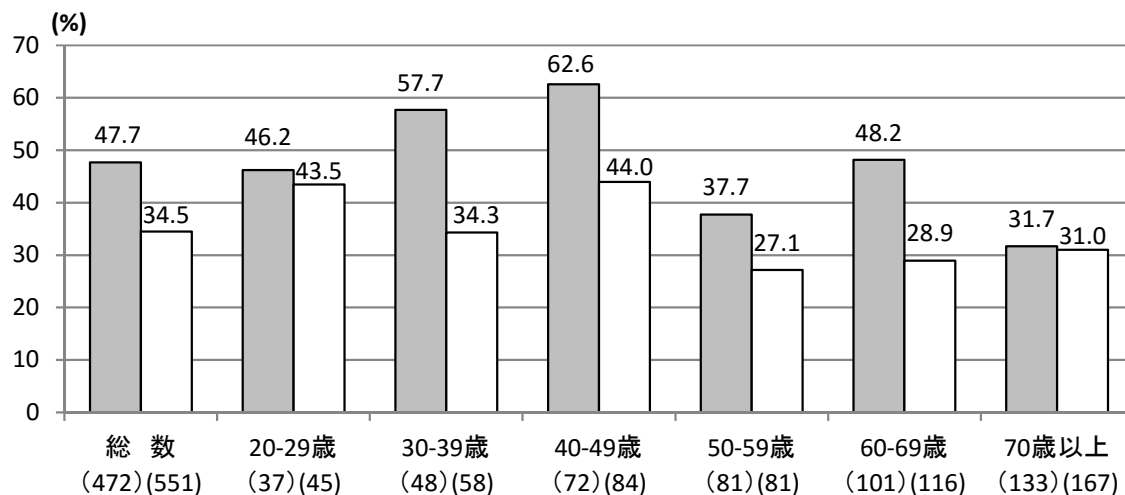
清涼飲料をほぼ毎日飲むと回答した者の割合は男性 47.7%、女性 34.5%である。男性は 40 歳代 62.6%、女性は 40 歳代 44.0%で最も高い。

図 22 清涼飲料をほぼ毎日飲むと回答した者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、甘みのある茶類やコーヒー、炭酸飲料、ジュース、スポーツドリンクなどをほぼ毎日飲みますか。]

全体

■男性 □女性

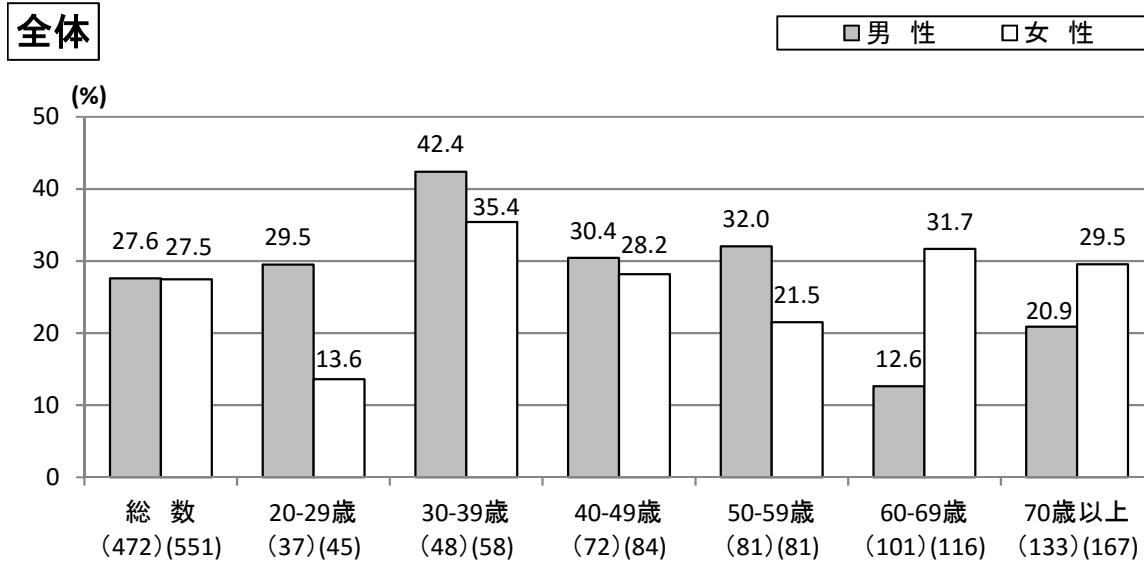


6. 家庭の煮物などの味付けについて

家庭の煮物の味付けが濃いと感ずると回答した者の割合は、男性 27.6%、女性 27.5%である。

図 23 家庭の煮物などの味付けが濃いと感ずると回答した者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたの家庭の煮物などの味付けは濃いほうですか。]

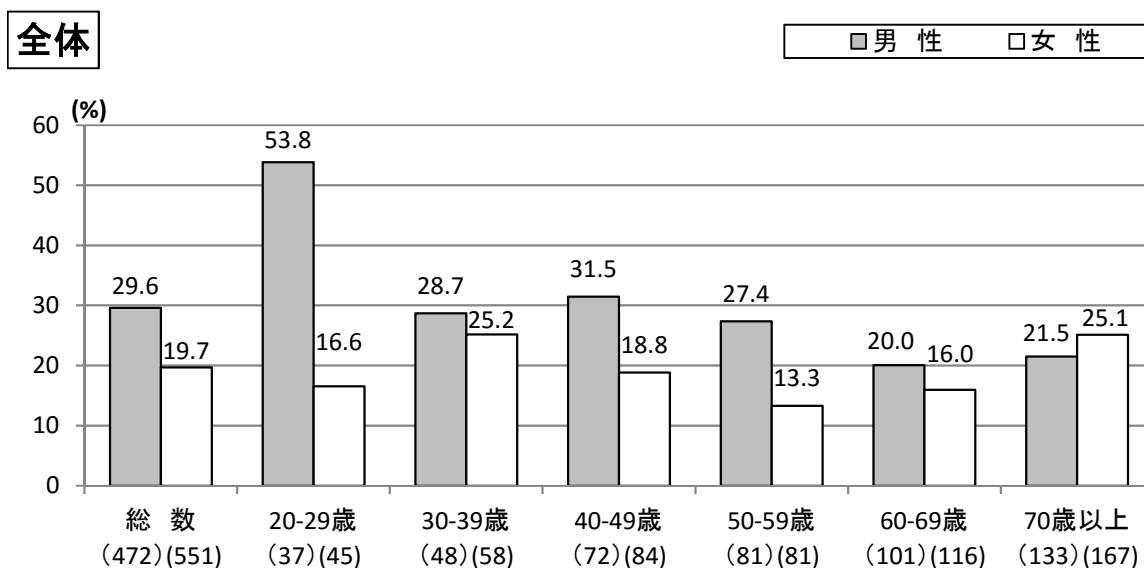


7. 汁物(みそ汁、スープ類)を飲む習慣

汁物を 1 日 2 杯以上飲むと回答した者の割合は、男性 29.6%、女性 19.7%である。

図 24 汁物を1日2杯以上飲むと回答した者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、汁物(みそ汁、スープ類)を1日2杯以上飲みますか。]



8. 単品料理(丼物、カレーライス、めん類など)を食べる習慣

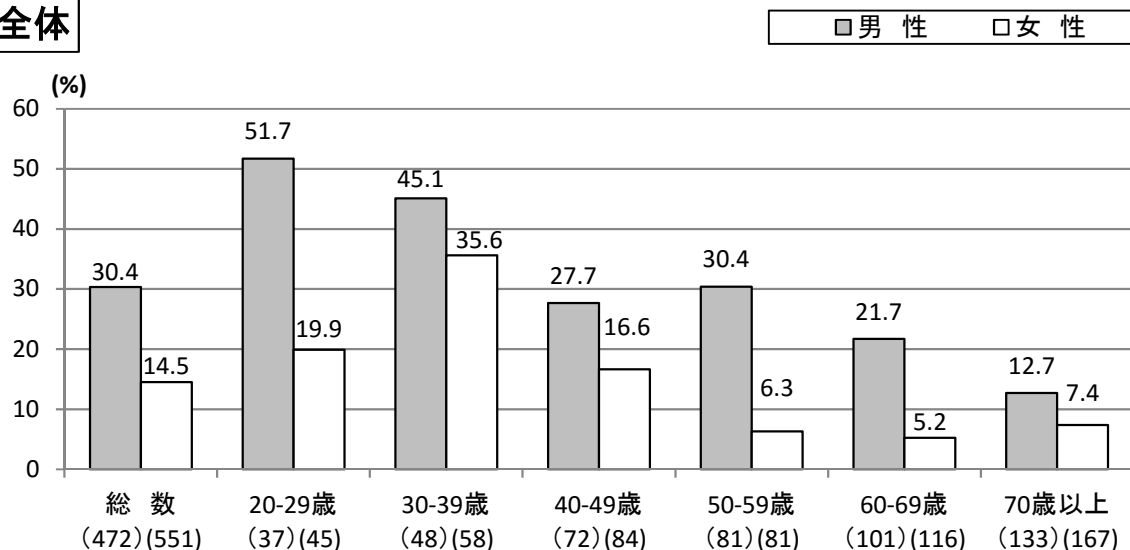
単品料理を週3日以上食べると回答した者の割合は男性 30.4%、女性 14.5%である。

男性は20歳代で51.7%と最も高く、年齢とともに低くなる傾向にある。女性は、30歳代で35.6%と最も高い。

図 25 単品料理を週3日以上食べると回答した者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、単品料理(牛丼、天丼などの丼物、カレーライスやめん類など)を食べる日は、週に3日以上ですか。]

全体



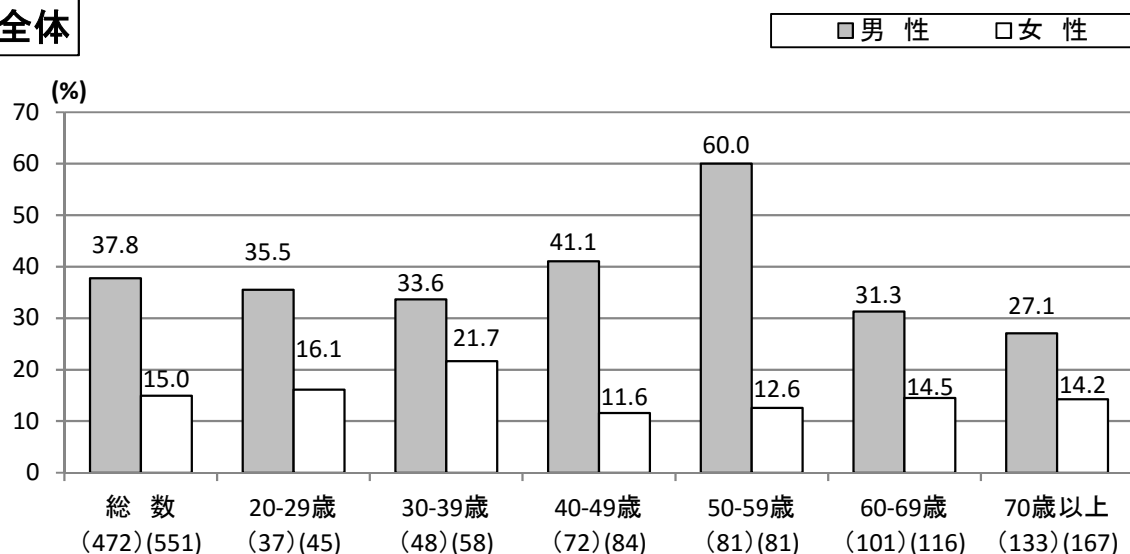
9. めん類の汁を飲む習慣

めん類の汁をほとんど全部飲むと回答した者の割合は男性 37.8%、女性 15.0%である。男性は50歳代で60.0%と最も高い。

図 26 めん類の汁をほとんど全部飲むと回答した者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、めん類の汁をほとんど全部飲みますか。]

全体



10. 塩蔵品(塩さけ、たらこ、佃煮など)を食べる習慣

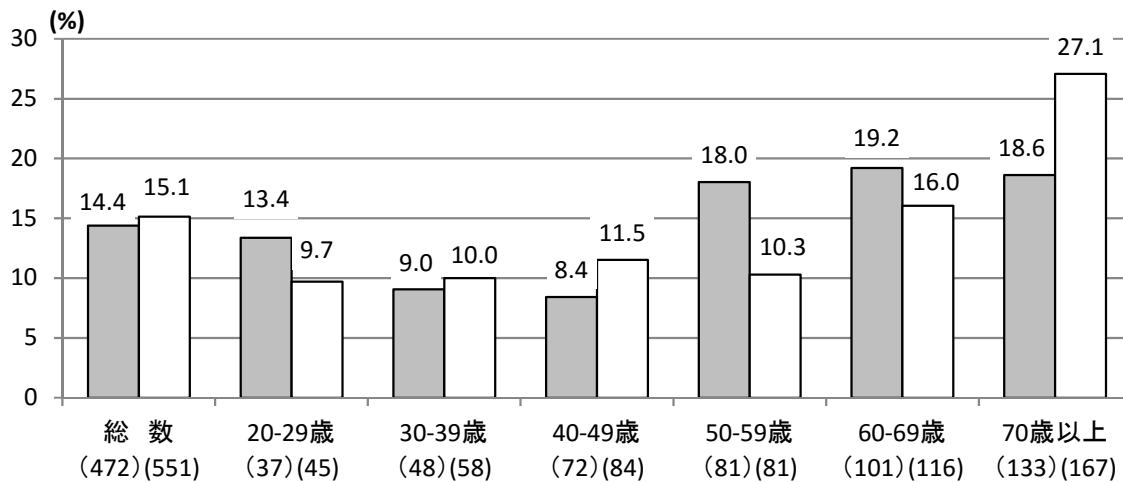
塩蔵品(塩さけ、たらこ、佃煮など)を週3日以上食べると回答した者の割合は、男性は14.4%、女性は15.1%である。男女ともに年齢とともに割合が高くなる傾向にある。

図 27 塩蔵品(塩さけ、たらこ、佃煮など)を週3日以上食べると回答した者の割合
(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、塩蔵品(塩さけ、たらこ、佃煮など)を食べる日は、週に3日以上ですか。]

全体

□男性 □女性



11. 調味料をかける習慣

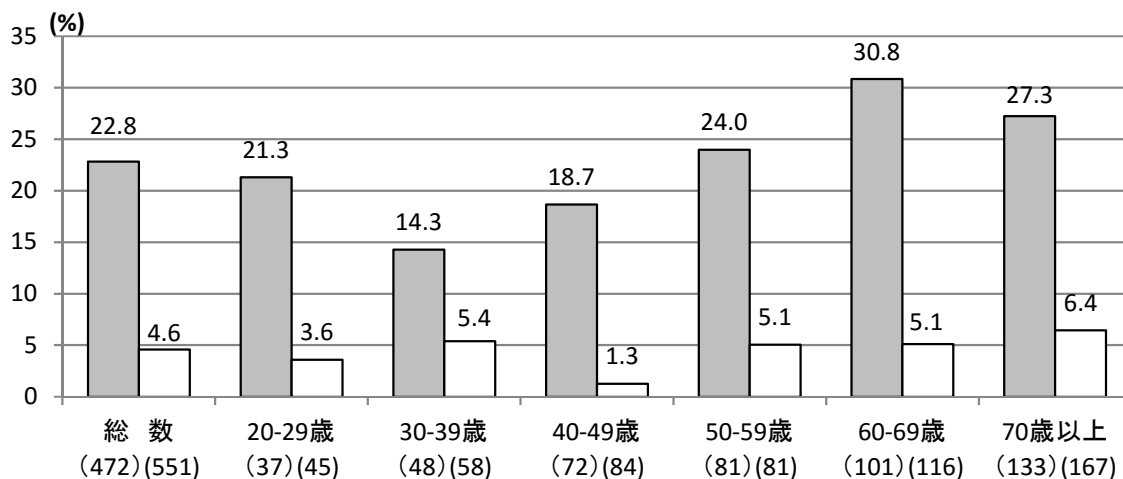
漬物や味付けしてあるおかずに、調味料をかけることが多いと回答した者の割合は、男性22.8%、女性4.6%である。男性は60歳代で30.8%と最も高い。

図 28 漬物や味付けしてあるおかずに、調味料をかけることが多いと回答した者の割合
(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、漬物や味付けしてあるおかずに、しょうゆやソースをかけることが多いですか。]

全体

□男性 □女性



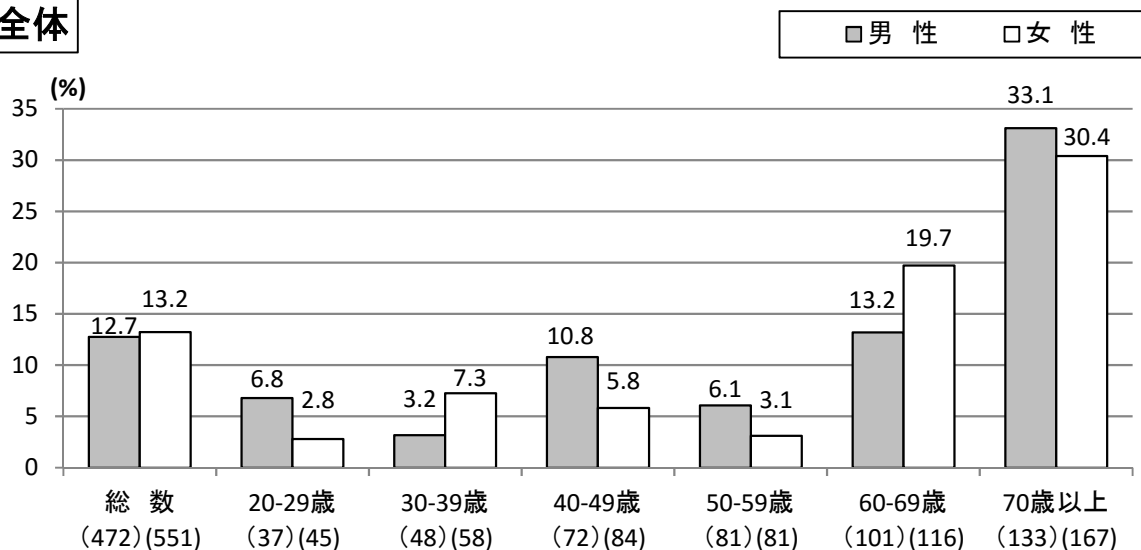
12. 漬物を食べる習慣

漬物を1日2回以上食べると回答した者の割合は、男性12.7%、女性13.2%である。男女ともに60歳代以上で増加し、70歳以上で30.0%以上となり最も高い。

図 29 漬物を1日2回以上食べると回答した者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、漬物を1日2回以上食べますか。]

全体



13. 食塩摂取量の知識について

1日あたりの食塩摂取目標量を知っていると回答した者の割合は、男性10.0%、女性24.8%である。また、正しく目標量を回答できた者の割合は、男性5.3%、女性10.5%である。

図 30-1 1日あたりの食塩摂取目標量を知っていると回答した者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、1日の食塩の摂取目標量を知っていますか。]

全体

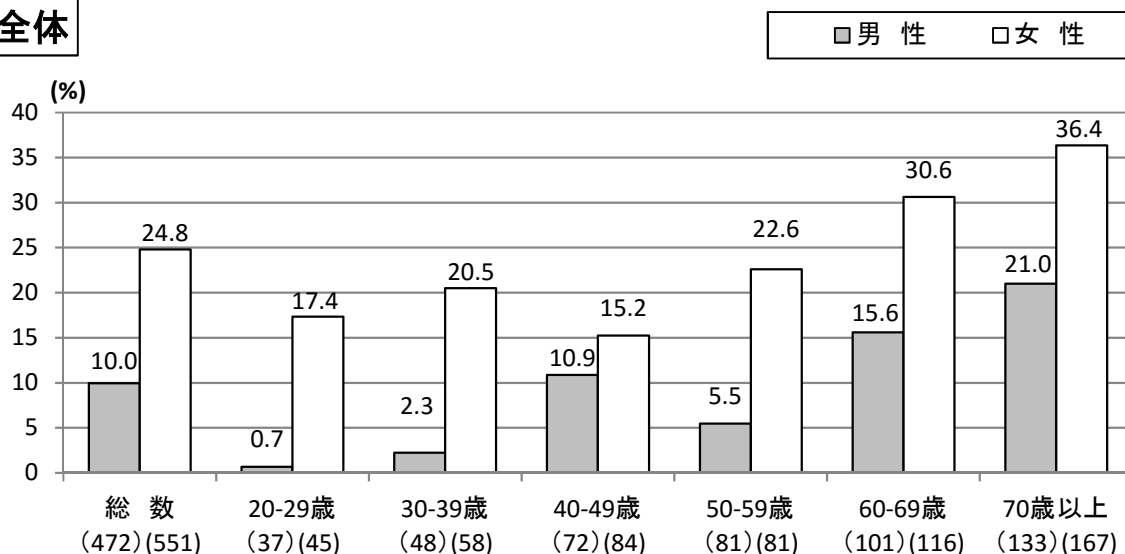
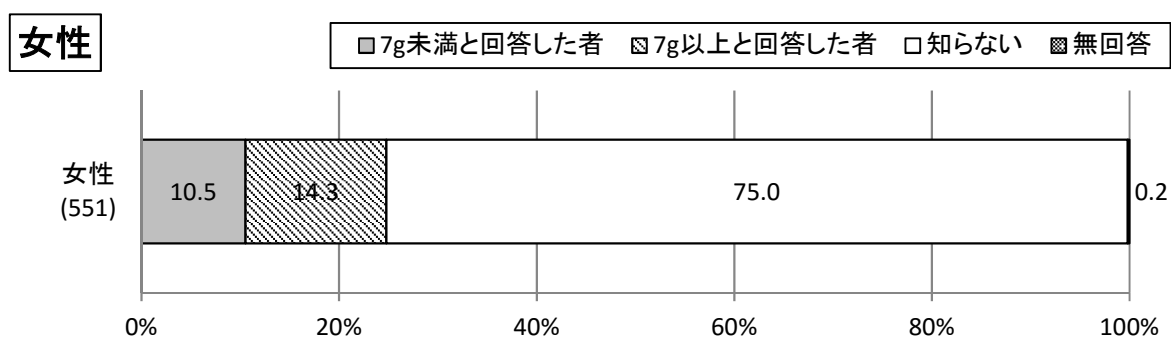
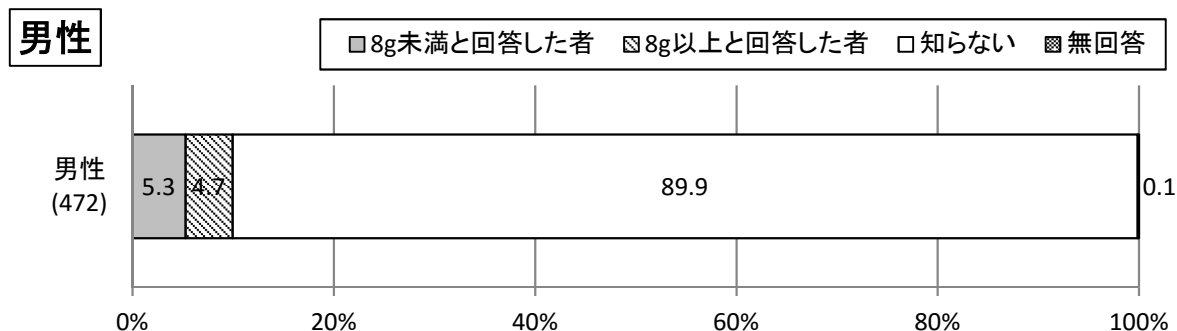


図 30-2 1日あたりの食塩摂取目標量(男性 8g 未満、女性 7g 未満)を正確に回答できた者の割合

(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 (1 日あたりの食塩摂取量について)何グラムですか]



日本人の食事摂取基準(2015)では、男性 8.0g 未満、女性 7g 未満が食塩摂取量の目標値となっています。

注 1) 生活習慣調査② 問 14 で 1 日の食塩摂取目標量を知らないと回答した者を「知らない」として算出

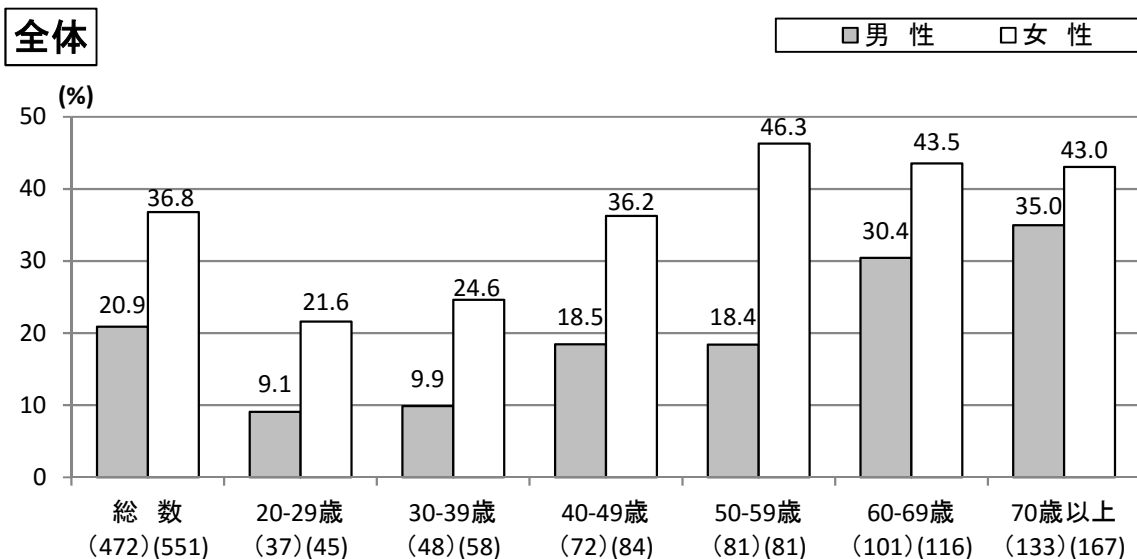
注 2) 保健所圏域ごとの標本数の偏りを調整する重み付けと県の実際の H27 人口構成に合わせるための重み付けをした値

14. 食品の食塩の表示の活用状況

食塩の表示を参考にしていると回答した者の割合は男性 20.9%、女性 36.8%である。男女ともに、年齢とともに割合が高くなる傾向にある。

図 31 食品購入時に食塩の表示を参考にしていると回答した者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、食品購入時、食塩の表示(ナトリウム量や食塩相当量、「減塩」などの表示)を参考にしていますか。]



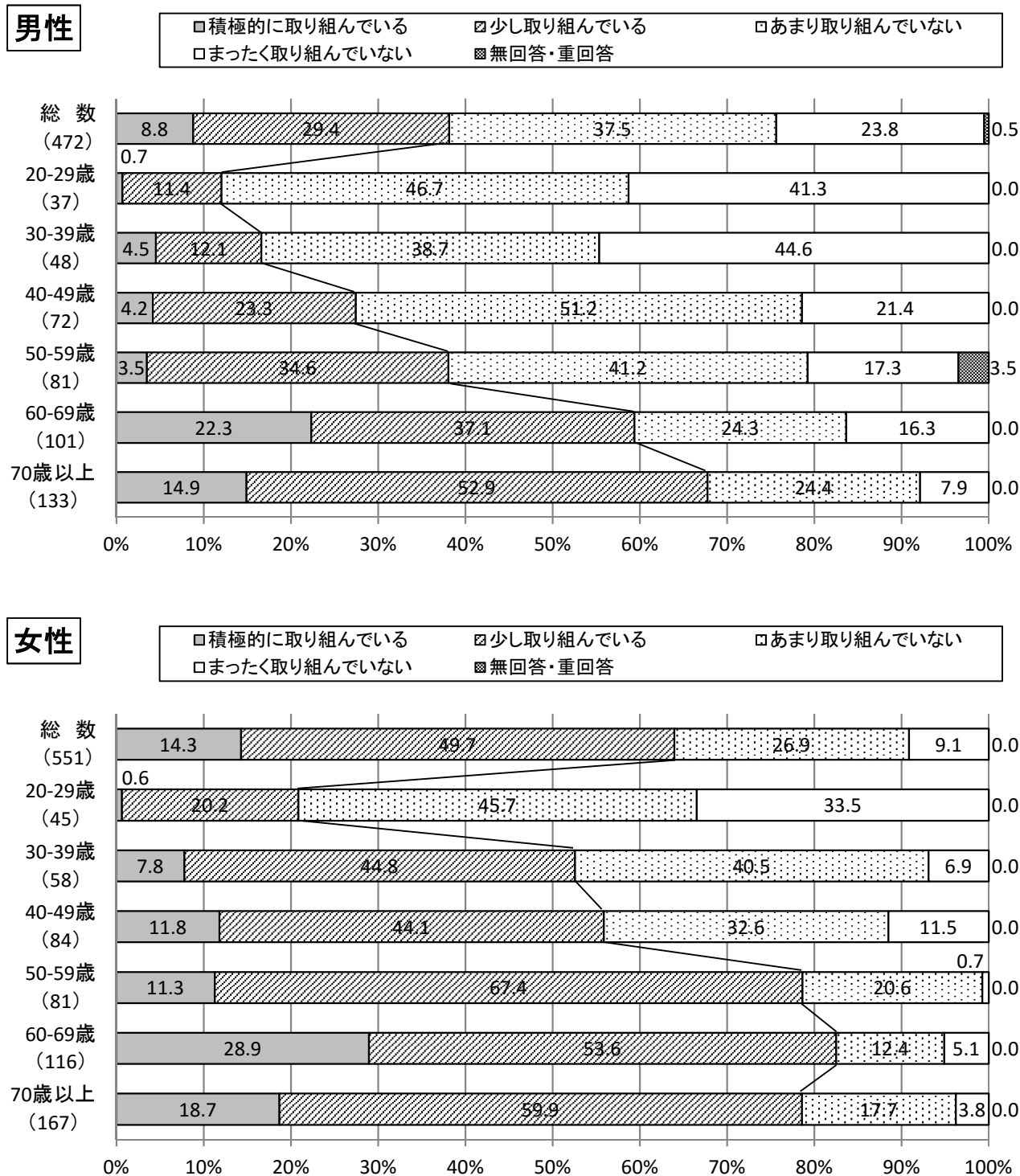
15. 減塩の取り組み状況

減塩に取り組んでいる（積極的に取り組んでいる・少し取り組んでいる）と回答した者の割合は、男性 38.2%、女性 64.0%である。

男女ともに、取り組んでいる者の割合は年齢とともに高くなる傾向にある。

図 32 減塩に取り組んでいると回答した者の割合（20 歳以上、性・年齢階級別）

[問 あなたは、ふだんの食事において、減塩に取り組んでいますか。]



16. 野菜摂取量の知識について

1日あたりの望ましい野菜摂取量を知っていると回答した者の割合は、男性 10.7%、女性 21.2%である。

また、正しく目標量を回答できた者の割合は、男性 7.4%、女性 16.4%である。

図 33-1 1日あたりの望ましい野菜摂取量を知っていると回答した者の割合(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、健康のために1日に食べることが望ましい野菜の重量を知っていますか。]

全体

□男 性 □女 性

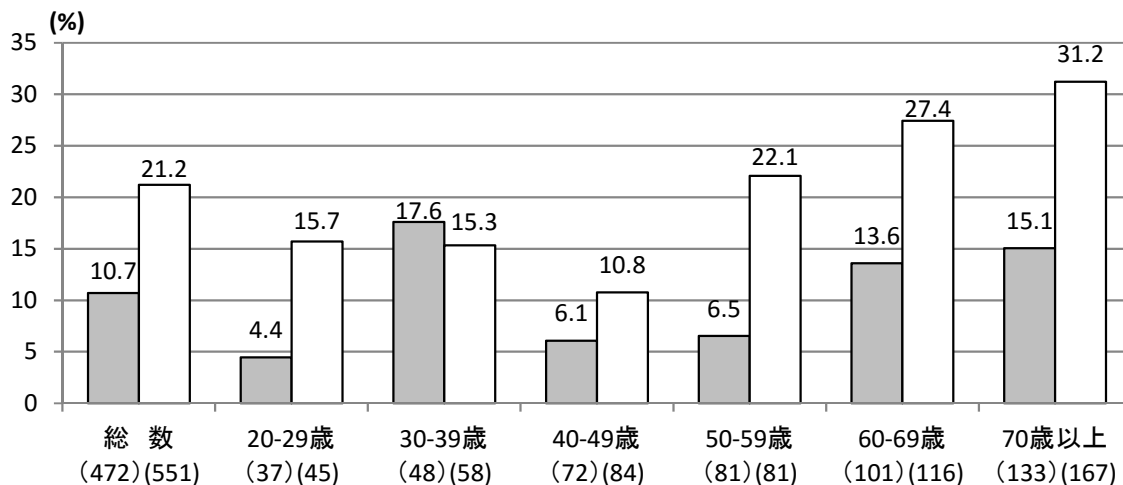


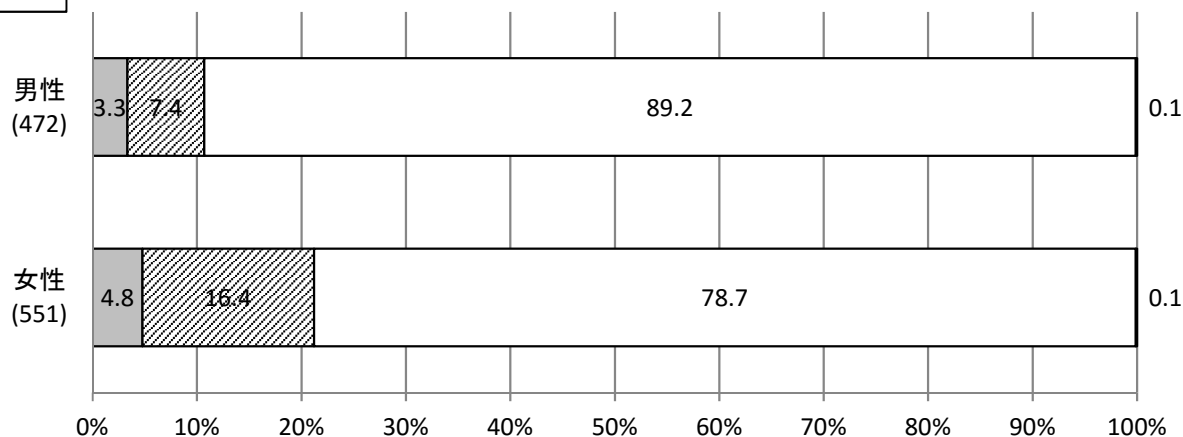
図 33-2 1日あたりの望ましい野菜摂取量(350g以上)を正確に回答できた者の割合

(20歳以上、性・年齢階級別)

[問 (1日あたりの望ましい野菜摂取量について)何グラムですか]

全体

□ 350g未満と回答した者 □ 350g以上と回答した者 □ 知らない ■ 無回答



健康日本 21(第二次)、健康ちば 21(第2次)では、野菜摂取量の目標値を 350g としています。

注 1) 生活習慣調査② 問 17 で 1 日の野菜摂取目標量を知らないと回答した者を「知らない」として算出

注 2) 保健所圏域ごとの標本数の偏りを調整する重み付けと県の実際の H27 人口構成に合わせるための重み付けをした値

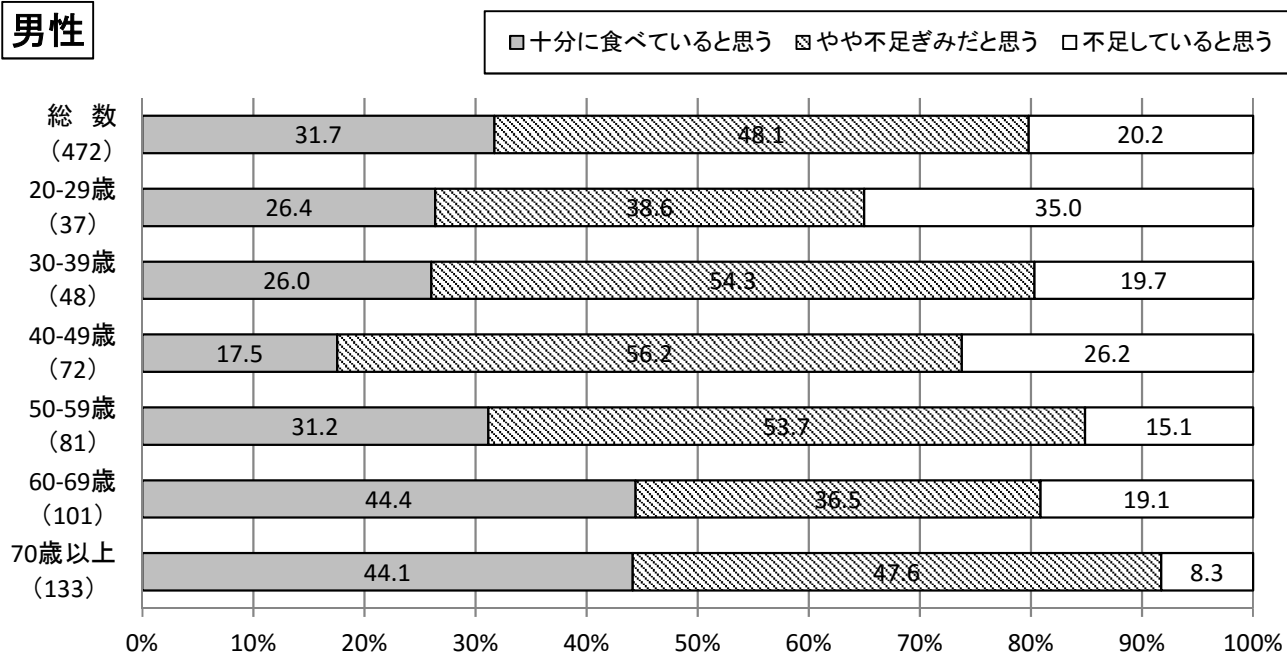
17. 野菜の摂取状況(自覚)

野菜を十分に食べていると思うと回答した者の割合は男性 31.7%、女性 34.7%である。男女ともに、50 歳以上から、十分に食べていると思う者が増加する。

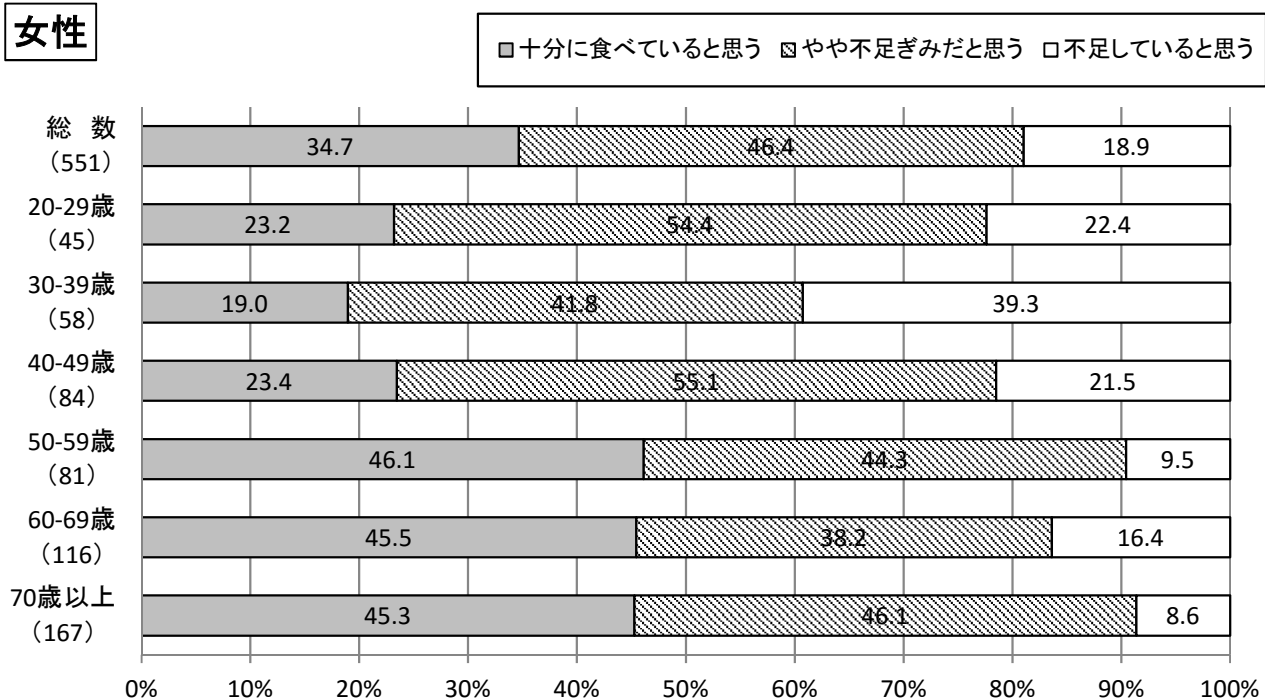
図 34 野菜摂取に関する自覚(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、ふだんの食事で十分に野菜を食べていると思いますか。]

男性



女性



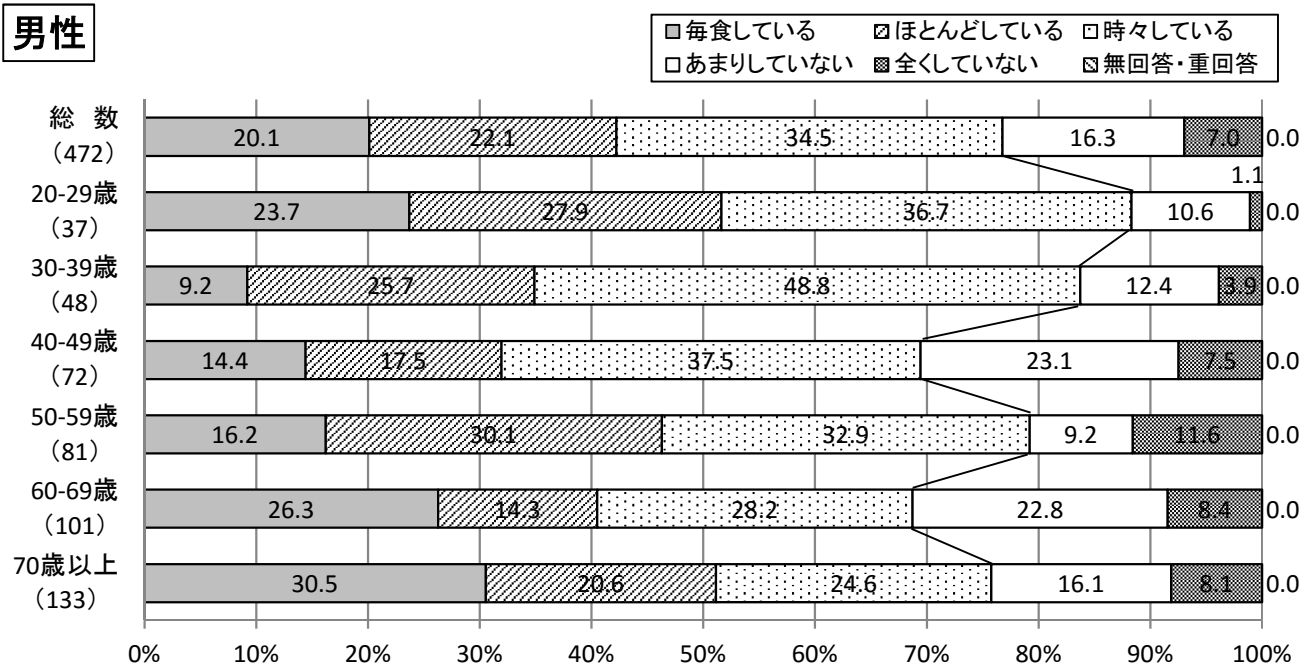
18. 食を通じたコミュニケーションの状況

食事の時、誰かと一緒に食卓を囲むなど、食を通じたコミュニケーションをとっている者（毎食している・ほとんどしている・時々している）の割合は、男性 76.7%、女性 87.8%である。

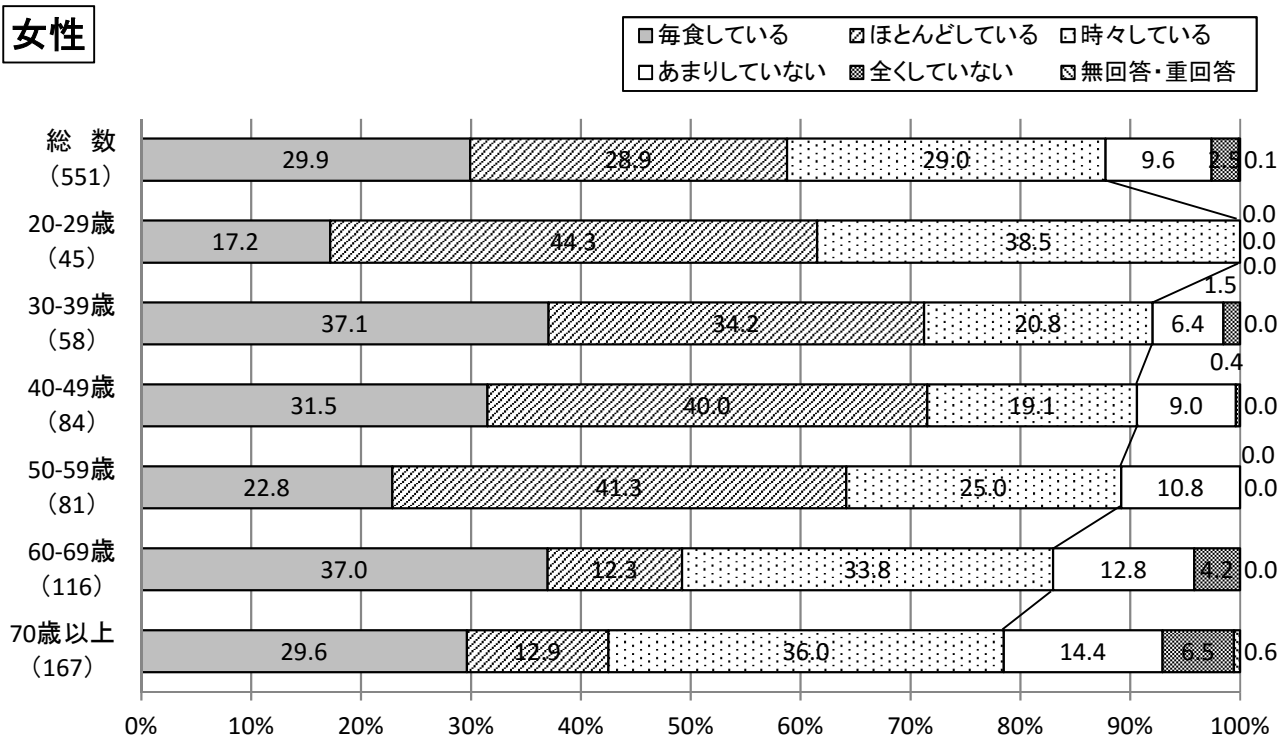
図 35 食事の時、誰かと一緒に食卓を囲むなど、食を通じたコミュニケーションをとっている者の割合
(20 歳以上、性・年齢階級別)

[問 あなたは、家族や友達と食卓を囲み、食事を楽しむ機会を持つなど、食を通じたコミュニケーションをとっていますか。]

男性



女性



19. 食習慣と体型及び食塩摂取量

<食習慣と BMI の平均値>

20～39 歳、65 歳以上の男性は、「人と比較して食べる速度が速い」「満腹まで食べる」「よく噛んで食べない」者の方が、そうでない者に比べて BMI が有意に高い。

また、65 歳以上の男性は「夕食後に夜食をとることが週 3 回以上ある」者の方が、そうでない者に比べ BMI が有意に高い。

40～64 歳、65 歳以上の女性は、「満腹まで食べる」者の方が、そうでない者に比べ BMI が有意に高い。また 65 歳以上の女性は「人と比較して食べる速度が速い」者の方が、そうでない者に比べ BMI が有意に高い。

BMI の平均値は「人と比較して食べる速度が速い」「満腹まで食べる」「夕食後に夜食をとることが週 3 回以上ある」「よく噛んで食べない」と回答した者の方が高かった。

<食習慣と食塩摂取量の平均値>

20～39 歳男性は「塩蔵品を週 3 日以上食べる」者は、そうでない者に比べ食塩摂取量が有意に多い。

40～64 歳男性は「麺類の汁を全部飲む」者は、そうでない者に比べ食塩摂取量が有意に多い。

20～39 歳女性は「汁物を 1 日 2 杯以上飲む」者はそうでない者に比べ、食塩摂取量が有意に多い。

40～64 歳女性は「漬物を 1 日 2 回以上食べる」者はそうでない者に比べ食塩摂取量が有意に多い。

65 歳以上女性は「汁物を 1 日 2 杯以上飲む」「塩蔵品を週 3 日以上食べる」「漬物を 1 日 2 回以上食べる」者はそうでない者に比べ食塩摂取量が有意に多い。

食塩摂取量の平均値は「汁物を 1 日 2 杯以上飲む」「麺類の汁を全部飲む」「塩蔵品を週 3 日以上食べる」「漬物を 1 日 2 回以上食べる」と回答した者の方が高かった。

<食塩過剰摂取につながる食習慣の数別の食塩摂取量の平均値>

男女ともに、食塩のとりすぎにつながる食習慣の数が増えると食塩摂取量が多くなるという有意な傾向性が見られた。

図 36 食習慣と BMI の平均値(20 歳以上)

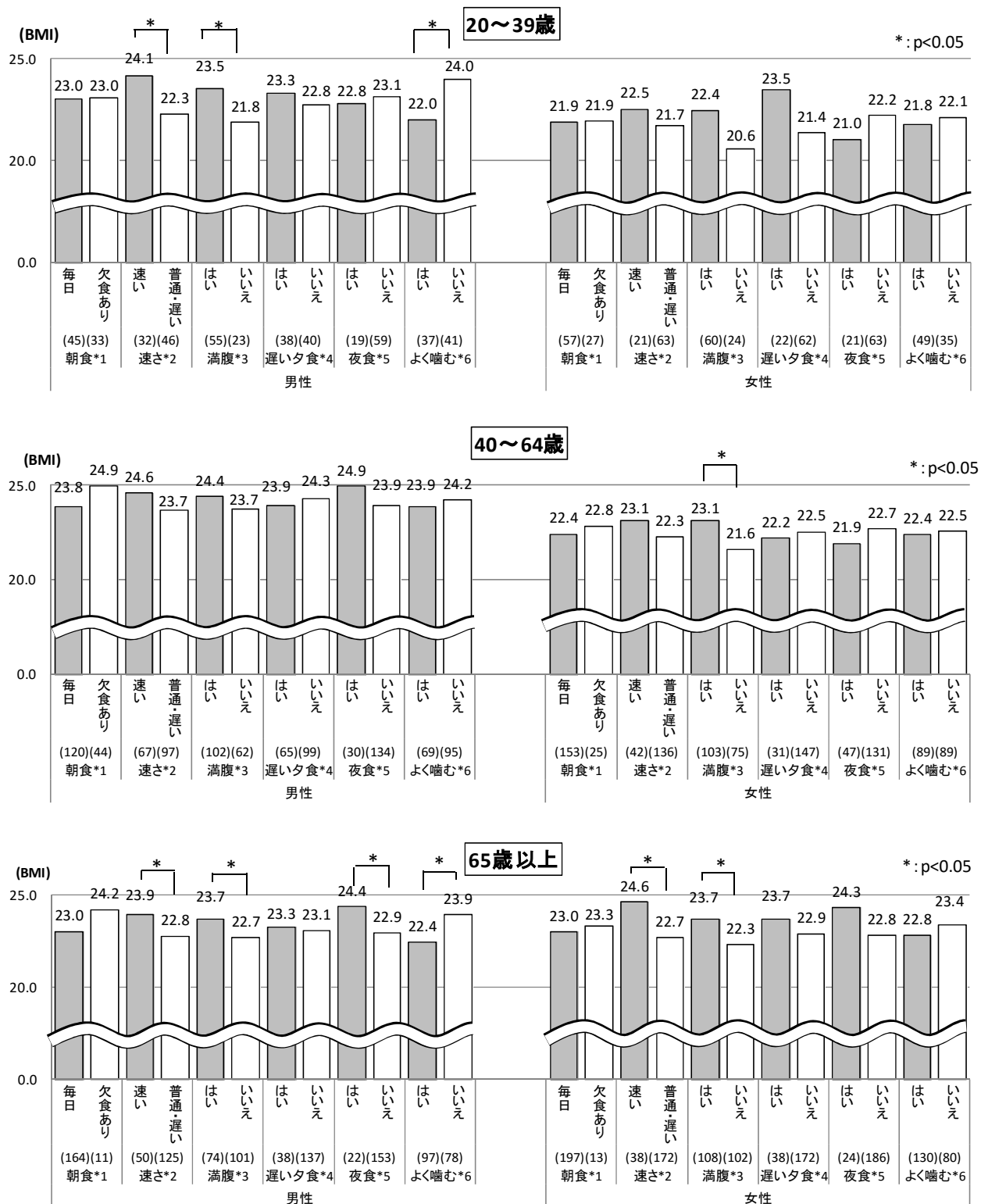
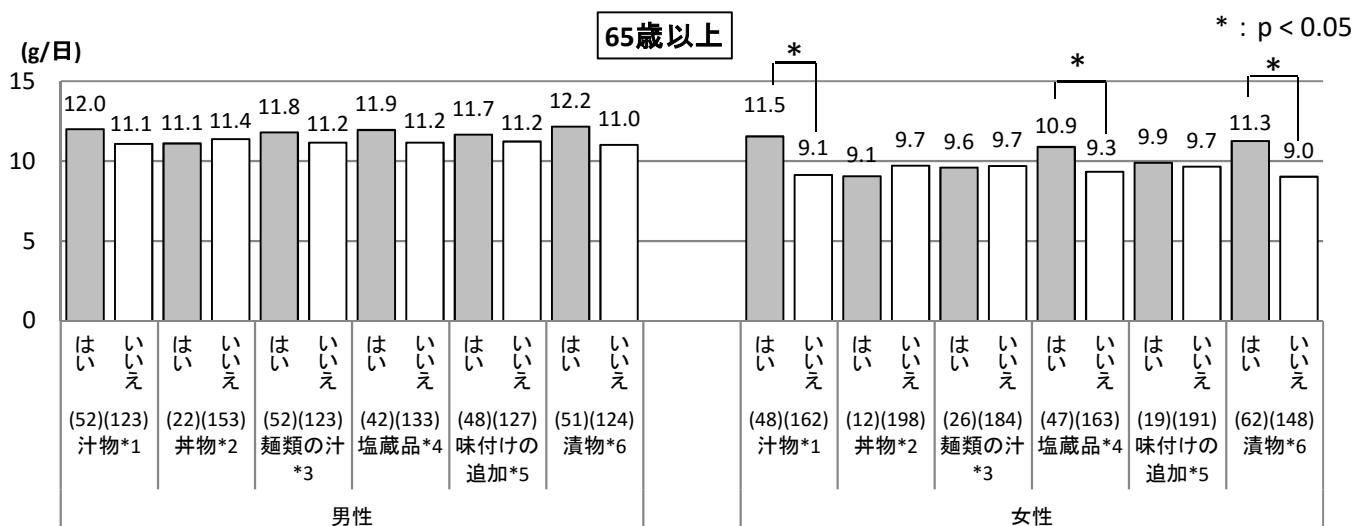
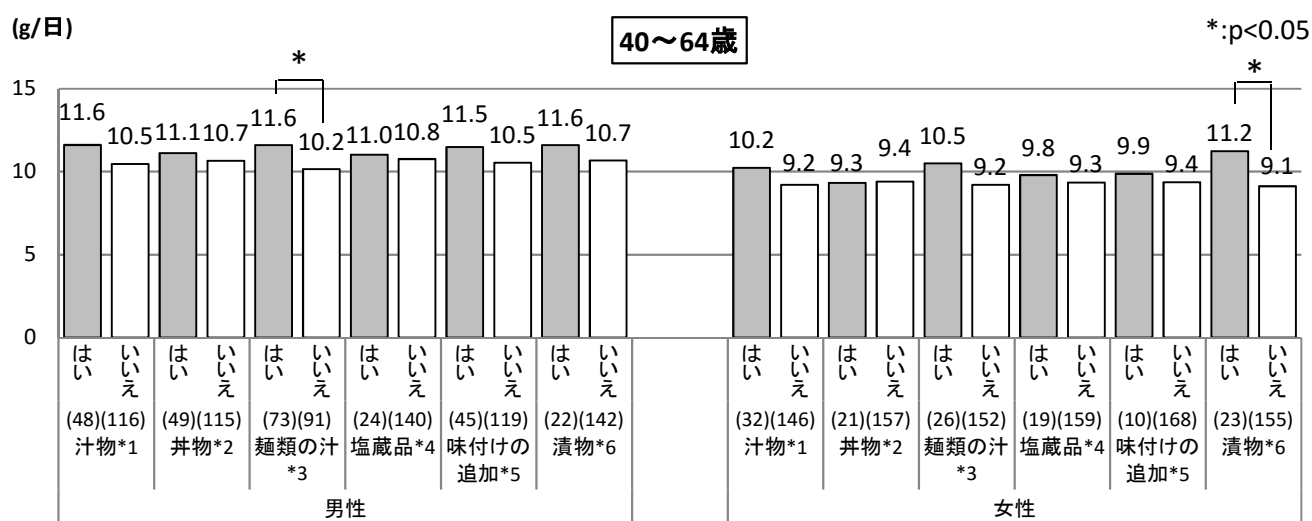
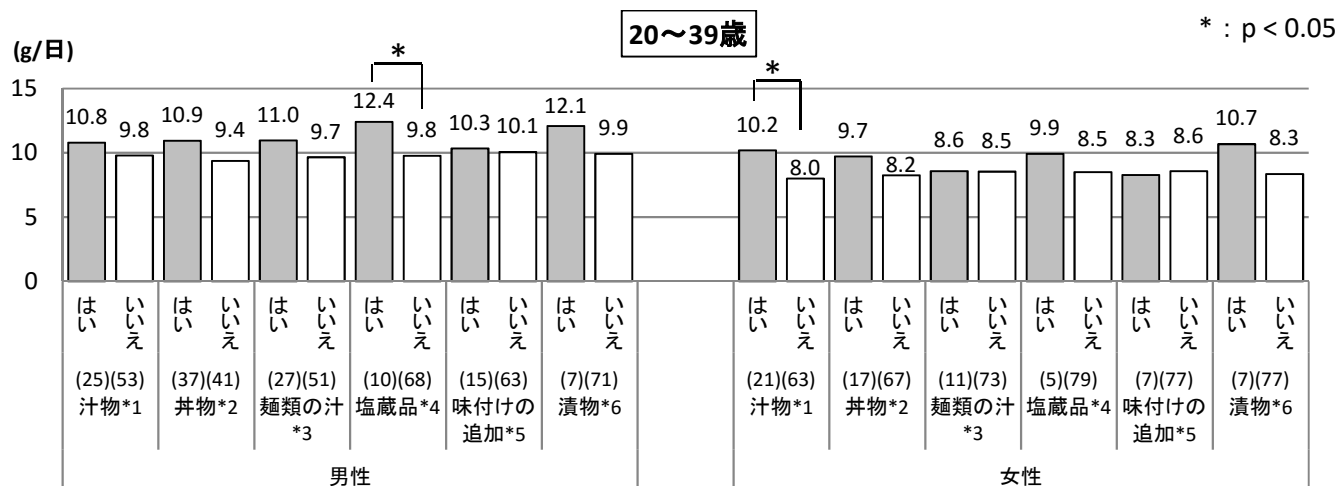


図 37 食習慣と食塩摂取量の平均値(20 歳以上)



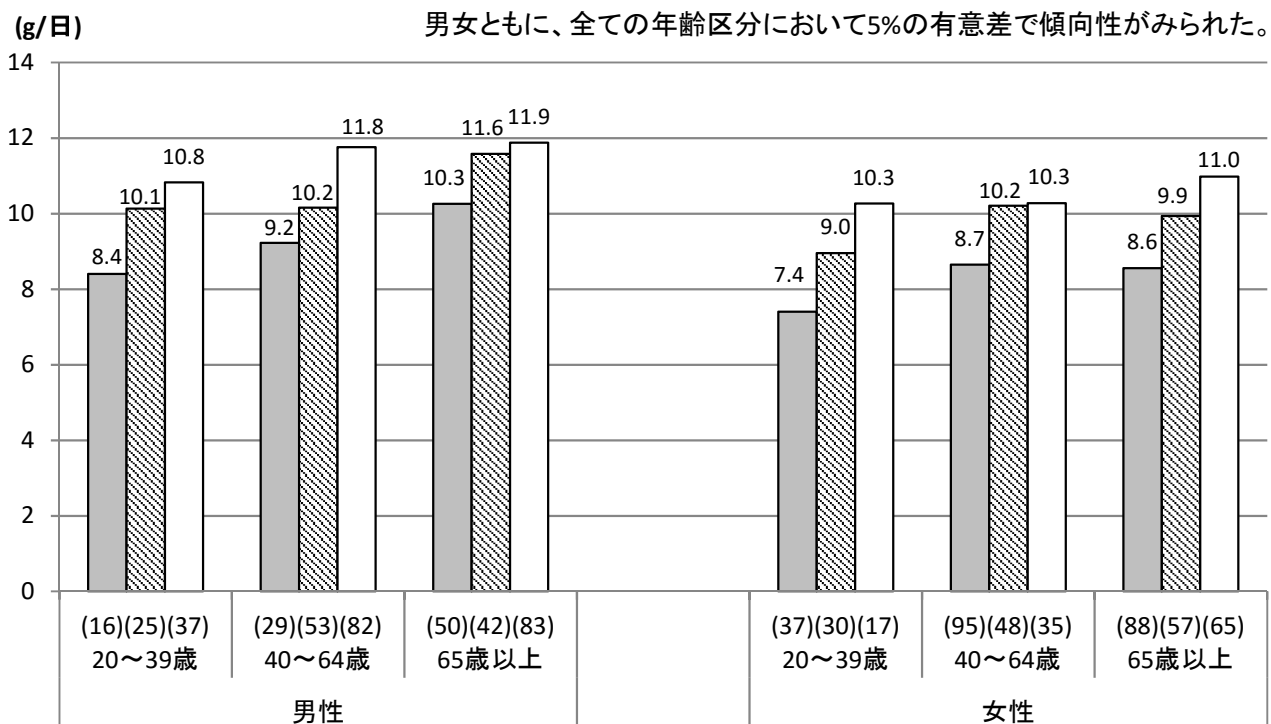
生活習慣調査②より

- *1 : 汁物の摂取頻度。『はい』1 日 2 杯以上、『いいえ』1 日 2 杯未満。
- *2 : 丼物、カレー、麺類の摂取頻度。『はい』週 3 日以上、『いいえ』週 3 日未満。
- *3 : 麺類の汁を全部飲む。『はい』全部飲む、『いいえ』全部飲まない。
- *4 : 塩蔵品の摂取頻度。『はい』週 3 日以上、『いいえ』週 3 日未満。
- *5 : 漬物や味付け済みの食品に醤油やソースをかける。『はい』かける、『いいえ』かけない。
- *6 : 漬物の摂取頻度。『はい』1 日 2 回以上、『いいえ』1 日 2 回未満。

図 38 食塩過剰摂取につながる食習慣の数別の食塩摂取量の平均値(20 歳以上)

全体

(項目数) □0つ ▨1つ □2つ以上



上記の項目数は、下記の設問に対して『はい』と回答した数である。(最少 0 つ～最大 6 つ)

生活習慣調査②より

問 8 : あなたは、汁物(味噌汁、スープ類)を 1 日 2 杯以上飲みますか。

問 9 : あなたは、単品料理(牛丼、天丼などの丼物、カレーライスや麺類など)を食べる日は週に 3 日以上ですか。

問 10 : あなたは、めん類の汁をほとんど全部飲みますか。

問 11 : あなたは、塩蔵品(塩さけ、たらこ、佃煮など)を食べる日は週に 3 日以上ですか。

問 12 : あなたは、漬物や味付けしてあるおかずに、しょうゆやソースをかけることが多いですか。

問 13 : あなたは、漬物を 1 日 2 回以上食べますか。

(7)睡眠・喫煙・歯の状況

1. 睡眠の状況

1日の平均睡眠時間は、男性は「6時間以上 7時間未満」が多く 39.6%、女性は6時間未満が多く 40.8%である。年次推移は、ほぼ変わらない状況である。

図 39-1 1日の平均睡眠時間（20歳以上、性・年齢階級別）

[問 ここ1ヶ月間、あなたの1日の平均睡眠時間はどのくらいでしたか。]

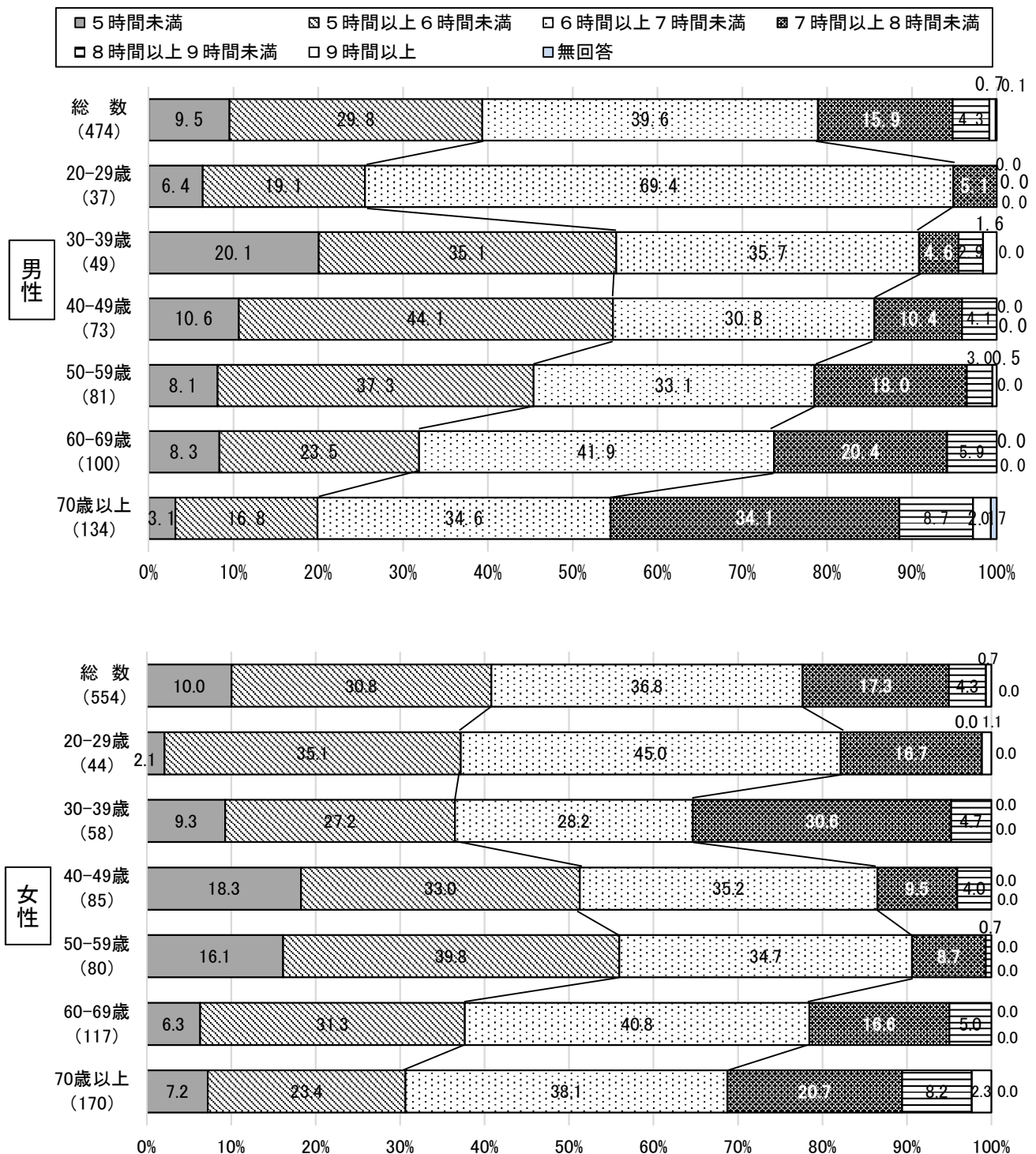
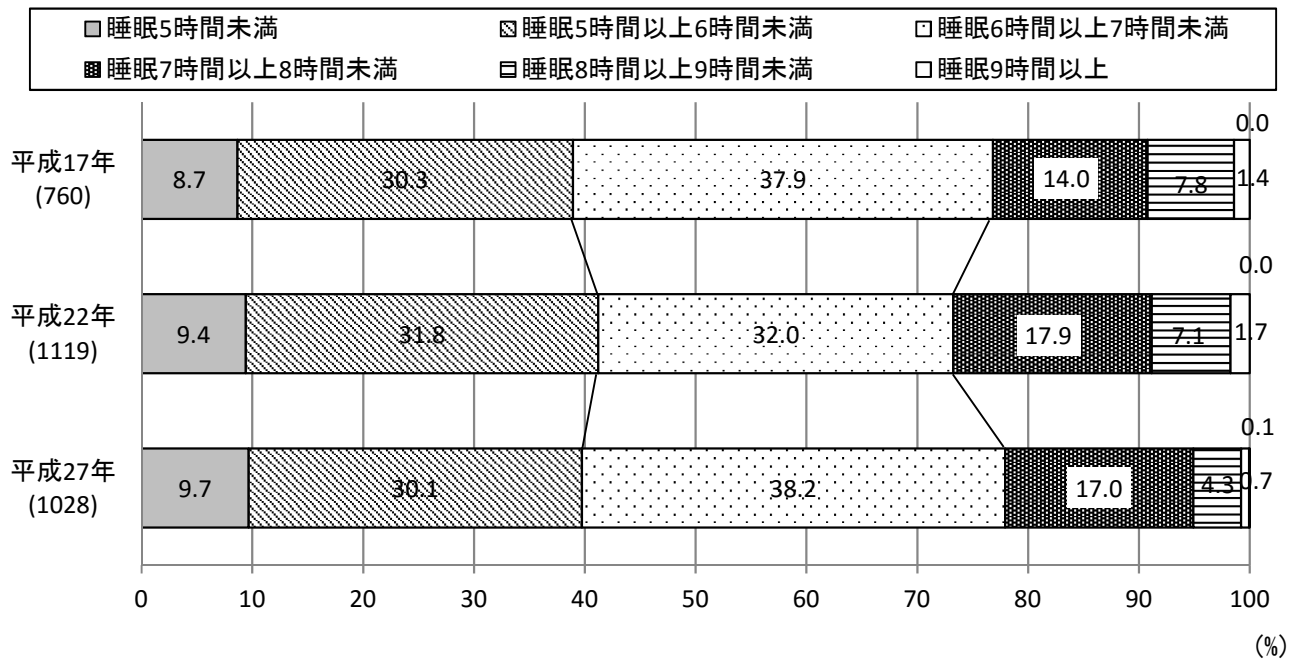


図 39-2 1日の平均睡眠時間 年次推移(20歳以上、男女計)

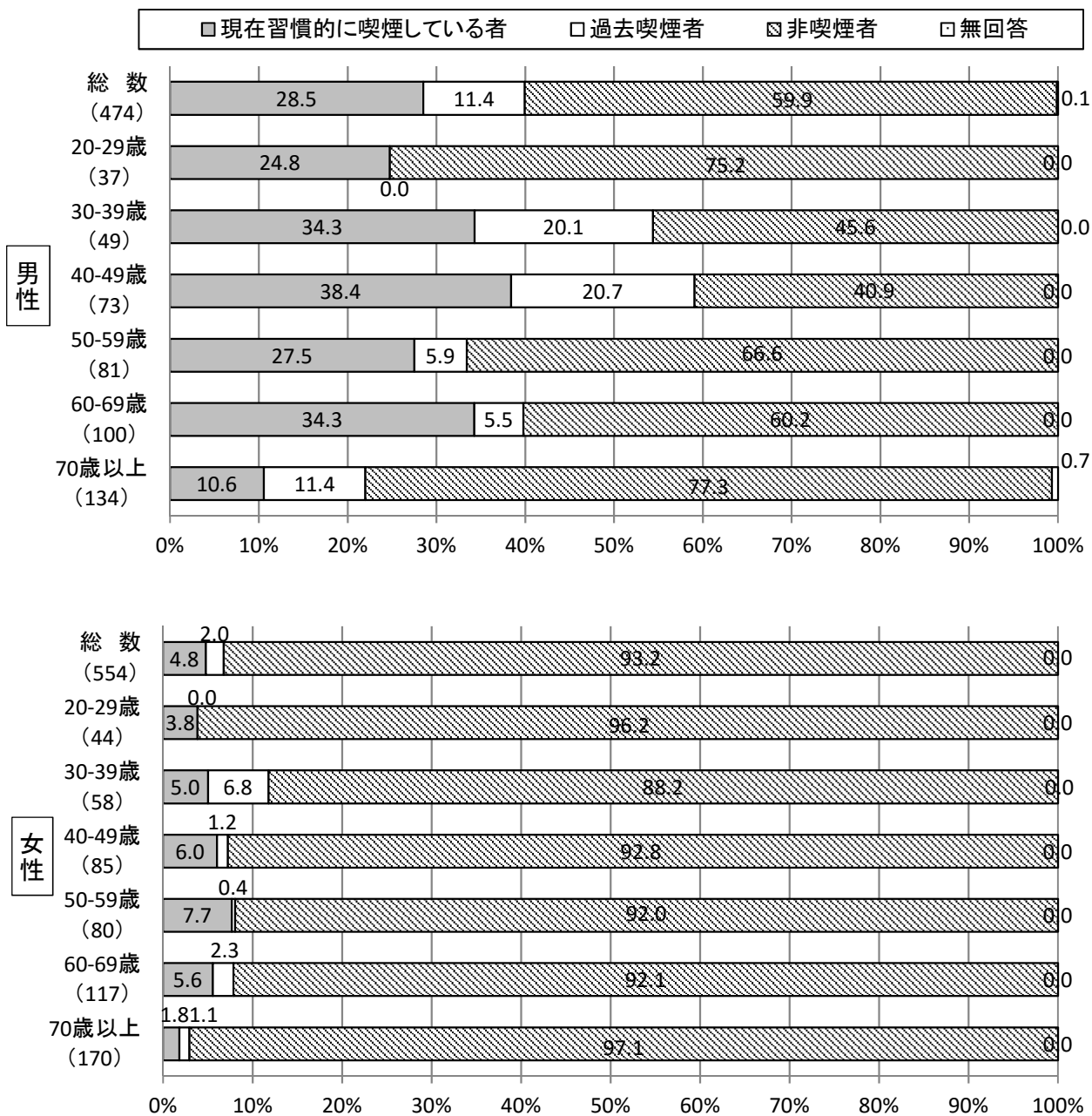


2. 喫煙の状況

現在習慣的に喫煙している者の割合は、男性 28.5%、女性 4.8%である。男性では 40 歳代で 38.4%、女性では 50 歳代で 7.7%と最も割合が高い。

平成 22 年に比べて現在喫煙者の割合は、男女共に減少し、女性は有意に減少している。

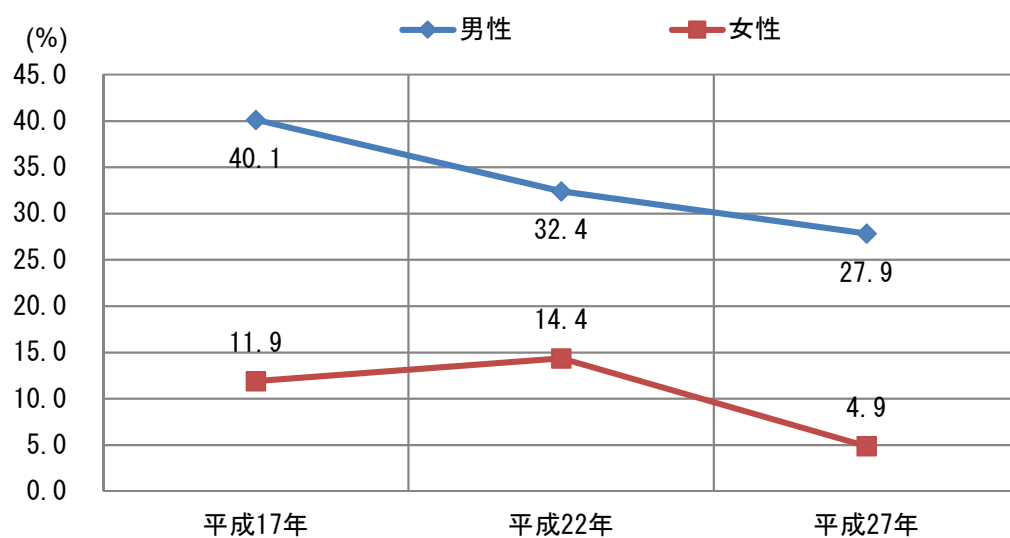
図 40-1 喫煙の状況（20 歳以上、性・年齢階級別） [問 あなたはたばこを吸いますか。]



※現在習慣的に喫煙している者とは、たばこを「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」と回答した者。

過去喫煙者とは、「以前は吸っていたが、1ヶ月以上吸っていない」と回答した者。

図 40-2 現在習慣的に喫煙している者の割合 年次推移（20 歳以上、性別）



※平成17、22年は

現在習慣的に喫煙している者：「これまで合計 100 本以上または 6 か月以上たばこを吸っている(吸っていた)」者のうち、「この 1 か月間に毎日またはとききたばこを吸っている」と回答した者。

過去習慣的に喫煙していた者：「これまで合計 100 本以上または 6 か月以上たばこを吸っている(吸っていた)」者のうち、「今は吸っていない」と回答した者。

喫煙しない者：「まったく吸ったことがない」又は「吸ったことはあるが、合計 100 本未満で 6 ヶ月未満である」と回答した者。

3. 現在習慣的に喫煙している者の喫煙本数

現在習慣的に喫煙している者における1日あたりの喫煙本数の平均値は、男性15.8本、女性14.8本である。平成22年に比べ、男女ともにほぼ横ばいである。

1日に21本以上吸う者の割合は、男性9.5%、女性16.6%である。平成22年と比べ男女ともに横ばいである。

図 41-1 現在習慣的に喫煙している者の平均喫煙本数（20歳以上、性・年齢階級別）

[問 あなたは、通常、1日何本たばこを吸いますか。]

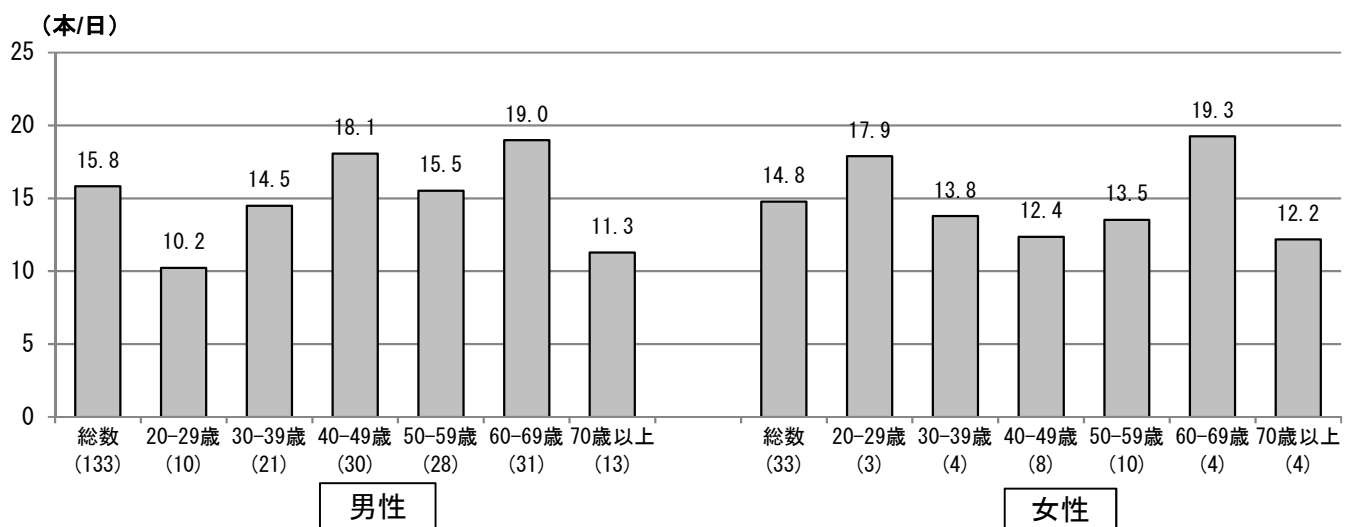


図 41-2 現在習慣的に喫煙している者の平均喫煙本数 年次推移（20歳以上、性別）

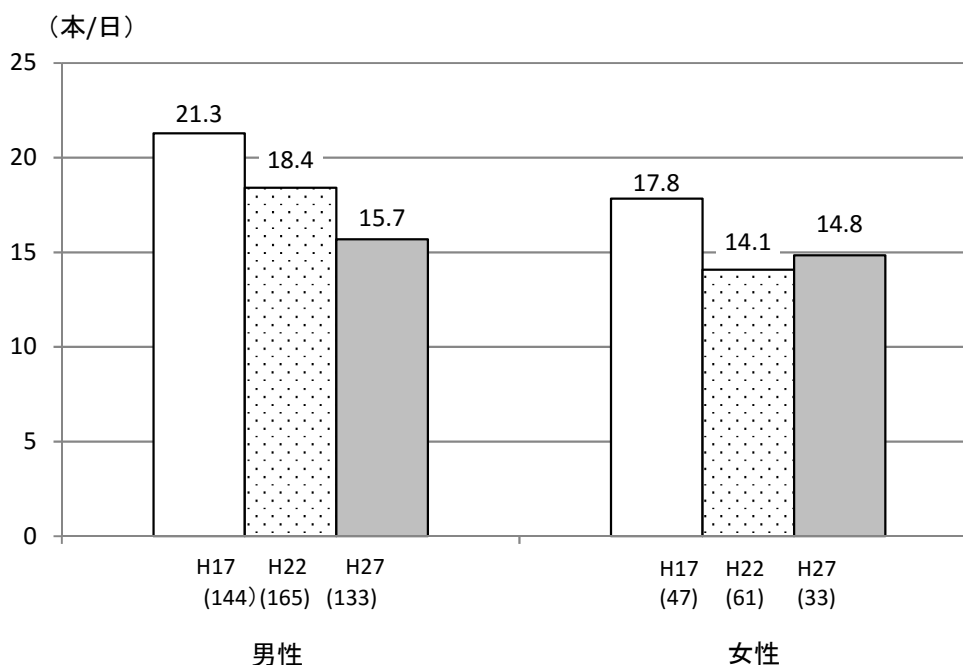


図 42-1 現在習慣的に喫煙している者の喫煙本数の分布（20 歳以上、性・年齢階級別）

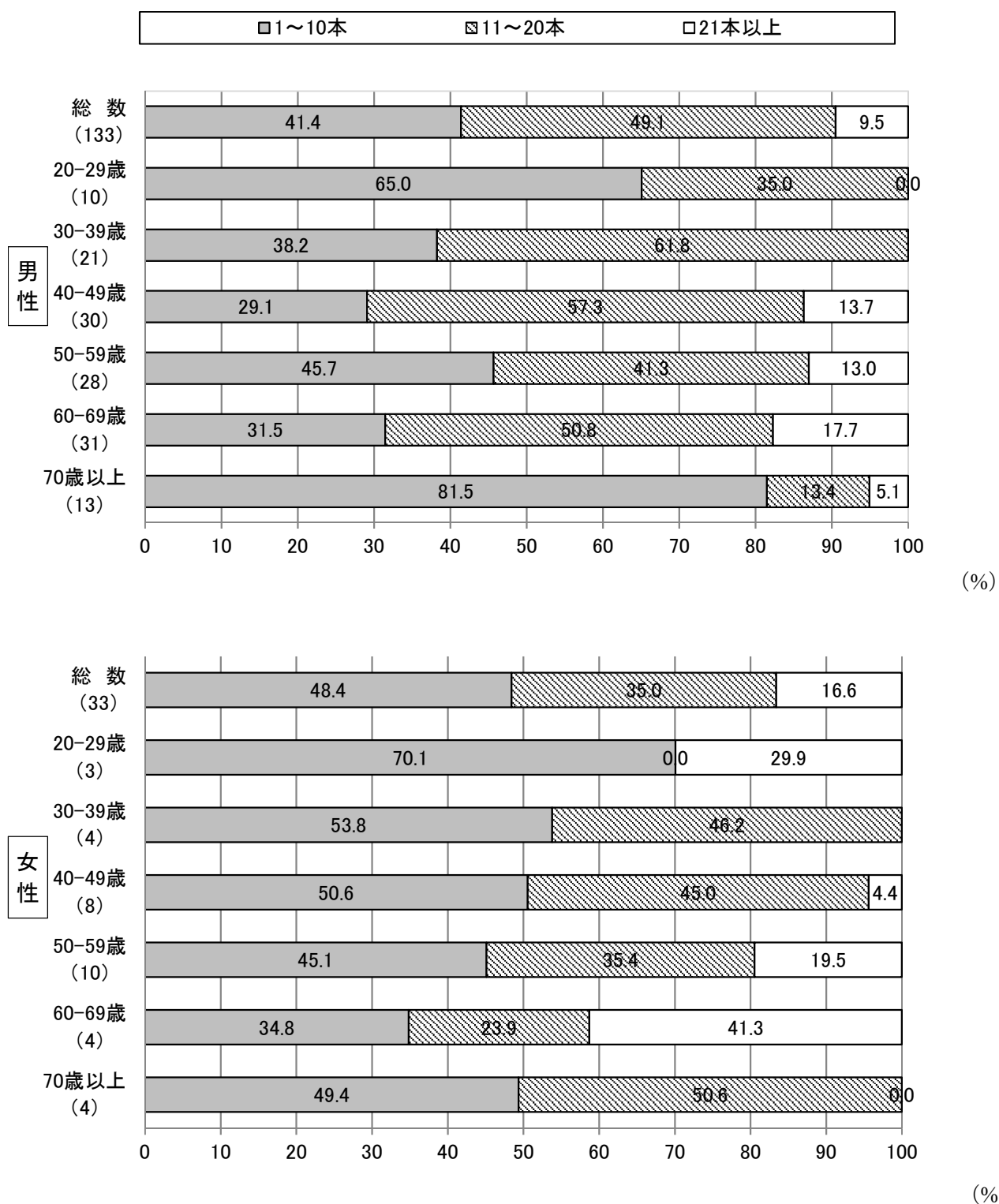
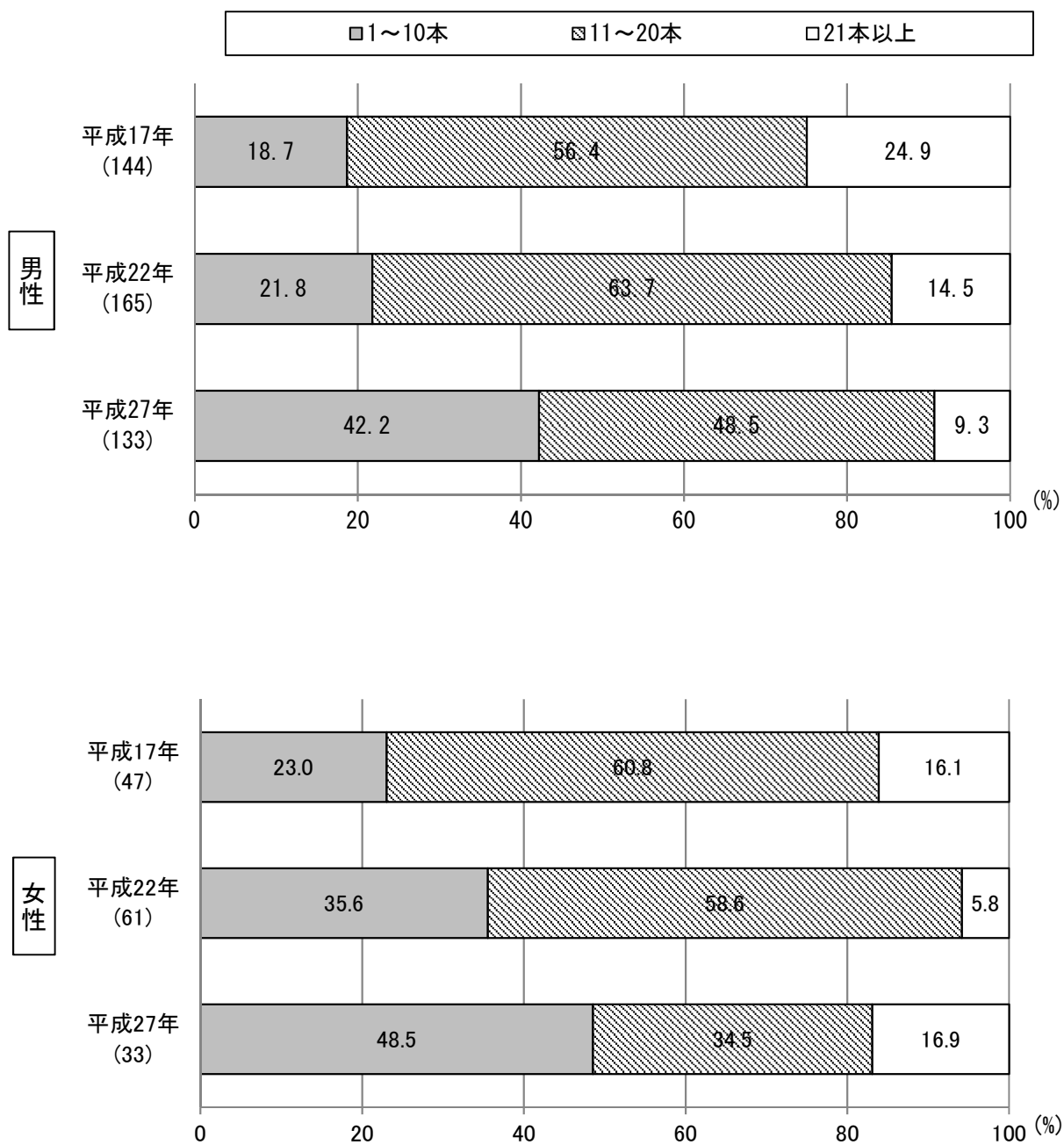


図 42-2 現在習慣的に喫煙している者の喫煙本数分布 年次推移(20 歳以上、性別)

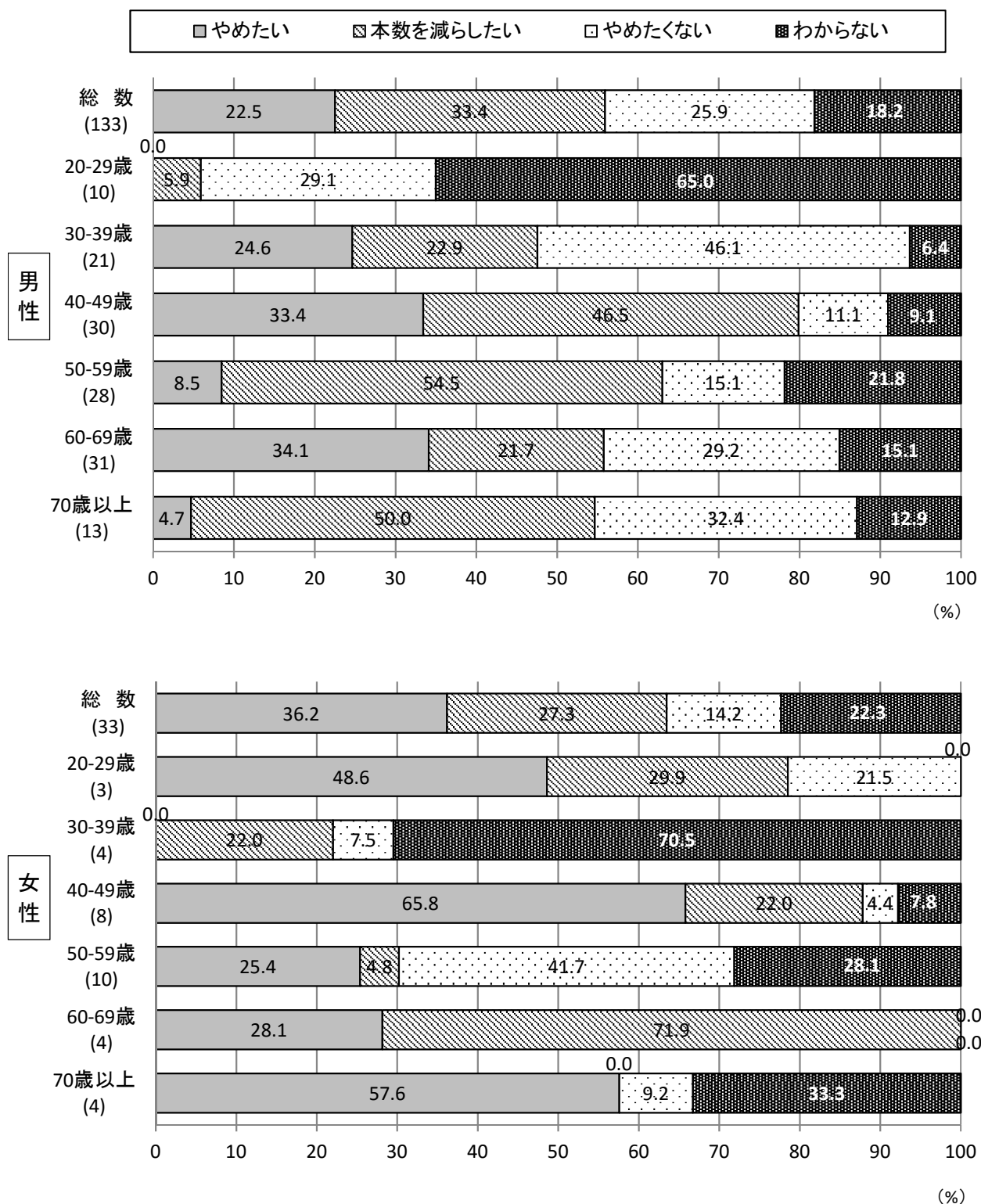


4. 現在習慣的に喫煙している者における禁煙の意思

現在習慣的に喫煙している者における禁煙の意思について、「やめたい」と回答した者は男性 22.5%で、女性 36.2%である。

図 43 現在習慣的に喫煙している者における喫煙の意思（20 歳以上、性・年齢階級別）

[問 たばこをやめたいと思いますか。]



5. 受動喫煙の環境

現在喫煙者を除き、この1ヶ月間に受動喫煙を受ける機会のあった者の割合は、男性では「飲食店」で高く、次に「遊技場」の順で高い。女性は「路上」が高く、次に「飲食店」が高い。

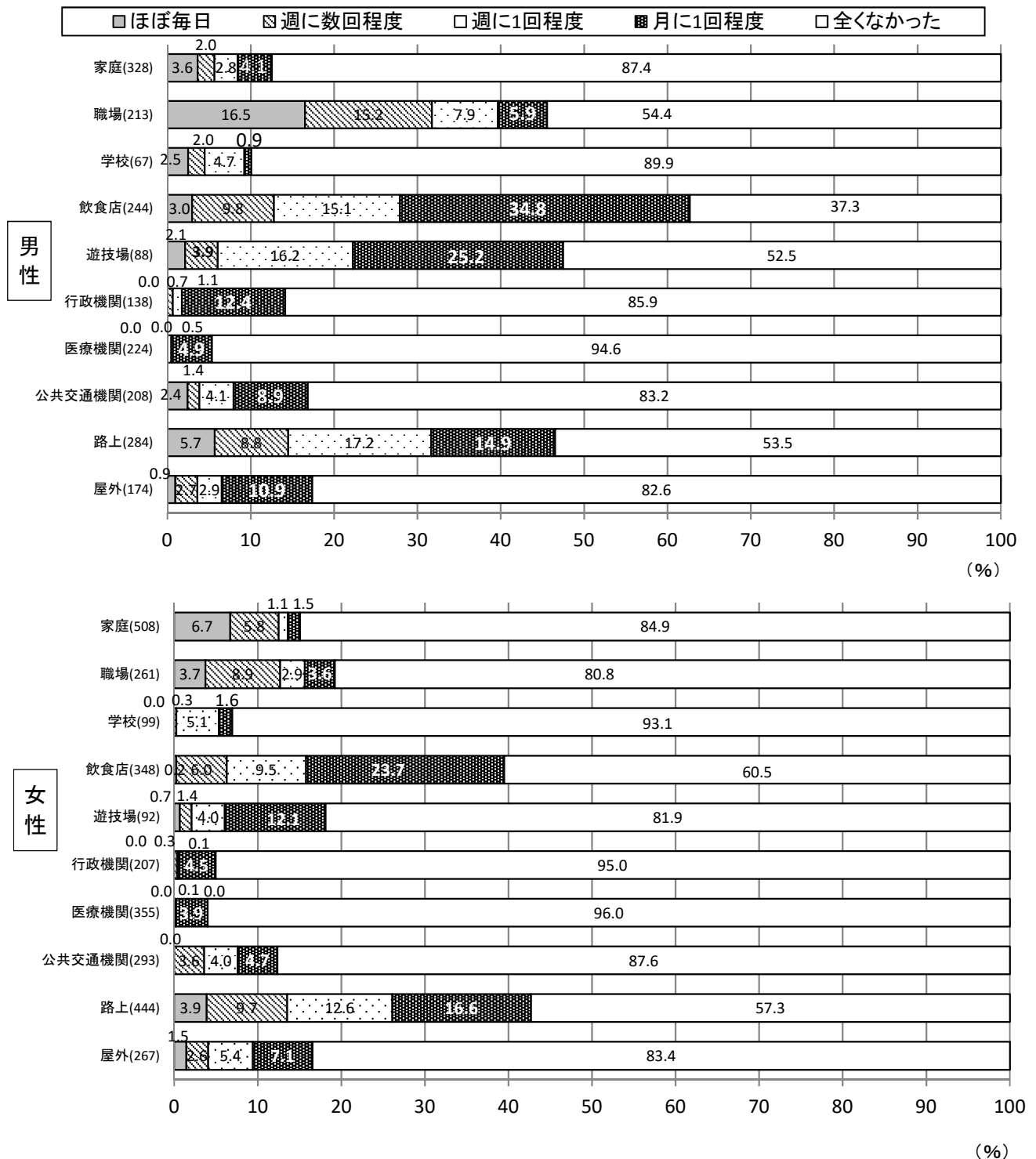
非喫煙者が受動喫煙防止対策の推進を望むのは、「路上」が最も高く、次に「飲食店」が高い。

(※「受動喫煙をうける機会のあった者」とは「月1回程度」以上の受動喫煙の機会を有する者)

図 44 受動喫煙の機会

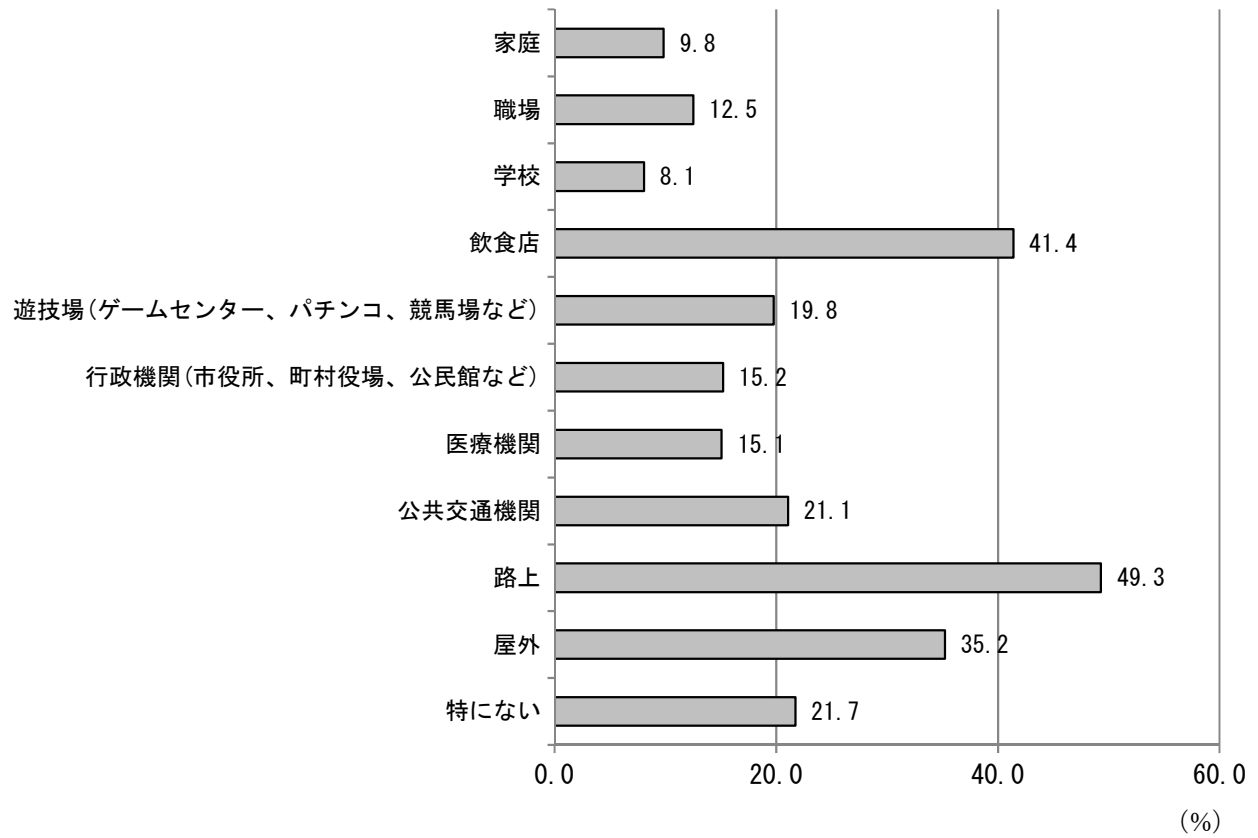
(現在喫煙者・無回答・重回答を除く、「家庭」以外は「行かなかった」を除く、20歳以上、性別)

[問 あなたはこの1ヶ月間に自分以外の人が吸っていたタバコを吸う機会(受動喫煙)がありましたか。]



※現在喫煙者: 現在習慣的に喫煙している者 ※屋外: 子供が利用する屋外の空間(講演、通学路など)

図 45 非喫煙者における受動喫煙防止対策が推進されることを望む場所



6. 歯の本数の状況

自分の歯を 20 本以上有する者の割合は、男女とも 40 歳代で 9 割を超えるが、年齢と共に減少する。

平成 22 年に比べ、60 歳（55～64 歳）で 24 本以上の歯を有する者の割合は、男女ともに高くなっており、女性は有意に高くなっている。80 歳（75～84 歳）で 20 本以上の歯を有する者の割合は、男女ともに平成 22 年に比べ有意に高い。

図 46 自分の歯を 20 本以上有する者の割合（40 歳以上、性・年齢別）

〔問 自分の歯は何本ありますか。（親知らず、入歯、ブリッジ、インプラントは含みません。

さし歯は含みます。）〕

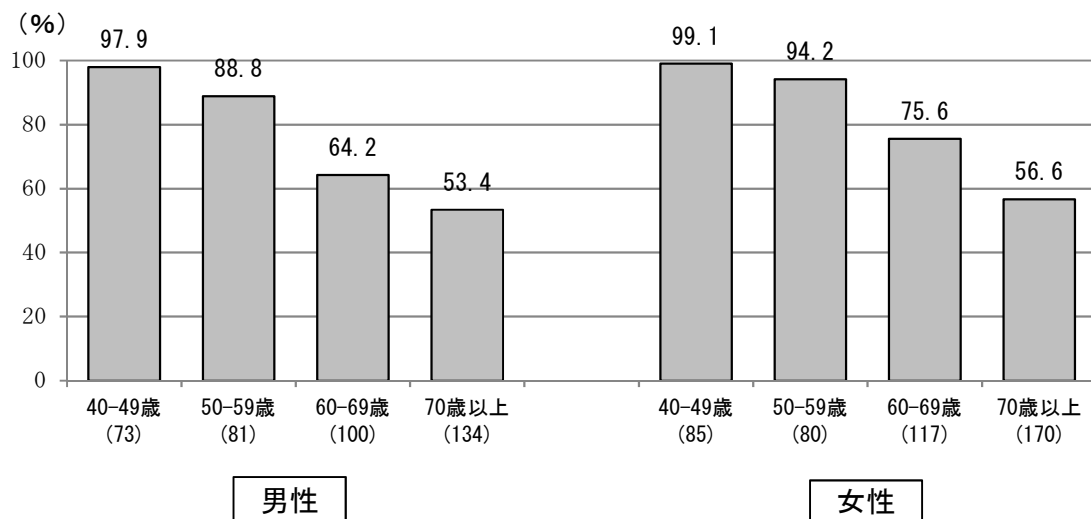
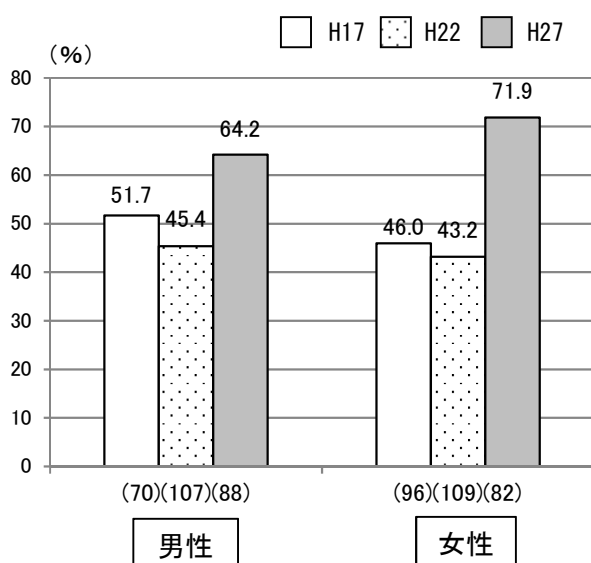
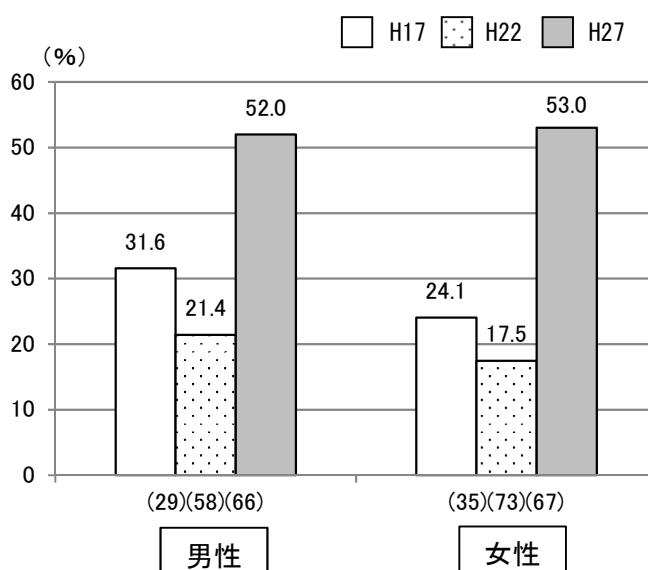


図 47 60 歳（55～64 歳）で 24 本以上、80 歳（75～84 歳）で 20 本以上の歯を有する者の割合（性別）

60 歳（55～64 歳）で 24 本以上の歯を有する者の割合



80 歳（75～84 歳）で 20 本以上の歯を有する者の割合



何でもかんで食べることができる者は、50 歳代で 8 割台になり、高齢になるほど何でもかんで食べることができる者の割合は減少している。70 歳以上では何でもかんで食べることができる者は 62.4%である。

図 48 かんで食べる時の状況(20 歳以上、男女計、年齢階級別)

[問 かんで食べる時の状態について、あてはまる番号を1つ選んでください。]

